

つながりあい、支えあうまちを目指して

地域福祉に関するアンケート

調査報告書

令和7年3月



スポーツと人情が熱いまち

江東区

目 次

I 調査概要	1
II 区民アンケート調査結果	3
1 あなたのこと（あて名の方）について（回答者属性）	3
2 近所付き合い、地域のつながりについて	8
3 地域活動について	28
4 ふだんの暮らしについて	38
5 困ったときの相談先や福祉情報の入手先について	48
6 区の地域福祉について	58
III 区民アンケート調査結果分析	59
分析1 近所の「顔も知らない人が多い」人について	59
分析2 地域貢献の意欲と地域活動について	61
分析3 孤独を感じる人について	64
分析4 相談先がわからない困りごとが「ある」人について	67
IV 団体アンケート調査結果	69
1 貴殿、貴団体の活動について	69
2 区の地域福祉についての意見・提案	71
3 区の地域福祉に関する意見・提案	84
（参考 団体アンケート意見全文）	86
調査票	129

I 調査概要

1 調査の目的

- 本調査は、第2期「江東区地域福祉計画」策定に向け、区民を対象に暮らしや地域活動の状況や考え方等を、地域活動団体や関係団体等を対象に区の地域福祉に関する現状や取組に対する意見等をそれぞれ伺い、計画に反映することを目的に実施しました。

2 調査の実施概要

A 区民調査

項目	概要
調査対象	3,000 人（18 歳以上の区内在住者から無作為抽出）
調査方法	配付方法：自宅への調査票郵送 ※調査期間中、督促ハガキ送付 回答方法：Web 回答、郵送提出（いずれか 1 つを選択）
調査実施期間	令和 6 年 9 月 30 日（月）～10 月 18 日（金） ※最終受取 11 月 6 日（水）
回答数	1,179 人（回答率 39.3%）
結果の理論値	調査結果は母集団（18 歳以上の区民 約 464,000 人）に対する統計上の一般的な要件（信頼度 95%等）を備えている。 理論上の最大誤差範囲は±2.9。（例えば、ある選択肢の調査結果が 50.0%の場合、母集団では 47.1%～52.9%の範囲と推定される。）
調査項目	1 あなたのこと（あて名の方）について（回答者属性） 2 近所付き合い、地域のつながりについて 3 地域活動について 4 ふだんの暮らしについて 5 困ったときの相談先や福祉情報の入手先について 6 区の地域福祉について（意見・提案）

B 団体調査

項目	概要
調査対象	地域福祉分野において区内で活動する団体等 69 件
調査方法	配付方法：自宅への調査票郵送、メール送付 回答方法：Web 回答、郵送提出（いずれか 1 つを選択）
調査実施期間	令和 6 年 10 月 1 日（火）～10 月 18 日（金）※最終受取 11 月 6 日（水）
回答数	40 件（回答率 58.0%）
調査項目	1 貴殿、貴団体の活動について 2 区の地域福祉についての意見・提案 3 区の地域福祉に関する意見・提案

3 調査結果の読み方

- 「調査結果」の図表は、回答者の構成比（百分率＝％）を示しています。
- 図表上の「回答者」は、構成比算出の母数（人数）を示しています。回答者を限定する設問（前問に答えた人のみが回答する等）は当該設問の「回答者」となります。
- 構成比による集計は、当該設問の回答者を 100％として算出し、本文及び図表の数字は小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位で示しています。なお、四捨五入の関係で選択肢比率の合計が 100％にならない場合、複数回答の設問では選択肢比率の合計が 100％を超える場合があります。
- 図表中の「0.0」は、四捨五入の結果又は回答がないことを示しています。
- クロス集計は「無回答」等を非表示としているため、属性別の合計が回答者と異なる場合、また、選択肢比率の合計が 100％にならない場合があります。
- 回答者の少ないデータ（限定設問の回答、クロス集計の属性別結果）は統計的誤差が大きい場合もあるため、数値の取り扱いに留意する必要があります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文及び図表で省略している場合があります。

【令和 3 年区民アンケートの結果掲載について】

- 令和 3 年区民アンケートと同じ設問は令和 6 年と令和 3 年の結果を掲載しています。

令和 3 年区民アンケートの実施概要

対 象	配付数	回答数（回答率）	最大誤差範囲	調査実施期間
区民	3,000 人	1,633 人（54.4％）	±2.4	令和 3 年 1～2 月

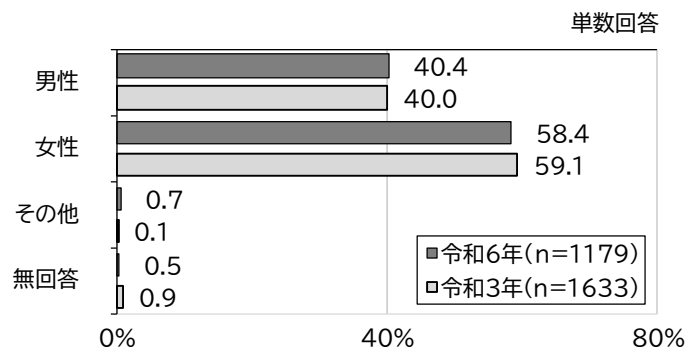
※注 令和 3 年にない設問や選択肢が異なり比較が困難な設問は令和 3 年結果を掲載していません。

Ⅱ 区民アンケート調査結果

1 あなたのこと（あて名の方）について（回答者属性）

問1 あなたの性別（あなたの現在の性自認でお答えください）（○は1つ）

- 性別（問1）について、「男性」は40.4%、「女性」は58.4%、「その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）」は0.7%となっています。
- 令和3年から変化がみられた項目（理論上の誤差を考慮して5ポイント以上の差）はありません。
- 実際（令和6年10月1日時点）の18歳以上人口の男女比は「男性」48.7%、「女性」51.3%であることから、今回の調査結果は、前回調査と同様に女性の意見がやや強く反映されていると考えられます。

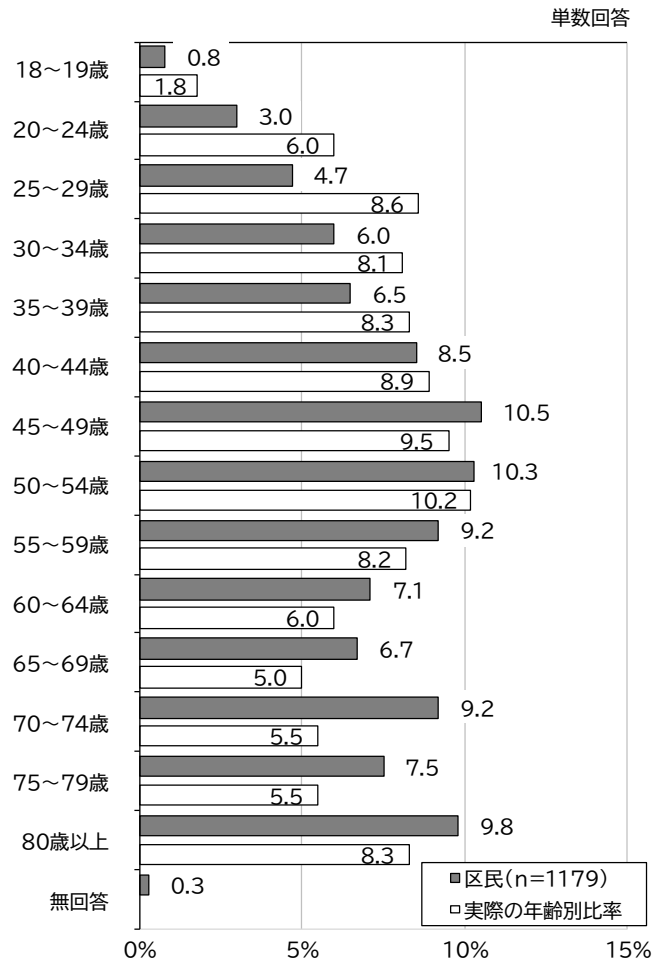


※「その他」の選択肢は性的マイノリティの人に配慮したものです。

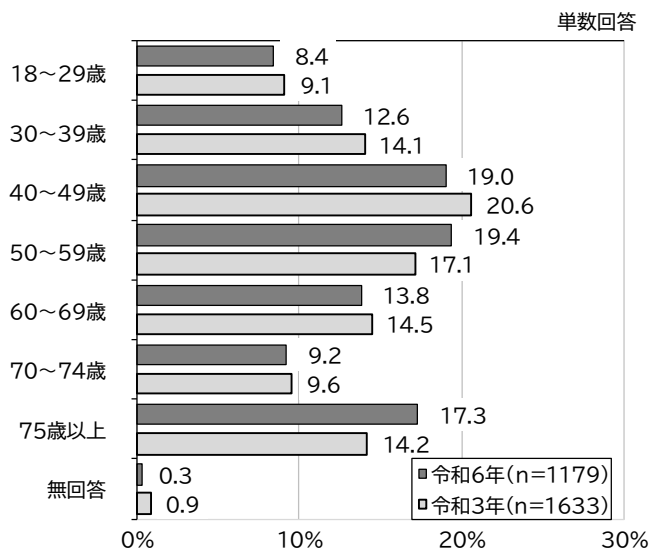
Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 2 あなたの年齢（令和6年10月1日時点）（○は1つ）

- 年齢（問2）について、「45～49歳」と「50～54歳」が10%台と高く、「55～59歳」、「70～74歳」、「80歳以上」が9%台で続いています。
- 実際（令和6年10月1日時点）の18歳以上の年齢別比率と比較すると、回答者割合は「40～44歳」以下は実際より低く、「45～49歳」以上は実際より高いことから、今回の調査結果は「45～49歳」以上の意見がやや強く反映されていると考えられます。



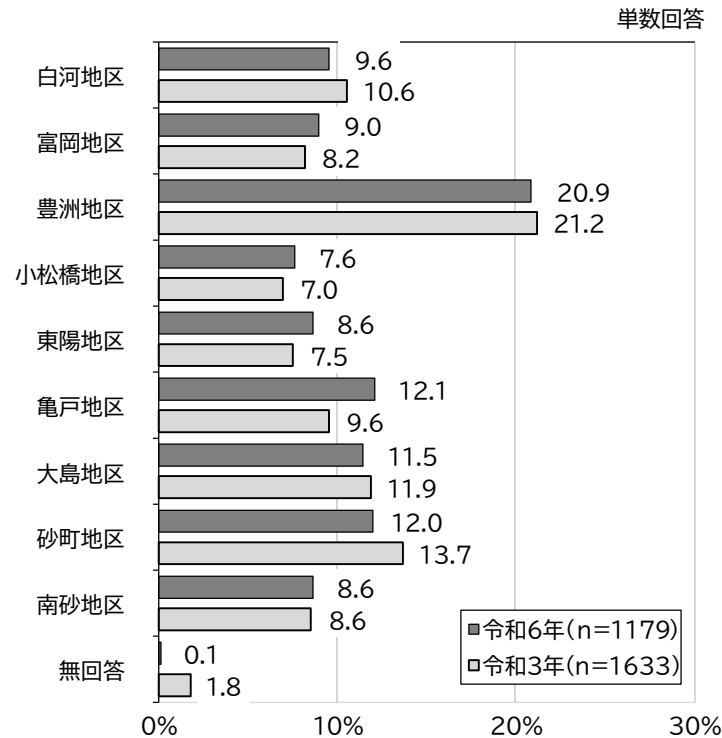
- 年齢階級を統合して令和3年と比較してみると、変化がみられた項目（標本誤差を考慮して5ポイント以上の差）はありません。



Ⅱ 区民アンケート調査結果

問3 お住まいの地区（地区番号を○で囲んでください）（○は1つ）

- 居住地区（問3）について、「豊洲地区」が20.9%と最も高く、次いで「亀戸地区」が12.1%、「砂町地区」が12.0%となっています。
- 令和3年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して5ポイント以上の差）はありません。



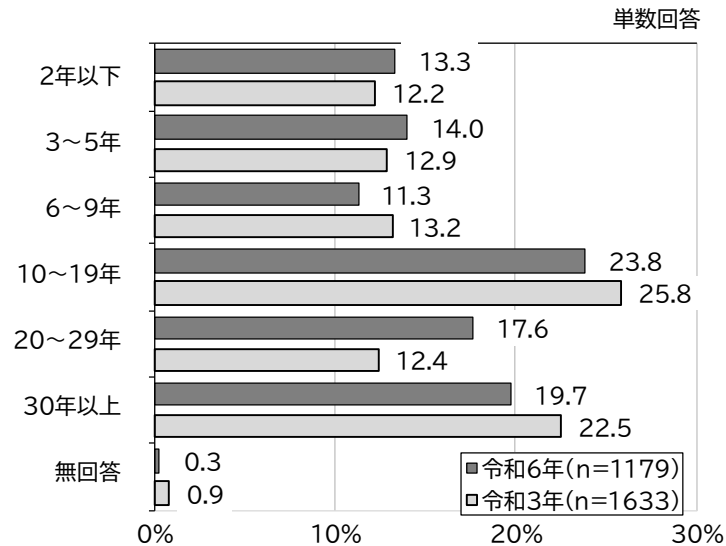
■地区詳細

白河地区	清澄、常盤、新大橋、森下、平野、三好、白河、高橋
富岡地区	佐賀、永代、福住、深川、冬木、門前仲町、富岡、牡丹、古石場、越中島
豊洲地区	塩浜、枝川、豊洲、東雲、有明、辰巳、潮見、青海
小松橋地区	千石、石島、千田、海辺、扇橋、猿江、住吉、毛利
東陽地区	木場、東陽、南砂二丁目1番1号～5号、5～7番
亀戸地区	亀戸全区域
大島地区	大島全区域
砂町地区	北砂全区域、東砂一～五丁目、南砂一丁目、南砂二丁目24番～34番、南砂五丁目
南砂地区	東砂六～八丁目、南砂二丁目（1番1号～5号、5番～7番、24番～34番を除く）、南砂三・四・六・七丁目、新砂一丁目（1番を除く）、新砂二・三丁目、新木場

Ⅱ 区民アンケート調査結果

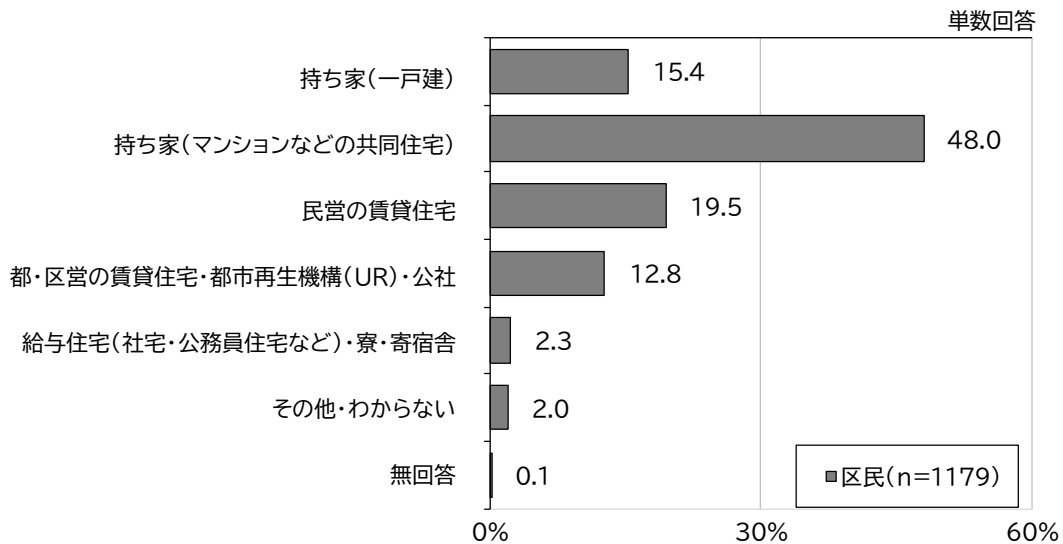
問 4 現在のお住まいの居住歴（○は1つ）

- 居住年数（問4）について、「10～19年」が23.8%と最も高く、次いで「30年以上」が19.7%、「20～29年」が17.6%となっています。
- 令和3年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して5ポイント以上の差）は、「20～29年」が5.2ポイント上昇しました。



問 5 お住まいの形態（○は1つ）

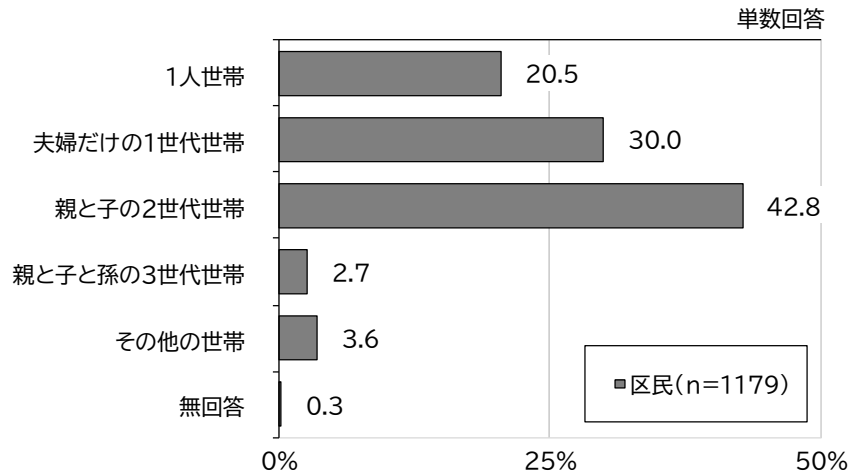
- 住居の種類（問5）について、「持ち家（マンションなどの共同住宅）」が48.0%と最も高く、次いで「民営の賃貸住宅」が19.5%、「持ち家（一戸建）」が15.4%となっています。



Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 6 あなたの世帯構成（○は1つ）

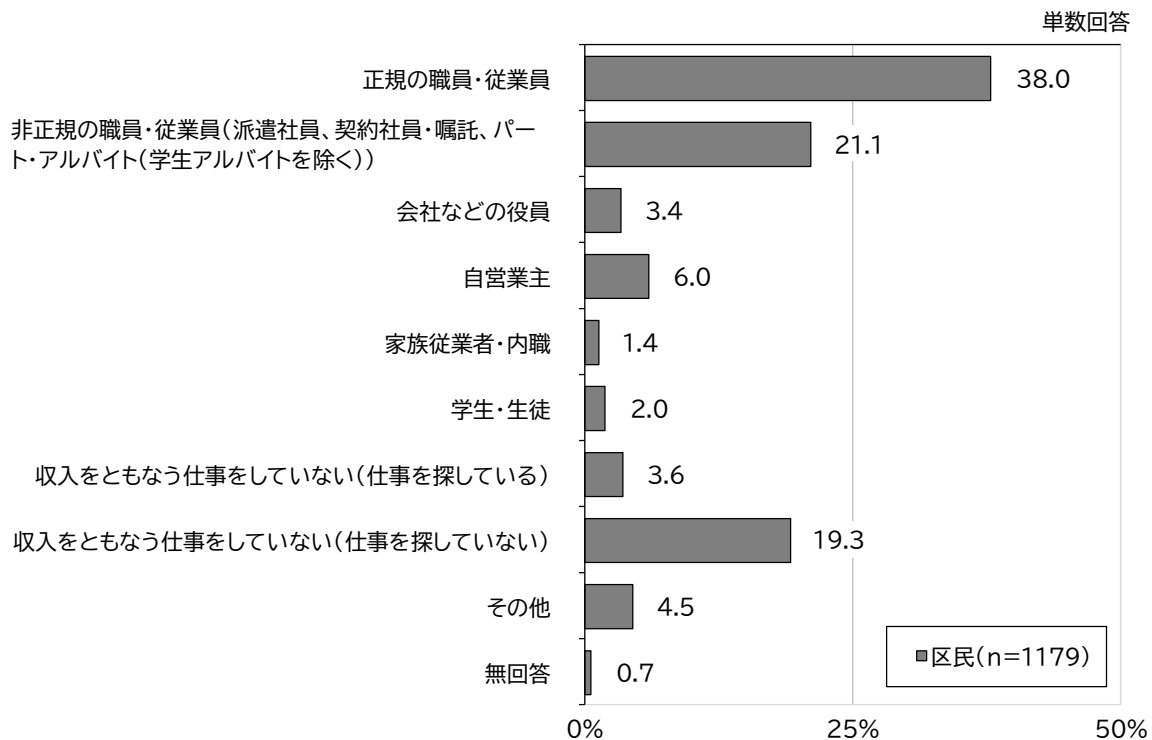
- 世帯構成（問6）について、「親と子の2世代世帯」が42.8%と最も高く、次いで「夫婦だけの1世代世帯」が30.0%、「1人世帯」が20.5%となっています。



問 7 あなたの働き方（○は1つ）

（※複数の仕事に従事している場合は、一番長い時間している仕事を選んでください）

- 働き方・仕事（問7）について、「正規の職員・従業員」が38.0%と最も高く、次いで「非正規の職員・従業員（派遣社員、契約社員・嘱託、パート・アルバイト（学生アルバイトを除く））」が21.1%、「収入をとまなう仕事をしていない（仕事を探していない）」が19.3%となっています。

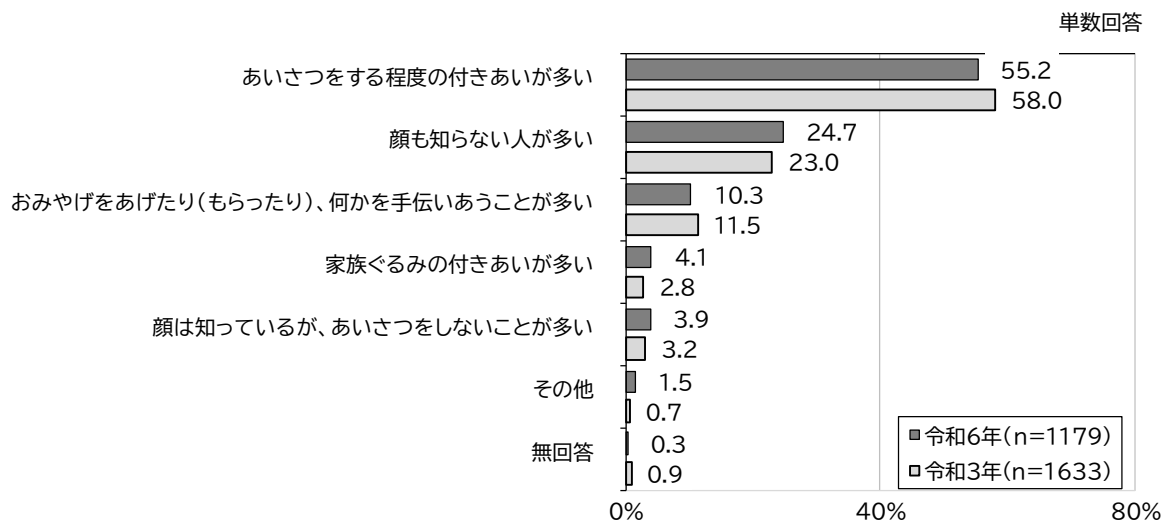


2 近所付き合い、地域のつながりについて

※問8～問32は設問毎に見開きページで全体結果グラフとクロス集計表を掲載しています。

問8 ご近所の方とは、主にどのような付き合い方をしていますか（多いですか）。（○は1つ）

- 近所との付き合い方（問8）について、「あいさつをする程度の付き合いが多い」が55.2%と最も高く、次いで「顔も知らない人が多い」が24.7%、「おみやげをあげたり（もらったり）、何かを手伝いあうことが多い」が10.3%となっています。
- 令和3年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して5ポイント以上の差）はありません。



■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「あいさつをする程度の付き合いが多い」が高くなっています。
- 「顔も知らない人が多い」は、18～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳が高く、その中で25～29歳は60%台と特に高くなっています。居住地区では概ね10～20%台です。その中で豊洲地区は30%台と高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

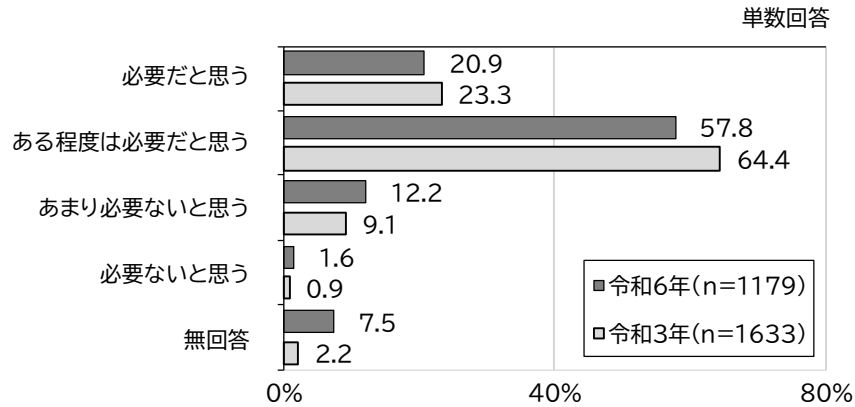
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	家族ぐるみの 付きあいが多 い	おみやげをあ げたり（も らったり）、 何かを手伝い あうことが多 い	あいさつをす る程度の付き あいが多	顔は知ってい るが、あいさ つをしないこ とが多い	顔も知らない 人が多い	その他
性別（自認）	男性	476	3.8	9.2	52.1	4.6	27.7	2.3
	女性	689	4.2	11.2	56.9	3.5	23.1	0.9
	その他	8	12.5	0.0	87.5	0.0	0.0	0.0
年齢	18～19歳	9	11.1	0.0	44.4	0.0	44.4	0.0
	20～24歳	35	5.7	2.9	34.3	8.6	48.6	0.0
	25～29歳	55	1.8	0.0	23.6	7.3	67.3	0.0
	30～34歳	71	2.8	0.0	43.7	7.0	46.5	0.0
	35～39歳	77	3.9	7.8	54.5	5.2	28.6	0.0
	40～44歳	100	4.0	5.0	53.0	11.0	27.0	0.0
	45～49歳	124	4.8	10.5	60.5	0.0	24.2	0.0
	50～54歳	121	3.3	6.6	59.5	3.3	27.3	0.0
	55～59歳	108	3.7	8.3	62.0	3.7	21.3	0.9
	60～64歳	84	1.2	14.3	64.3	3.6	14.3	2.4
	65～69歳	79	2.5	13.9	67.1	1.3	13.9	1.3
	70～74歳	109	1.8	19.3	55.0	1.8	16.5	4.6
	75～79歳	88	4.5	14.8	60.2	3.4	13.6	2.3
	80歳以上	116	10.3	19.8	50.9	1.7	10.3	6.0
居住地区	白河地区	113	2.7	9.7	59.3	4.4	23.0	0.9
	富岡地区	106	2.8	10.4	59.4	4.7	21.7	0.9
	豊洲地区	247	5.3	7.7	49.8	3.6	32.8	0.4
	小松橋地区	90	4.4	8.9	56.7	4.4	22.2	1.1
	東陽地区	101	2.0	11.9	54.5	4.0	27.7	0.0
	亀戸地区	143	3.5	13.3	50.3	3.5	25.9	3.5
	大島地区	135	3.7	10.4	51.9	3.7	26.7	3.7
	砂町地区	142	4.2	13.4	62.0	4.9	13.4	2.1
	南砂地区	101	6.9	8.9	61.4	2.0	19.8	1.0

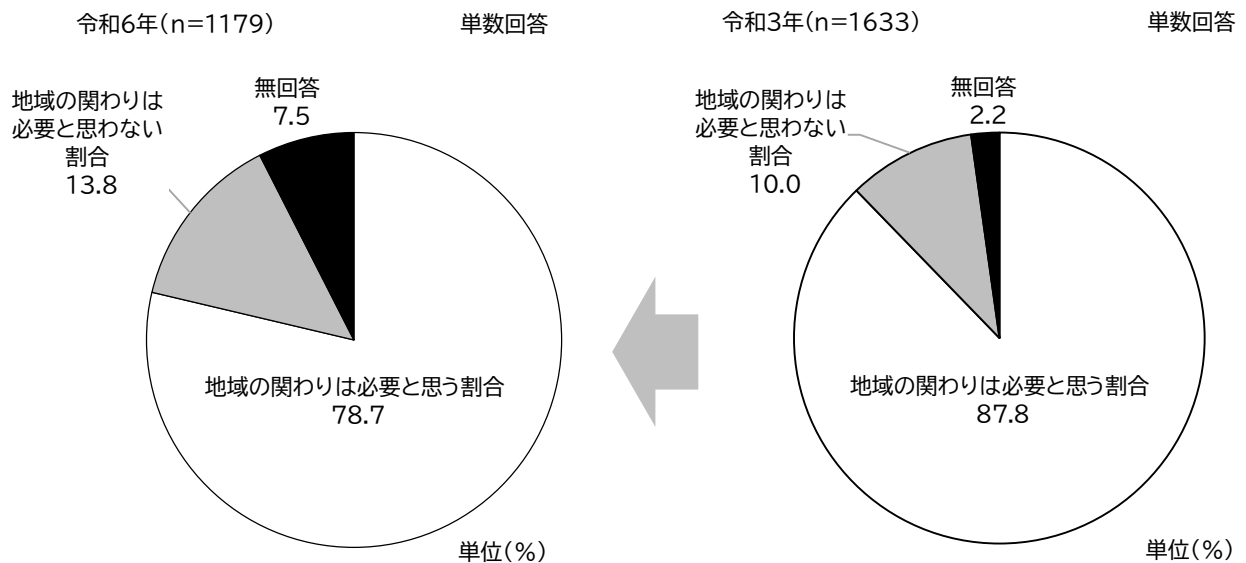
Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 9 暮らしていく上で、近所や地域との関わりは必要だと思いますか。（○は1つ）

- 近所や地域との関わりの必要性（問9）について、「ある程度は必要だと思う」が57.8%と最も高く、次いで「必要だと思う」が20.9%、「あまり必要ないと思う」が12.2%となっています。
- 令和3年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して5ポイント以上の差）は、「ある程度は必要だと思う」が6.6ポイント低下しました。



- 地域の関わりは必要と思う割合（「必要だと思う」＋「ある程度は必要だと思う」の合計）は78.7%、地域の関わりは必要と思わない割合（「あまり必要ないと思う」＋「必要ないと思う」の合計）は13.8%となっています。
- 令和3年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して5ポイント以上の差）は、地域の関わりは必要と思う割合（「必要だと思う」＋「ある程度は必要だと思う」の合計）が9.1ポイント低下しました。



Ⅱ 区民アンケート調査結果

■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「ある程度は必要だと思う」が高くなっています。
- 「あまり必要ないと思う」は、性別その他、18～19歳が高くなっています。

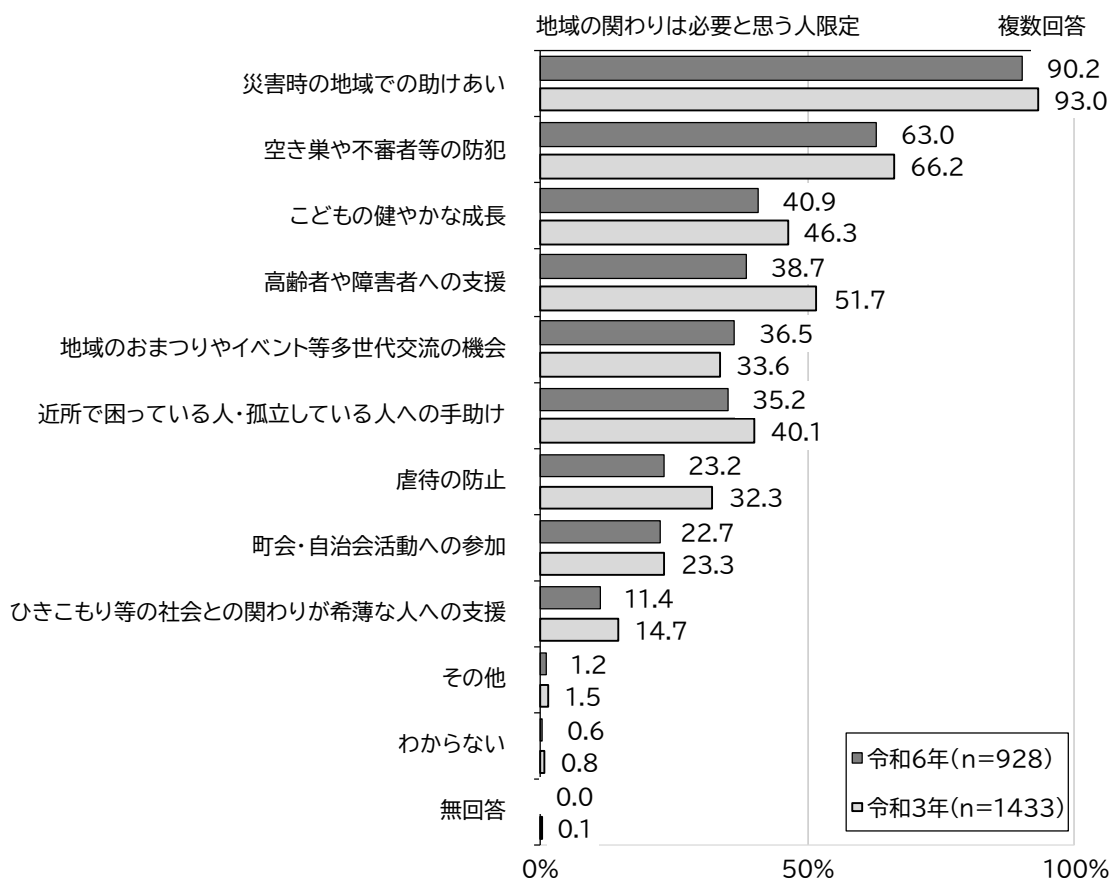
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

	%	合計(n)	必要だと思う	ある程度は必要だと思う	あまり必要ないと思う	必要ないと思う
性別（自認）	男性	476	22.3	53.6	16.8	2.5
	女性	689	19.7	61.2	8.9	0.9
	その他	8	25.0	37.5	37.5	0.0
年齢	18～19歳	9	22.2	33.3	44.4	0.0
	20～24歳	35	11.4	42.9	31.4	8.6
	25～29歳	55	7.3	54.5	36.4	0.0
	30～34歳	71	11.3	60.6	23.9	1.4
	35～39歳	77	11.7	64.9	13.0	2.6
	40～44歳	100	18.0	63.0	12.0	2.0
	45～49歳	124	16.9	63.7	11.3	1.6
	50～54歳	121	15.7	62.8	9.9	1.7
	55～59歳	108	18.5	68.5	7.4	0.9
	60～64歳	84	26.2	59.5	11.9	0.0
	65～69歳	79	24.1	59.5	8.9	0.0
	70～74歳	109	22.0	51.4	9.2	0.9
	75～79歳	88	35.2	43.2	5.7	3.4
	80歳以上	116	38.8	47.4	3.4	1.7
居住地区	白河地区	113	19.5	58.4	10.6	1.8
	富岡地区	106	34.9	50.9	6.6	1.9
	豊洲地区	247	17.4	58.7	15.4	1.2
	小松橋地区	90	16.7	66.7	7.8	3.3
	東陽地区	101	20.8	66.3	10.9	0.0
	亀戸地区	143	16.8	60.1	14.0	0.7
	大島地区	135	17.8	54.1	17.8	3.7
	砂町地区	142	26.8	52.1	11.3	1.4
	南砂地区	101	21.8	56.4	8.9	1.0

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 10 問 9 で「1」または「2」（必要だと思う）と回答した方におたずねします。
 どのようなことに近所や地域との関わりの必要を感じますか。（〇はいくつでも）

- （地域の関わりは必要と思う人）近所や地域との関わりが必要な事柄（問 10）について、「災害時の地域での助けあい」が 90.2%と最も高く、次いで「空き巣や不審者等の防犯」が 63.0%、「こどもの健やかな成長」が 40.9%となっています。
- 令和 3 年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して 5 ポイント以上の差）は、「高齢者や障害者への支援」が 13.0 ポイント低下、「虐待の防止」が 9.1 ポイント低下、「こどもの健やかな成長」が 5.4 ポイント低下しました。



■ 属性別の主な傾向

- 全ての属性で「災害時の地域での助けあい」が最も高くなっています。性別その他では「空き巣や不審者等の防犯」も高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

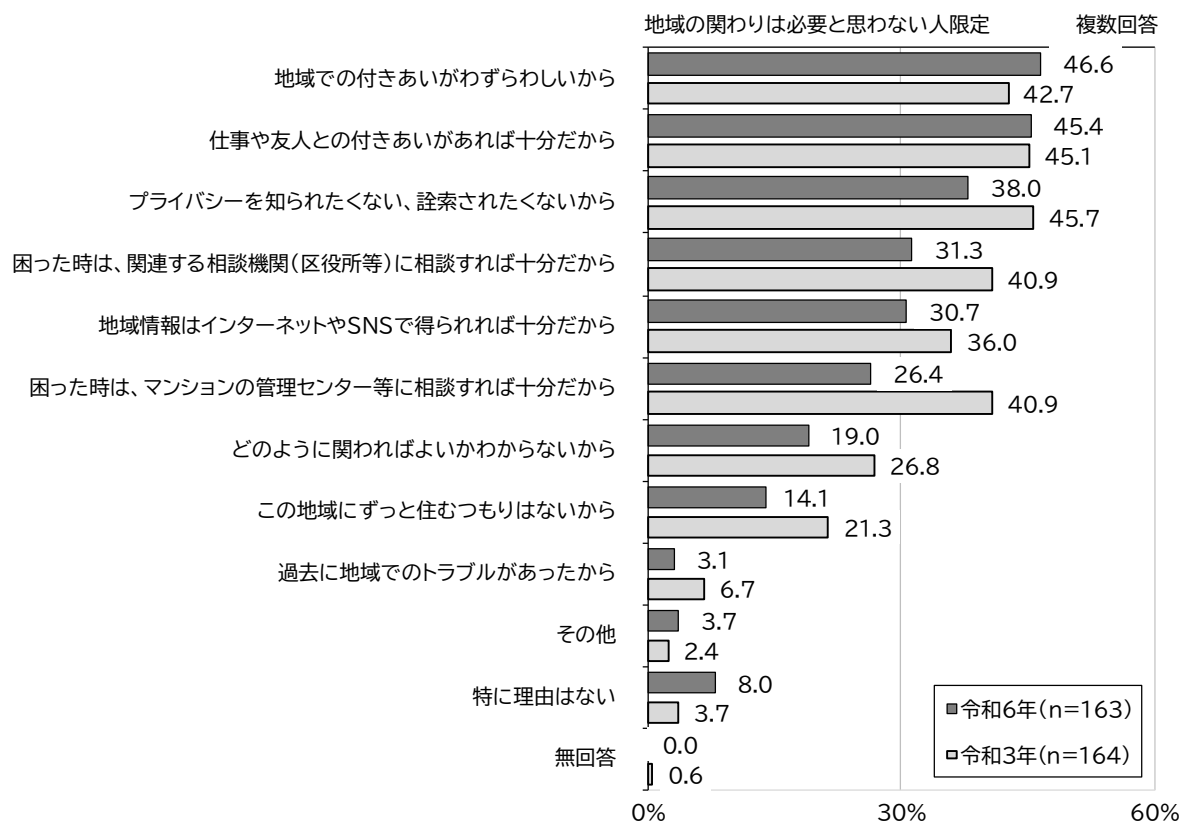
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	災害時の地域での助けあい	空き巣や不審者等の防犯	ひきこもり等の社会との関わりが希薄な人への支援	虐待の防止	高齢者や障害者への支援	こどもの健やかな成長	近所で困っている人・孤立している人への手助け	地域のおまつりやイベント等多世代交流の機会	町会・自治会活動への参加	その他	わからない
性別（自認）	男性	361	88.9	62.9	11.4	18.8	36.0	39.6	31.0	36.3	23.3	0.8	0.3
	女性	558	91.0	62.7	11.1	26.0	40.1	41.9	37.6	36.7	22.4	1.4	0.9
年齢	その他	5	100.0	100.0	40.0	20.0	60.0	40.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	18～19歳	5	80.0	40.0	20.0	20.0	40.0	20.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
	20～24歳	19	73.7	57.9	10.5	36.8	36.8	36.8	31.6	26.3	0.0	0.0	0.0
	25～29歳	34	82.4	44.1	5.9	32.4	17.6	44.1	32.4	47.1	11.8	0.0	0.0
	30～34歳	51	82.4	51.0	5.9	25.5	15.7	62.7	31.4	31.4	11.8	2.0	2.0
	35～39歳	59	88.1	67.8	5.1	16.9	22.0	61.0	39.0	44.1	11.9	1.7	0.0
	40～44歳	81	90.1	65.4	7.4	25.9	27.2	60.5	32.1	54.3	16.0	2.5	0.0
	45～49歳	100	86.0	65.0	14.0	32.0	32.0	50.0	40.0	40.0	16.0	2.0	1.0
	50～54歳	95	92.6	63.2	8.4	23.2	34.7	41.1	35.8	36.8	15.8	1.1	0.0
	55～59歳	94	94.7	74.5	12.8	28.7	58.5	43.6	42.6	28.7	19.1	0.0	1.1
	60～64歳	72	91.7	66.7	23.6	33.3	56.9	44.4	48.6	43.1	26.4	2.8	2.8
	65～69歳	66	93.9	66.7	13.6	19.7	40.9	27.3	31.8	31.8	33.3	0.0	0.0
	70～74歳	80	97.5	61.3	8.8	16.3	50.0	27.5	28.7	30.0	25.0	0.0	0.0
	75～79歳	69	89.9	63.8	11.6	14.5	46.4	29.0	33.3	37.7	36.2	1.4	0.0
居住地区	80歳以上	100	90.0	55.0	14.0	11.0	41.0	17.0	26.0	26.0	44.0	1.0	1.0
	白河地区	88	92.0	63.6	13.6	25.0	39.8	52.3	39.8	46.6	28.4	2.3	1.1
	富岡地区	91	90.1	68.1	12.1	25.3	47.3	41.8	44.0	40.7	36.3	0.0	1.1
	豊洲地区	188	91.5	56.4	11.7	28.2	35.1	45.2	36.2	35.1	20.2	1.1	0.0
	小松橋地区	75	89.3	61.3	12.0	21.3	37.3	41.3	29.3	36.0	21.3	0.0	0.0
	東陽地区	88	90.9	68.2	13.6	33.0	36.4	43.2	35.2	44.3	22.7	0.0	0.0
	亀戸地区	110	85.5	63.6	9.1	19.1	35.5	35.5	30.9	34.5	21.8	1.8	1.8
	大島地区	97	89.7	60.8	8.2	14.4	39.2	29.9	26.8	24.7	18.6	0.0	2.1
	砂町地区	112	93.8	68.8	12.5	21.4	38.4	38.4	36.6	36.6	17.9	0.9	0.0
	南砂地区	79	87.3	62.0	10.1	16.5	44.3	39.2	38.0	32.9	21.5	5.1	0.0

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 11 問 9 で「3」または「4」（必要ないと思う）と回答した方におたずねします。
近所や地域との関わりの必要を感じない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

- （地域の関わりは必要と思わない人）近所や地域との関わりの必要性を感じない理由（問 11）について、「地域での付き合いがわずらわしいから」が 46.6%と最も高く、次いで「仕事や友人との付き合いがあれば十分だから」が 45.4%、「プライバシーを知られたくない、詮索されたくないから」が 38.0%となっています。
- 多くの項目で令和 3 年から低下した（標本誤差を考慮して 5 ポイント以上の差）中、「特に理由はない」が 4.3 ポイント上昇しました。



■ 属性別の主な傾向 （※回答者が少数のため、参考値）

- 回答者が少数なことも影響し、近所や地域との関わりの必要性を感じない理由は多岐にわたり、特徴的な傾向はみられません。
- その中で、最上位が比較的多い項目は「地域での付き合いがわずらわしいから」と「仕事や友人との付き合いがあれば十分だから」です。
- 「仕事や友人との付き合いがあれば十分」は、30 代から下の世代、白河地区、小松橋地区、砂町地区で高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

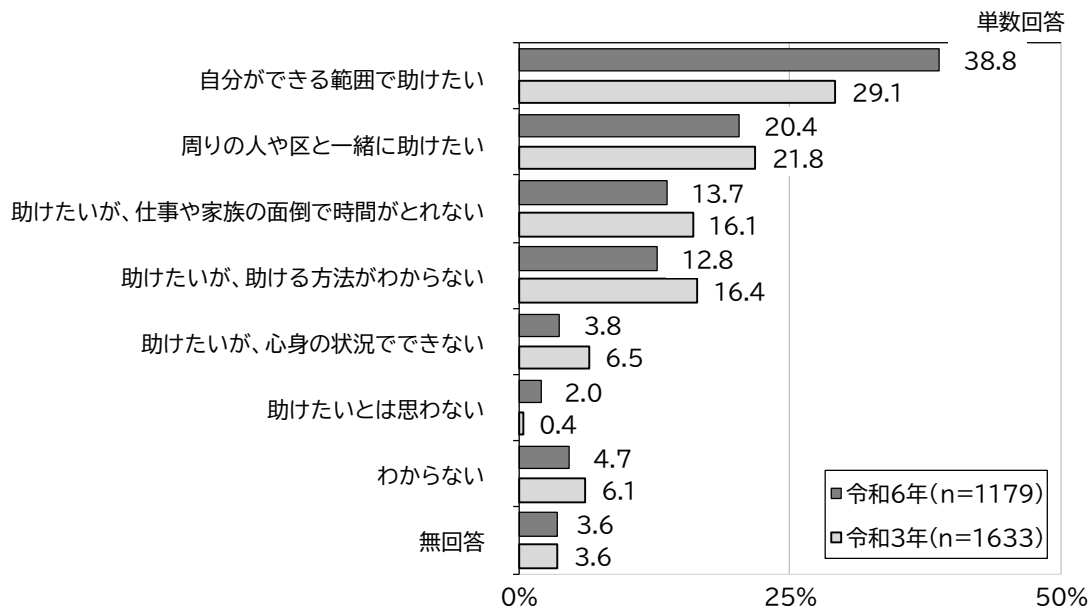
数値は％、網掛は各属性の１位、属性及び設問の「無回答」は非表示

％	合計(n)	どのように関わればよいかわからないから	この地域にずっと住むつもりはないから	仕事や友人との付き合いがあれば十分だから	地域情報はインターネットやSNSで得られれば十分だから	困った時は、関連する相談機関（区役所等）に相談すれば十分だから	困った時は、マンションの管理センター等に相談すれば十分だから	プライバシーを知られたくない、詮索されたくないから	地域での付き合いがわしいから	過去に地域のトラブルがあったから	その他	特に理由はない
性別（自認）												
男性	92	18.5	18.5	42.4	29.3	26.1	20.7	37.0	45.7	4.3	5.4	9.8
女性	67	17.9	9.0	50.7	32.8	40.3	35.8	38.8	49.3	1.5	1.5	4.5
その他	3	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
年齢												
18～19歳	4	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
20～24歳	14	21.4	35.7	57.1	28.6	42.9	28.6	35.7	28.6	0.0	0.0	7.1
25～29歳	20	25.0	20.0	75.0	45.0	40.0	35.0	45.0	45.0	0.0	0.0	0.0
30～34歳	18	16.7	22.2	66.7	44.4	27.8	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
35～39歳	12	41.7	33.3	58.3	41.7	33.3	25.0	33.3	58.3	0.0	8.3	0.0
40～44歳	14	28.6	0.0	42.9	21.4	21.4	14.3	64.3	35.7	21.4	0.0	21.4
45～49歳	16	18.8	6.3	43.8	50.0	50.0	25.0	43.8	56.3	6.3	0.0	0.0
50～54歳	14	7.1	14.3	28.6	14.3	35.7	35.7	64.3	64.3	0.0	14.3	7.1
55～59歳	9	11.1	11.1	44.4	44.4	11.1	11.1	33.3	77.8	0.0	0.0	11.1
60～64歳	10	20.0	20.0	20.0	20.0	30.0	50.0	40.0	40.0	0.0	0.0	10.0
65～69歳	7	28.6	0.0	57.1	42.9	42.9	57.1	42.9	57.1	14.3	14.3	14.3
70～74歳	11	0.0	0.0	9.1	18.2	27.3	9.1	18.2	36.4	0.0	18.2	9.1
75～79歳	8	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	12.5	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0
80歳以上	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	66.7	0.0	0.0	16.7
居住地区												
白河地区	14	35.7	35.7	71.4	35.7	28.6	0.0	50.0	42.9	0.0	14.3	0.0
富岡地区	9	33.3	22.2	33.3	33.3	33.3	22.2	55.6	33.3	0.0	0.0	11.1
豊洲地区	41	14.6	4.9	41.5	34.1	39.0	31.7	36.6	56.1	0.0	0.0	9.8
小松橋地区	10	10.0	30.0	60.0	20.0	10.0	20.0	20.0	50.0	0.0	0.0	0.0
東陽地区	11	9.1	9.1	45.5	45.5	36.4	45.5	9.1	54.5	0.0	0.0	9.1
亀戸地区	21	23.8	23.8	42.9	33.3	42.9	47.6	47.6	38.1	14.3	4.8	4.8
大島地区	29	13.8	13.8	37.9	24.1	31.0	24.1	34.5	44.8	0.0	6.9	3.4
砂町地区	18	22.2	5.6	55.6	27.8	22.2	16.7	44.4	44.4	5.6	0.0	22.2
南砂地区	10	20.0	0.0	30.0	20.0	10.0	10.0	40.0	40.0	10.0	10.0	10.0

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 12 近所に困っている人がいる場合、あなたはどのような気持ちになりますか。最も近い気持ちをお答えください。（○は1つ）

- 近所に困っている人がいる場合の気持ち（問 12）について、「自分ができる範囲で助けたい」が 38.8%と最も高く、次いで「周りの人や区と一緒に助けたい」が 20.4%、「助けたいが、仕事や家族の面倒で時間がとれない」が 13.7%となっています。
- 令和3年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して5ポイント以上の差）は、「自分ができる範囲で助けたい」が 9.7 ポイント上昇しました。



■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「自分ができる範囲で助けたい」が高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

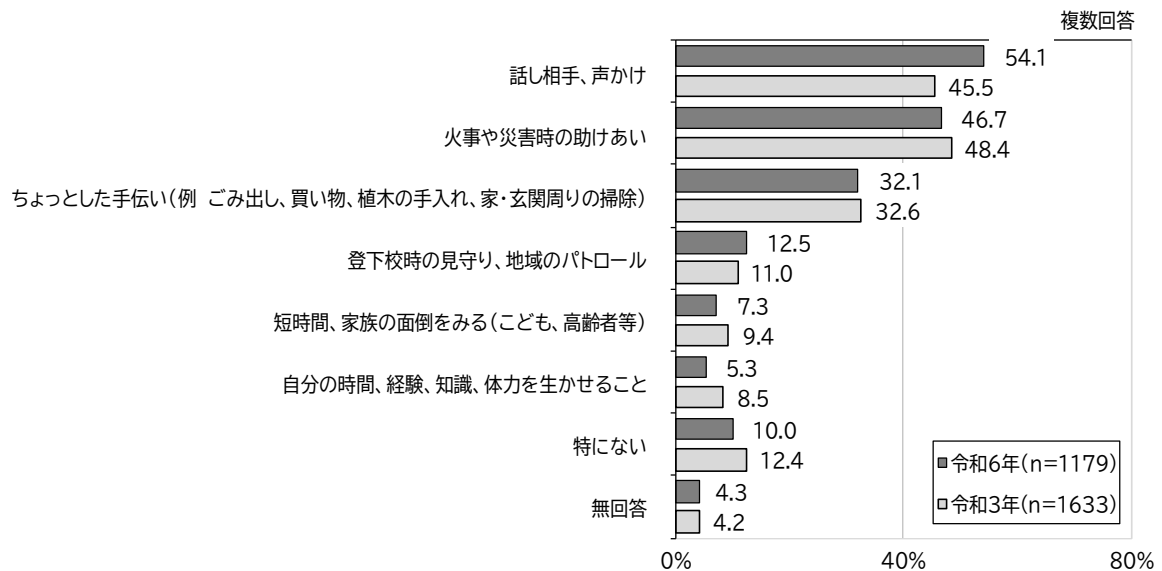
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

性別（自認）	%	合計(n)	自分ができる 範囲で助けた い	周りの人や区 と一緒に助け たい	助けたいが、 仕事や家族の 面倒で時間が とれない	助けたいが、 心身の状況で できない	助けたいが、 助ける方法が わからない	助けたいとは思 わない	わからない
年齢	男性	476	38.4	20.8	15.1	2.7	12.0	2.3	5.0
	女性	689	38.9	20.2	12.5	4.6	13.5	1.9	4.6
	その他	8	37.5	12.5	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～19歳	9	44.4	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2
	20～24歳	35	45.7	11.4	11.4	0.0	20.0	8.6	2.9
	25～29歳	55	36.4	18.2	16.4	0.0	21.8	1.8	3.6
	30～34歳	71	39.4	14.1	15.5	2.8	12.7	11.3	2.8
	35～39歳	77	36.4	15.6	19.5	1.3	20.8	1.3	2.6
	40～44歳	100	39.0	10.0	27.0	0.0	15.0	2.0	6.0
	45～49歳	124	26.6	25.0	24.2	0.8	13.7	4.0	4.0
	50～54歳	121	47.1	16.5	13.2	2.5	8.3	0.8	6.6
	55～59歳	108	29.6	28.7	21.3	3.7	9.3	0.0	5.6
	60～64歳	84	42.9	25.0	16.7	2.4	9.5	0.0	2.4
	65～69歳	79	36.7	25.3	10.1	2.5	16.5	0.0	6.3
	70～74歳	109	40.4	25.7	0.9	3.7	11.9	0.0	7.3
	75～79歳	88	53.4	17.0	2.3	5.7	9.1	1.1	4.5
居住地区	80歳以上	116	38.8	21.6	1.7	18.1	8.6	1.7	2.6
	白河地区	113	37.2	31.0	10.6	1.8	8.0	2.7	2.7
	富岡地区	106	39.6	25.5	10.4	4.7	16.0	0.0	2.8
	豊洲地区	247	39.3	20.6	13.4	2.0	15.4	0.4	5.3
	小松橋地区	90	45.6	14.4	13.3	5.6	6.7	4.4	4.4
	東陽地区	101	36.6	22.8	15.8	3.0	13.9	2.0	5.0
	亀戸地区	143	42.0	12.6	14.7	3.5	15.4	0.7	6.3
	大島地区	135	39.3	15.6	14.1	7.4	9.6	4.4	7.4
	砂町地区	142	33.8	23.2	15.5	2.8	11.3	4.2	4.2
	南砂地区	101	37.6	18.8	15.8	5.9	15.8	1.0	3.0

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 13 助けあいであなたができることやしたいことはありますか。（〇はいくつでも）

- 助けあいで自分にできること・したいこと（問 13）について、「話し相手、声かけ」が 54.1%と最も高く、次いで「火事や災害時の助けあい」が 46.7%、「ちょっとした手伝い（例 ゴミ出し、買い物、植木の手入れ、家・玄関周りの掃除）」が 32.1%となっています。
- 令和 3 年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して 5 ポイント以上の差）は、「話し相手、声かけ」が 8.6 ポイント上昇しました。



■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「火事や災害時の助けあい」もしくは「話し相手、声かけ」が高くなっています。
- 「火事や災害時の助けあい」は 30 代、40 代で高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

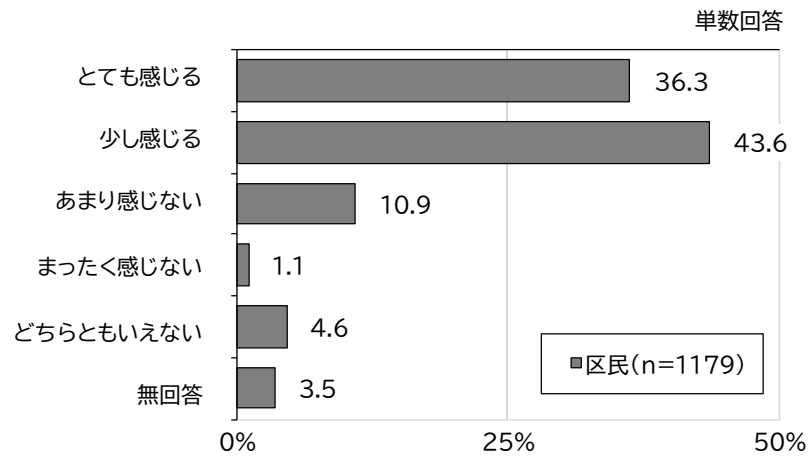
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	話し相手、声かけ	ちよっとした手伝い（例 ごみ出し、買い物、植木の手入れ、家・玄関周りの掃除）	短時間、家族の面倒をみる（こども、高齢者等）	火事や災害時の助けあい	登下校時の見守り、地域のバトロール	自分の時間、経験、知識、体力を生かせること	特にな	
性別（自認）	男性	476	49.2	32.4	7.1	48.3	10.9	4.6	12.6	
	女性	689	57.5	31.8	7.1	45.7	13.6	5.7	8.4	
	その他	8	50.0	37.5	25.0	62.5	12.5	0.0	0.0	
	年齢	18～19歳	9	66.7	22.2	0.0	44.4	11.1	0.0	11.1
		20～24歳	35	57.1	25.7	5.7	37.1	5.7	5.7	11.4
		25～29歳	55	52.7	27.3	3.6	45.5	10.9	3.6	10.9
		30～34歳	71	43.7	19.7	5.6	49.3	9.9	2.8	16.9
		35～39歳	77	55.8	27.3	13.0	61.0	27.3	2.6	5.2
		40～44歳	100	51.0	29.0	16.0	57.0	25.0	5.0	9.0
		45～49歳	124	49.2	36.3	8.1	52.4	13.7	4.8	6.5
		50～54歳	121	54.5	27.3	8.3	46.3	8.3	6.6	9.1
		55～59歳	108	54.6	35.2	5.6	51.9	15.7	5.6	7.4
		60～64歳	84	65.5	36.9	4.8	51.2	16.7	14.3	8.3
	居住地区	65～69歳	79	53.2	44.3	7.6	48.1	8.9	5.1	8.9
		70～74歳	109	50.5	40.4	5.5	36.7	8.3	2.8	11.9
		75～79歳	88	59.1	33.0	3.4	40.9	8.0	9.1	9.1
80歳以上		116	57.8	27.6	6.0	28.4	3.4	1.7	17.2	
白河地区		113	53.1	35.4	7.1	53.1	18.6	5.3	4.4	
富岡地区		106	67.9	34.0	5.7	42.5	7.5	3.8	5.7	
豊洲地区		247	51.8	31.6	10.9	51.8	12.1	6.1	10.1	
小松橋地区		90	50.0	25.6	5.6	40.0	10.0	3.3	14.4	
東陽地区		101	58.4	34.7	8.9	50.5	14.9	5.9	10.9	
亀戸地区		143	49.0	28.7	3.5	44.1	14.0	4.2	8.4	
大島地区	135	47.4	29.6	5.9	41.5	8.1	3.0	14.8		
砂町地区	142	57.0	40.8	6.3	44.4	15.5	8.5	10.6		
南砂地区	101	58.4	27.7	8.9	48.5	10.9	5.9	10.9		

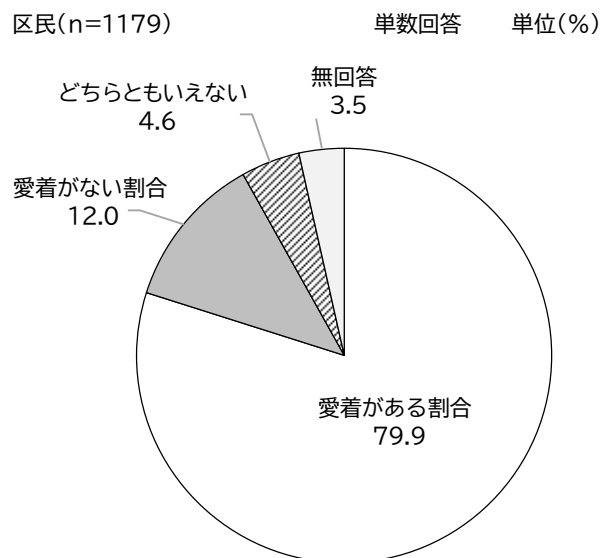
Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 14 お住まいの地域に愛着を感じていますか。（○は1つ）

- 住まいの地域への愛着（問 14）について、「少し感じる」が 43.6%と最も高く、次いで「とても感じる」が 36.3%、「あまり感じない」が 10.9%となっています。



- 愛着がある割合（「とても感じる」＋「少し感じる」の合計）は 79.9%、愛着がない割合（「あまり感じない」＋「まったく感じない」の合計）は 12.0%となっています。



Ⅱ 区民アンケート調査結果

■属性別の主な傾向

- 全ての属性で「とても感じる」もしくは「少し感じる」が高くなっています。
- 「とても感じる」は60代、75歳以上、富岡地区で高くなっています。
- 「あまり感じない」は性別その他、18～19歳が20%台であり、ほかの属性と比べると若干高くなっています。

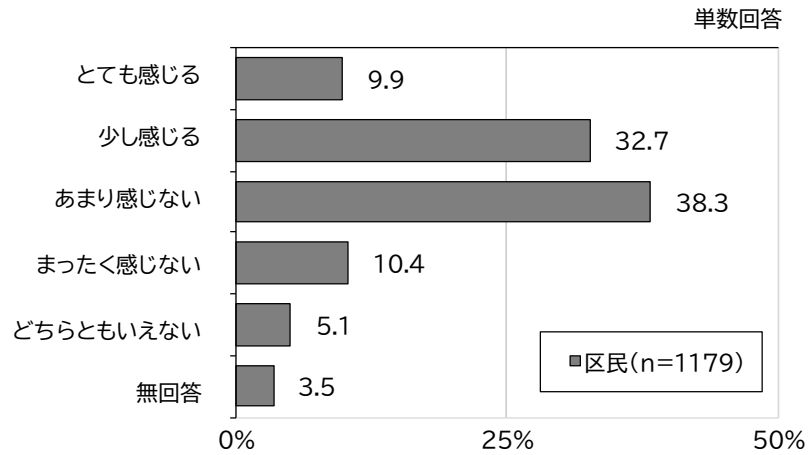
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	とても感じる	少し感じる	あまり感じない	まったく感じない	どちらともいえない
性別（自認）	男性	476	34.9	40.5	12.8	2.3	6.1
	女性	689	37.4	45.7	9.4	0.3	3.5
	その他	8	12.5	50.0	25.0	0.0	12.5
年齢	18～19歳	9	33.3	44.4	22.2	0.0	0.0
	20～24歳	35	31.4	54.3	11.4	0.0	2.9
	25～29歳	55	20.0	54.5	18.2	1.8	3.6
	30～34歳	71	19.7	56.3	19.7	0.0	2.8
	35～39歳	77	20.8	53.2	19.5	2.6	1.3
	40～44歳	100	37.0	44.0	13.0	1.0	4.0
	45～49歳	124	38.7	47.6	9.7	0.0	2.4
	50～54歳	121	35.5	44.6	6.6	3.3	5.0
	55～59歳	108	34.3	48.1	9.3	0.0	7.4
	60～64歳	84	45.2	39.3	6.0	0.0	8.3
	65～69歳	79	41.8	40.5	7.6	2.5	3.8
	70～74歳	109	33.9	34.9	12.8	1.8	6.4
	75～79歳	88	45.5	35.2	11.4	0.0	1.1
	80歳以上	116	51.7	29.3	5.2	0.9	7.8
居住地区	白河地区	113	38.1	39.8	9.7	2.7	4.4
	富岡地区	106	43.4	42.5	11.3	0.0	1.9
	豊洲地区	247	38.5	42.9	9.3	0.0	5.7
	小松橋地区	90	25.6	51.1	10.0	1.1	6.7
	東陽地区	101	38.6	47.5	5.0	1.0	6.9
	亀戸地区	143	34.3	44.8	12.6	0.7	2.8
	大島地区	135	33.3	43.7	14.8	2.2	3.7
	砂町地区	142	35.9	42.3	12.0	2.8	2.8
	南砂地区	101	36.6	40.6	13.9	0.0	6.9

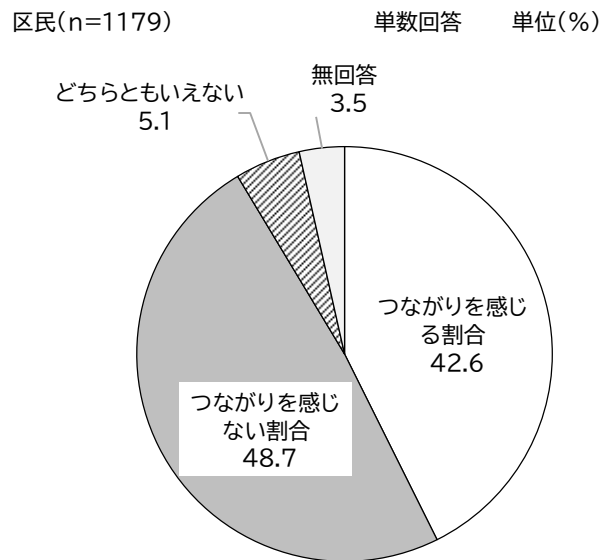
Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 15 お住まいの地域にお互いに助けあうような「地域のつながり」を感じますか。(○は1つ)

- 住まいの地域の「つながり」(問 15)について、「あまり感じない」が38.3%と最も高く、次いで「少し感じる」が32.7%、「まったく感じない」が10.4%となっています。



- つながりを感じる割合(「とても感じる」+「少し感じる」の合計)は42.6%、つながりを感じない割合(「あまり感じない」+「まったく感じない」の合計)は48.7%となっています。



Ⅱ 区民アンケート調査結果

■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「あまり感じない」が高くなっています。
- 「少し感じる」は 65～69 歳、75 歳以上、白河地区、富岡地区、小松橋地区で高くなっています。
- 性別その他では「少し感じる」と「まったく感じない」がどちらも高くなっています。
- 「とても感じる」は 80 歳以上が 20% 台であり、ほかの属性と比べると高くなっています。

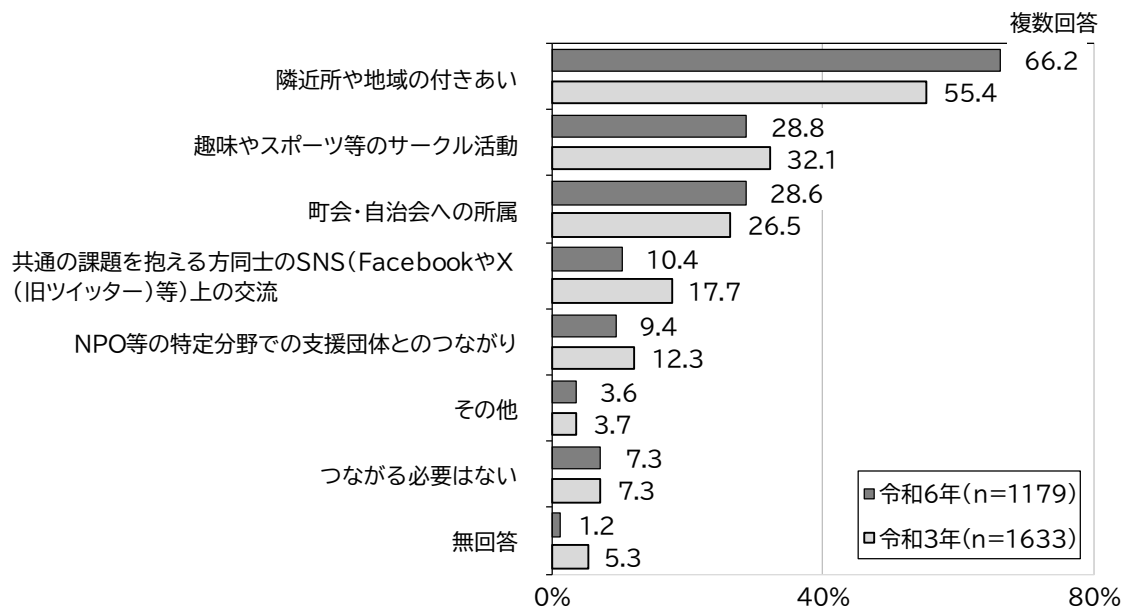
数値は%、網掛は各属性の 1 位、属性及び設問の「無回答」は非表示

	%	合計(n)	とても感じる	少し感じる	あまり感じない	まったく感じない	どちらともいえない
性別（自認）	男性	476	11.3	29.8	36.6	12.6	6.5
	女性	689	8.9	34.7	39.8	8.7	4.2
	その他	8	0.0	37.5	25.0	37.5	0.0
年齢	18～19歳	9	0.0	33.3	44.4	22.2	0.0
	20～24歳	35	5.7	22.9	57.1	8.6	5.7
	25～29歳	55	7.3	27.3	41.8	18.2	3.6
	30～34歳	71	1.4	25.4	53.5	15.5	2.8
	35～39歳	77	3.9	31.2	39.0	16.9	6.5
	40～44歳	100	8.0	35.0	43.0	9.0	4.0
	45～49歳	124	8.9	34.7	37.1	13.7	3.2
	50～54歳	121	5.0	35.5	38.8	11.6	5.0
	55～59歳	108	10.2	33.3	40.7	10.2	4.6
	60～64歳	84	8.3	29.8	45.2	9.5	6.0
	65～69歳	79	13.9	40.5	29.1	7.6	5.1
	70～74歳	109	9.2	29.4	36.7	9.2	5.5
	75～79歳	88	10.2	37.5	35.2	5.7	4.5
	80歳以上	116	29.3	31.9	20.7	3.4	9.5
居住地区	白河地区	113	15.0	33.6	31.0	9.7	5.3
	富岡地区	106	13.2	40.6	34.9	5.7	4.7
	豊洲地区	247	5.3	29.1	42.5	13.4	5.7
	小松橋地区	90	12.2	36.7	33.3	7.8	4.4
	東陽地区	101	8.9	36.6	39.6	6.9	6.9
	亀戸地区	143	14.0	29.4	39.9	9.8	2.8
	大島地区	135	7.4	31.9	41.5	11.9	5.2
	砂町地区	142	7.7	35.2	35.9	12.0	4.9
	南砂地区	101	11.9	27.7	40.6	11.9	5.9

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 16 これからの住民同士の「つながり」について、どのようなことが重要だと思いますか。
(○はいくつでも)

- 住民同士のつながりづくりに重要なこと（問 16）について、「隣近所や地域の付き合い」が 66.2%と最も高く、次いで「趣味やスポーツ等のサークル活動」が 28.8%、「町会・自治会への所属」が 28.6%となっています。
- 令和 3 年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して 5 ポイント以上の差）は、「隣近所や地域の付き合い」が 10.8 ポイント上昇、「共通の課題を抱える方同士の SNS（Facebook や X（旧ツイッター）等）上の交流」が 7.3 ポイント低下しました。



■属性別の主な傾向

- 全ての属性で「隣近所や地域の付き合い」が高くなっています。
- 「つながる必要はない」は 18～19 歳、25～29 歳が 20%台であり、ほかの属性と比べると若干高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

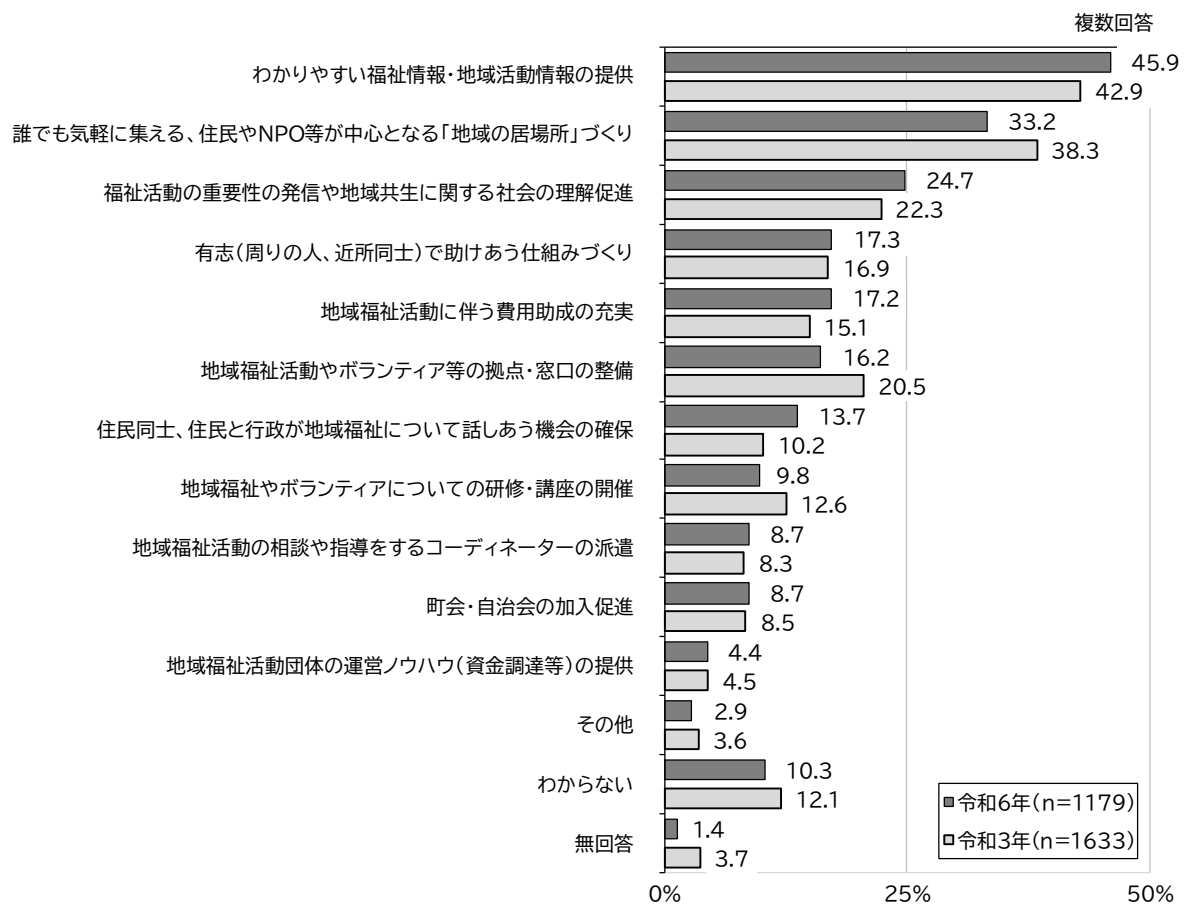
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	町会・自治会への所属	近所や地域の付き合い	趣味やスポーツ等のサークル活動	共通の課題を抱える方同士のSNS（FacebookやX（旧ツイッター）等）上の交流	NPO等の特定分野での支援団体とのつながり	その他	つながる必要はない
性別（自認）	男性	476	26.7	64.3	27.7	11.3	8.0	5.0	9.7
	女性	689	29.8	67.8	29.5	9.7	10.2	2.6	5.8
年齢	その他	8	25.0	62.5	37.5	12.5	25.0	12.5	0.0
	18～19歳	9	22.2	66.7	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2
	20～24歳	35	22.9	54.3	34.3	20.0	8.6	2.9	14.3
	25～29歳	55	18.2	56.4	27.3	12.7	9.1	1.8	20.0
	30～34歳	71	23.9	64.8	29.6	16.9	5.6	4.2	16.9
	35～39歳	77	14.3	66.2	28.6	13.0	7.8	7.8	7.8
	40～44歳	100	15.0	73.0	25.0	15.0	12.0	3.0	7.0
	45～49歳	124	19.4	66.9	25.0	15.3	15.3	1.6	8.1
	50～54歳	121	20.7	67.8	21.5	9.1	11.6	3.3	9.9
	55～59歳	108	23.1	64.8	34.3	14.8	13.9	3.7	3.7
	60～64歳	84	29.8	72.6	28.6	9.5	9.5	8.3	2.4
	65～69歳	79	45.6	65.8	36.7	5.1	7.6	1.3	3.8
居住地区	70～74歳	109	34.9	62.4	34.9	6.4	9.2	3.7	3.7
	75～79歳	88	45.5	69.3	29.5	2.3	4.5	3.4	6.8
	80歳以上	116	52.6	64.7	27.6	4.3	3.4	3.4	1.7
	白河地区	113	26.5	74.3	26.5	8.8	9.7	4.4	6.2
	富岡地区	106	34.9	76.4	29.2	12.3	10.4	2.8	3.8
	豊洲地区	247	26.3	59.5	30.0	13.8	13.4	3.2	8.1
	小松橋地区	90	32.2	58.9	22.2	6.7	5.6	0.0	12.2
	東陽地区	101	24.8	71.3	31.7	10.9	6.9	1.0	5.9
	亀戸地区	143	22.4	60.1	35.7	11.2	9.8	4.2	5.6
	大島地区	135	28.9	68.1	24.4	11.1	5.9	5.9	8.1
	砂町地区	142	29.6	69.0	29.6	8.5	11.3	3.5	10.6
	南砂地区	101	37.6	66.3	26.7	5.9	5.9	6.9	4.0

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 17 住民同士の助けあいを地域で広げるために、区が力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。（〇は3つまで）

- 住民同士の助けあいを広げるための区の取組（問 17）について、「わかりやすい福祉情報・地域活動情報の提供」が45.9%と最も高く、次いで「誰でも気軽に集える、住民やNPO等が中心となる「地域の居場所」づくり」が33.2%、「福祉活動の重要性の発信や地域共生に関する社会の理解促進」が24.7%となっています。
- 令和3年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して5ポイント以上の差）は、「誰でも気軽に集える、住民やNPO等が中心となる「地域の居場所」づくり」が5.1ポイント低下しました。



■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「わかりやすい福祉情報・地域活動情報の提供」が高くなっています。
- 「わからない」は18～19歳で40%台と高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

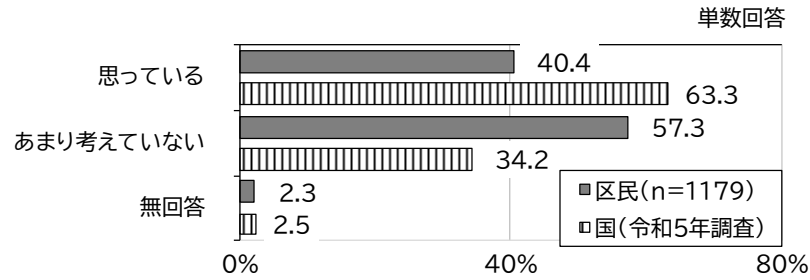
数値は％、網掛は各属性の１位、属性及び設問の「無回答」は非表示

性別（自認）	％	合計(n)	福祉活動の重要性の発信や地域共生に関する社会の理解促進	住民同士、住民と行政が地域福祉について話しあう機会の確保	誰でも気軽に集える、住民やNPO等が中心となる「地域の居場所」づくり	地域福祉やボランティアにについての研修・講座の開催	わかりやすい福祉情報・地域活動情報の提供	地域福祉活動団体の運営ノウハウ（資金調達等）の提供	地域福祉活動の相談や指導をするコーディネーターの派遣	地域福祉活動やボランティア等の拠点・窓口の整備	地域福祉活動に伴う費用助成の充実	町会・自治会の加入促進	有志（周りの人、近所同士）で助けあう仕組みづくり	その他	わからない
年齢	男性	476	263	164	250	76	391	42	74	128	185	116	181	40	118
	女性	689	234	118	389	115	505	45	99	187	165	68	165	22	90
	その他	8	375	250	375	00	375	125	00	00	125	00	375	00	250
	18～19歳	9	222	111	333	00	222	111	00	00	00	00	111	00	444
	20～24歳	35	314	86	286	29	371	57	57	143	86	86	229	86	143
	25～29歳	55	273	109	291	109	618	00	36	91	91	73	127	18	164
	30～34歳	71	254	113	268	70	338	70	42	141	141	85	113	42	141
	35～39歳	77	195	78	364	65	338	78	117	143	208	52	182	78	130
	40～44歳	100	190	80	370	130	430	50	70	140	160	60	170	30	140
	45～49歳	124	282	137	315	161	460	81	73	177	194	73	210	24	73
	50～54歳	121	231	116	298	107	438	66	124	215	140	17	207	08	116
	55～59歳	108	306	157	361	56	472	19	120	269	231	56	102	28	74
	60～64歳	84	190	119	333	202	548	60	143	143	202	60	226	48	71
	65～69歳	79	291	177	329	114	519	25	76	228	139	127	139	25	25
居住地区	70～74歳	109	229	119	422	92	505	37	92	156	174	110	183	18	101
	75～79歳	88	250	205	318	68	477	00	57	148	205	159	170	11	80
	80歳以上	116	250	224	310	34	457	17	86	69	181	190	181	17	95
	白河地区	113	239	115	265	133	487	53	133	168	204	133	221	27	106
	富岡地区	106	264	208	377	113	415	09	75	170	198	142	142	47	85
	豊洲地区	247	231	134	377	109	466	32	69	190	158	69	186	12	89
	小松橋地区	90	256	122	311	122	311	33	78	111	122	44	144	33	178
	東陽地区	101	347	178	347	129	505	50	79	158	188	109	129	30	89
	亀戸地区	143	245	70	322	49	462	49	77	147	196	98	154	35	63
	大島地区	135	222	96	296	67	474	59	67	148	148	59	170	22	126
	砂町地区	142	232	183	352	106	472	49	127	141	162	70	204	35	106
	南砂地区	101	228	158	287	59	505	69	99	198	188	89	178	40	109

3 地域活動について

問 18 あなたは、日頃、地域の一員として、何か地域のために役立ちたいと思っていますか。
それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。（○は1つ）

- 地域貢献の意欲（問 18）について、「あまり考えていない」が 57.3%と最も高く、次いで「思っている」が 40.4%となっています。
- 国の「社会意識に関する世論調査／令和 5 年 11 月調査」（問 4）の東京都区部の数値と比較すると、「思っている」が区部より 22.9 ポイント低くなっています。



※国の調査結果は「東京都区部」の数値

■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「あまり考えていない」が高く、その中で性別その他、20代～40台前半は60%～70%台であり、ほかの属性に比べて特に高くなっています。
- 「思っている」は60代、富岡地区で高いものの、割合は「あまり考えていない」と拮抗しています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

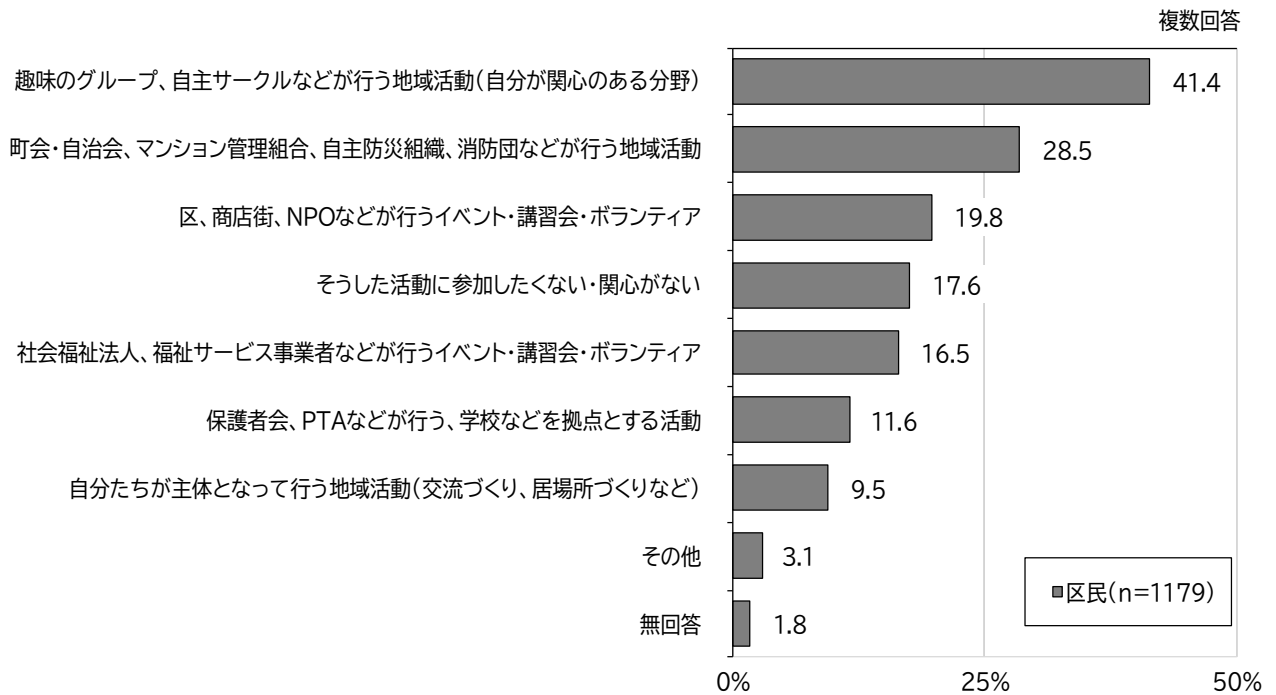
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	思っている	あまり考えていない
性別（自認）	男性	476	42.4	55.0
	女性	689	38.9	58.9
	その他	8	25.0	75.0
年齢	18～19歳	9	44.4	55.6
	20～24歳	35	34.3	62.9
	25～29歳	55	23.6	76.4
	30～34歳	71	28.2	71.8
	35～39歳	77	31.2	67.5
	40～44歳	100	37.0	63.0
	45～49歳	124	46.0	54.0
	50～54歳	121	32.2	66.1
	55～59歳	108	45.4	53.7
	60～64歳	84	48.8	48.8
	65～69歳	79	50.6	48.1
	70～74歳	109	45.9	49.5
	75～79歳	88	44.3	52.3
	80歳以上	116	44.0	46.6
居住地区	白河地区	113	43.4	56.6
	富岡地区	106	49.1	48.1
	豊洲地区	247	42.9	55.1
	小松橋地区	90	37.8	56.7
	東陽地区	101	40.6	59.4
	亀戸地区	143	37.1	59.4
	大島地区	135	28.9	67.4
	砂町地区	142	43.0	55.6
	南砂地区	101	40.6	57.4

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 19 あなたが地域に参加するとしたら、どのような活動に参加したいですか。（現在の活動や地域の状況に関係なく、お答えください）（〇はいくつでも）

- 参加したい地域活動の種類（問 19）について、「趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）」が 41.4%と最も高く、次いで「町会・自治会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動」が 28.5%、「区、商店街、NPOなどが行うイベント・講習会・ボランティア」が 19.8%となっています。



■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）」が高くなっています。
- 性別その他は「そうした活動に参加したくない・関心がない」が高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

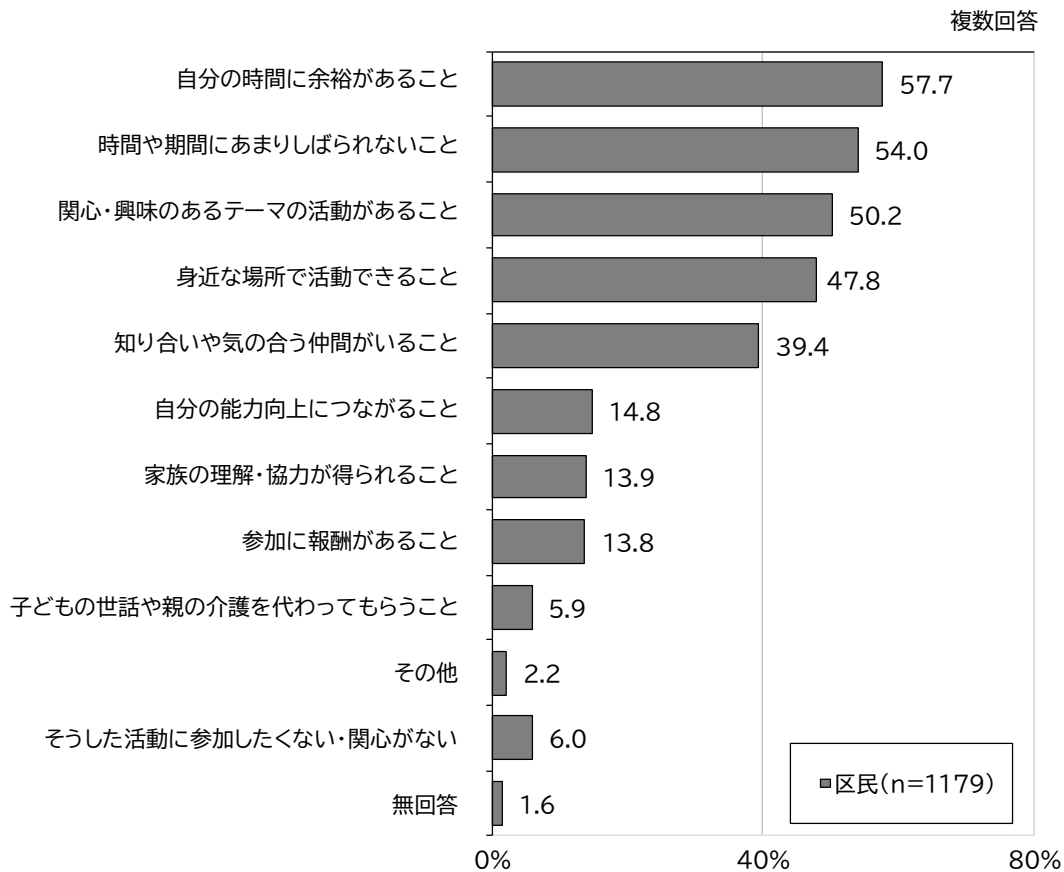
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

%	合計(n)	町会・自治会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動	保護者会、PTAなどが行う、学校などを拠点とする活動	社会福祉法人、福祉サービス事業者などが行うイベント・講習会・ボランティア	趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）	区、商店街、NPOなどが行うイベント・講習会・ボランティア	自分たちが主体となっ行う地域活動（交流づくり、居場所づくりなど）	その他	そうした活動に参加したくない・関心がない	
性別（自認）	男性	476	34.0	7.6	14.1	38.4	17.0	8.4	4.2	20.4
	女性	689	24.8	14.2	18.3	43.7	21.8	9.7	2.2	15.4
年齢	その他	8	12.5	25.0	12.5	25.0	25.0	25.0	12.5	37.5
	18～19歳	9	11.1	0.0	22.2	22.2	33.3	11.1	11.1	22.2
	20～24歳	35	14.3	11.4	8.6	40.0	28.6	5.7	2.9	25.7
	25～29歳	55	10.9	10.9	20.0	41.8	18.2	10.9	3.6	25.5
	30～34歳	71	22.5	12.7	12.7	46.5	22.5	9.9	1.4	21.1
	35～39歳	77	20.8	28.6	7.8	42.9	18.2	9.1	3.9	14.3
	40～44歳	100	22.0	29.0	14.0	38.0	25.0	9.0	1.0	19.0
	45～49歳	124	31.5	21.0	16.1	37.1	29.0	13.7	0.8	16.9
	50～54歳	121	25.6	13.2	15.7	35.5	27.3	5.0	4.1	18.2
	55～59歳	108	26.9	10.2	22.2	39.8	24.1	8.3	1.9	15.7
	60～64歳	84	31.0	1.2	20.2	44.0	20.2	11.9	4.8	16.7
	65～69歳	79	36.7	7.6	22.8	41.8	15.2	7.6	1.3	16.5
	70～74歳	109	33.0	1.8	21.1	53.2	11.9	9.2	0.9	17.4
	75～79歳	88	36.4	3.4	17.0	38.6	10.2	13.6	4.5	18.2
居住地区	80歳以上	116	41.4	0.9	12.1	44.0	8.6	8.6	7.8	12.9
	白河地区	113	27.4	14.2	18.6	43.4	30.1	14.2	2.7	12.4
	富岡地区	106	33.0	11.3	24.5	40.6	25.5	13.2	0.9	10.4
	豊洲地区	247	29.1	14.2	18.6	40.1	22.3	8.1	2.4	18.2
	小松橋地区	90	25.6	11.1	10.0	40.0	16.7	6.7	1.1	17.8
	東陽地区	101	28.7	9.9	16.8	43.6	17.8	9.9	4.0	17.8
	亀戸地区	143	25.2	9.1	9.1	46.2	16.8	10.5	4.2	16.1
	大島地区	135	25.2	7.4	11.1	37.0	19.3	5.9	2.2	24.4
	砂町地区	142	30.3	14.1	19.7	38.7	16.9	7.7	4.9	21.1
	南砂地区	101	32.7	10.9	19.8	45.5	10.9	11.9	5.0	16.8

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 20 あなたは、どのような条件が整うと地域活動に参加しやすいですか。
（現在の活動や地域の状況に関係なく、お答えください）（〇はいくつでも）

- 地域活動の参加条件（問 20）について、「自分の時間に余裕があること」が 57.7%と最も高く、次いで「時間や期間にあまりしばられないこと」が 54.0%、「関心・興味のあるテーマの活動があること」が 50.2%となっています。



■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「自分の時間に余裕があること」もしくは「時間や期間にあまりしばられないこと」が高くなっています。
- それ以外の項目では、18～19 歳、20～24 歳、80 歳以上、東陽地区で「関心・興味のあるテーマの活動があること」が高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

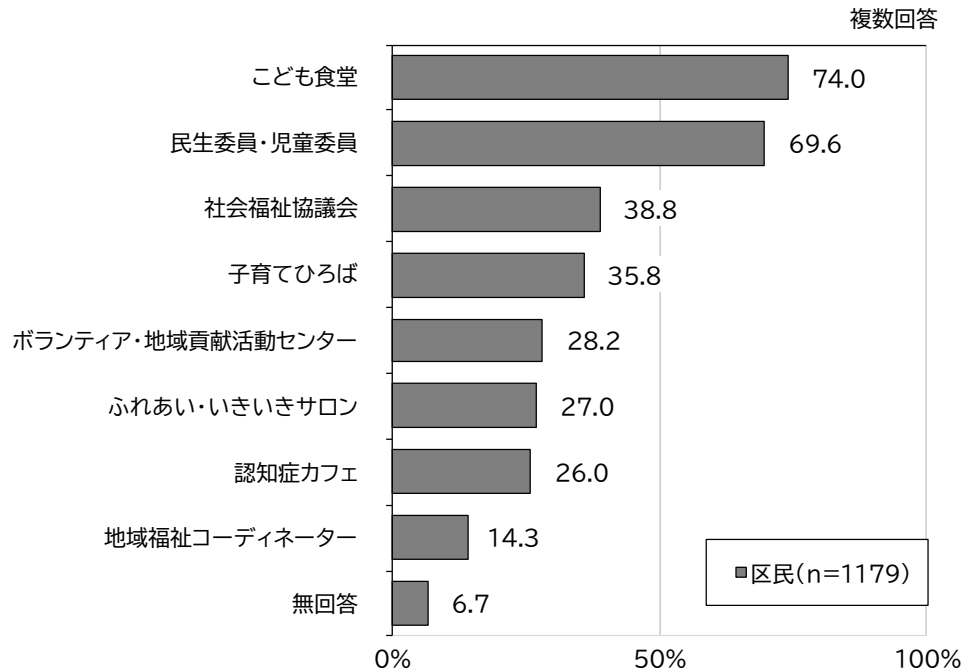
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

性別（自認）	%	合計(n)	自分の時間に余裕があること	時間や期間にあまりしばられないこと	関心・興味のあるテーマの活動があること	知り合いや気の合う仲間がいること	身近な場所で活動できるところ	家族の理解・協力が得られること	子どもの世話や親の介護を代わってもらうこと	自分の能力向上につながる	参加に報酬があること	その他	そうした活動に参加したくない・関心がない
年齢	男性	476	54.0	51.1	45.8	34.2	42.9	14.5	4.4	12.0	13.0	2.1	7.8
	女性	689	60.2	56.3	53.8	43.1	51.7	13.4	6.2	16.7	14.1	2.3	4.5
	その他	8	75.0	62.5	12.5	25.0	12.5	25.0	50.0	12.5	50.0	0.0	12.5
	18～19歳	9	55.6	44.4	77.8	55.6	33.3	11.1	0.0	33.3	22.2	0.0	0.0
	20～24歳	35	54.3	42.9	57.1	45.7	42.9	11.4	0.0	28.6	34.3	0.0	2.9
	25～29歳	55	56.4	41.8	54.5	40.0	40.0	9.1	3.6	27.3	23.6	1.8	3.6
	30～34歳	71	70.4	54.9	60.6	35.2	45.1	9.9	8.5	18.3	29.6	1.4	2.8
	35～39歳	77	72.7	61.0	53.2	42.9	53.2	16.9	15.6	13.0	24.7	3.9	3.9
	40～44歳	100	73.0	57.0	53.0	46.0	51.0	23.0	18.0	15.0	17.0	1.0	5.0
	45～49歳	124	66.1	66.1	53.2	37.1	49.2	24.2	6.5	17.7	15.3	0.8	4.8
	50～54歳	121	58.7	49.6	53.7	33.9	43.0	17.4	6.6	14.9	10.7	0.8	5.0
	55～59歳	108	69.4	60.2	51.9	34.3	52.8	13.9	1.9	13.0	12.0	2.8	3.7
居住地区	60～64歳	84	58.3	60.7	48.8	41.7	54.8	10.7	6.0	20.2	17.9	3.6	9.5
	65～69歳	79	53.2	55.7	44.3	40.5	53.2	12.7	1.3	5.1	8.9	1.3	7.6
	70～74歳	109	47.7	61.5	50.5	43.1	53.2	11.0	1.8	8.3	5.5	1.8	8.3
	75～79歳	88	37.5	46.6	36.4	40.9	44.3	8.0	2.3	6.8	4.5	4.5	11.4
	80歳以上	116	35.3	35.3	40.5	36.2	37.9	6.0	2.6	15.5	1.7	4.3	7.8
	白河地区	113	56.6	58.4	54.0	45.1	46.0	11.5	3.5	13.3	10.6	4.4	3.5
	富岡地区	106	58.5	56.6	51.9	42.5	52.8	14.2	3.8	12.3	12.3	3.8	2.8
	豊洲地区	247	62.3	57.1	51.0	34.4	51.0	15.8	7.3	19.0	15.4	1.6	5.7
	小松橋地区	90	56.7	43.3	43.3	37.8	38.9	8.9	5.6	15.6	10.0	0.0	12.2
	東陽地区	101	58.4	48.5	62.4	46.5	54.5	14.9	5.0	7.9	16.8	0.0	6.9
	亀戸地区	143	55.2	49.7	46.2	39.9	42.7	14.0	5.6	15.4	14.0	2.1	4.2
	大島地区	135	51.1	51.9	44.4	30.4	43.7	12.6	3.7	16.3	14.8	3.7	7.4
	砂町地区	142	57.0	58.5	52.8	38.7	48.6	16.2	8.5	15.5	12.7	0.7	6.3
	南砂地区	101	59.4	57.4	45.5	48.5	49.5	13.9	7.9	10.9	14.9	4.0	6.9

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 21 下記の地域福祉に関する活動や組織について、聞いたことがあるものをお答えください。
(○はいくつでも)

- 地域福祉活動の認知(問 21)について、「こども食堂」が 74.0%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員」が 69.6%、「社会福祉協議会」が 38.8%となっています。



■属性別の主な傾向

- 全ての属性で「民生委員・児童委員」もしくは「こども食堂」が高くなっています。
- それ以外の項目で認知度が 50%を超える活動は、18～19 歳で「ふれあい・いきいきサロン」、20～24 歳で「ボランティア・地域貢献活動センター」、性別その他、30 代、40 代で「子育てひろば」、60～64 歳で「社会福祉協議会」となっています。

(データは次ページ参照)

Ⅱ 区民アンケート調査結果

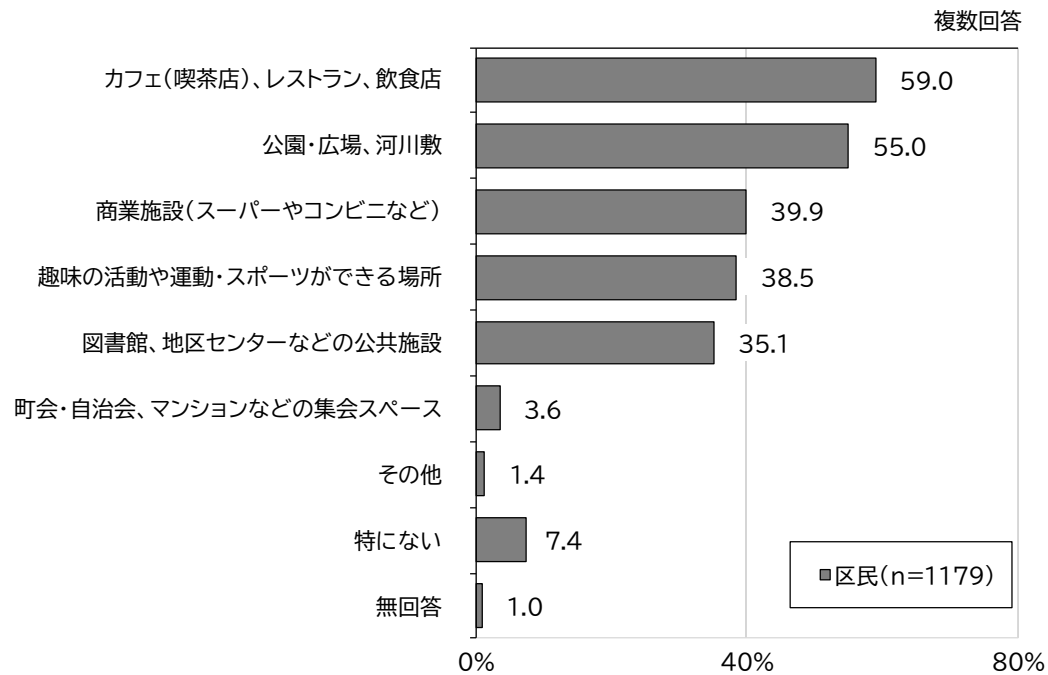
数値は％、網掛は各属性の１位、属性及び設問の「無回答」は非表示

％		合計(n)	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	地域福祉コーディネーター	ボランティア・地域貢献活動センター	子育てひろば	ふれあい・いきいきサロン	認知症カフェ	こども食堂
性別（自認）	男性	476	67.4	39.1	14.7	29.2	25.2	19.7	16.4	64.5
	女性	689	71.6	39.0	14.4	27.9	43.1	31.8	32.9	80.7
	その他	8	50.0	37.5	0.0	12.5	50.0	37.5	0.0	87.5
年齢	18～19歳	9	55.6	33.3	33.3	33.3	44.4	55.6	11.1	66.7
	20～24歳	35	37.1	34.3	25.7	57.1	22.9	28.6	8.6	74.3
	25～29歳	55	30.9	25.5	16.4	38.2	30.9	14.5	3.6	65.5
	30～34歳	71	53.5	22.5	12.7	35.2	53.5	23.9	16.9	73.2
	35～39歳	77	48.1	29.9	15.6	27.3	55.8	29.9	15.6	74.0
	40～44歳	100	61.0	32.0	12.0	28.0	54.0	25.0	14.0	77.0
	45～49歳	124	71.0	30.6	17.7	30.6	53.2	25.0	22.6	83.9
	50～54歳	121	65.3	37.2	18.2	29.8	43.0	25.6	24.8	76.9
	55～59歳	108	85.2	47.2	19.4	37.0	32.4	27.8	35.2	88.0
	60～64歳	84	89.3	64.3	17.9	29.8	29.8	31.0	40.5	86.9
	65～69歳	79	89.9	45.6	8.9	17.7	35.4	27.8	41.8	82.3
	70～74歳	109	79.8	45.9	10.1	23.9	19.3	26.6	37.6	78.9
	75～79歳	88	78.4	38.6	12.5	22.7	25.0	34.1	31.8	61.4
	80歳以上	116	74.1	42.2	5.2	13.8	6.9	26.7	25.9	41.4
居住地区	白河地区	113	76.1	38.1	18.6	31.0	29.2	16.8	19.5	75.2
	富岡地区	106	76.4	43.4	16.0	37.7	33.0	25.5	26.4	75.5
	豊洲地区	247	65.2	38.1	12.6	28.7	39.3	26.3	25.5	74.9
	小松橋地区	90	70.0	28.9	8.9	30.0	31.1	24.4	27.8	75.6
	東陽地区	101	63.4	37.6	11.9	30.7	42.6	29.7	24.8	72.3
	亀戸地区	143	71.3	35.0	14.0	24.5	31.5	27.3	25.9	69.9
	大島地区	135	67.4	38.5	13.3	22.2	31.9	23.7	26.7	69.6
	砂町地区	142	70.4	45.1	14.8	31.0	39.4	36.6	32.4	77.5
	南砂地区	101	71.3	44.6	20.8	19.8	40.6	31.7	24.8	76.2

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 22 あなたが自宅以外で過ごしたい身近な場所はどこですか。（〇はいくつでも）

- 自宅以外で過ごしたい身近な場所（問 22）について、「カフェ（喫茶店）、レストラン、飲食店」が 59.0%と最も高く、次いで「公園・広場、河川敷」が 55.0%、「商業施設（スーパーやコンビニなど）」が 39.9%となっています。



■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「公園・広場、河川敷」もしくは「カフェ（喫茶店）、レストラン、飲食店」が高くなっています。
- 60～64 歳では「趣味の活動や運動・スポーツができる場所」が高くなっています。
- 「特にない」は 65 歳以上が 10%台であり、ほかの属性と比べると若干高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

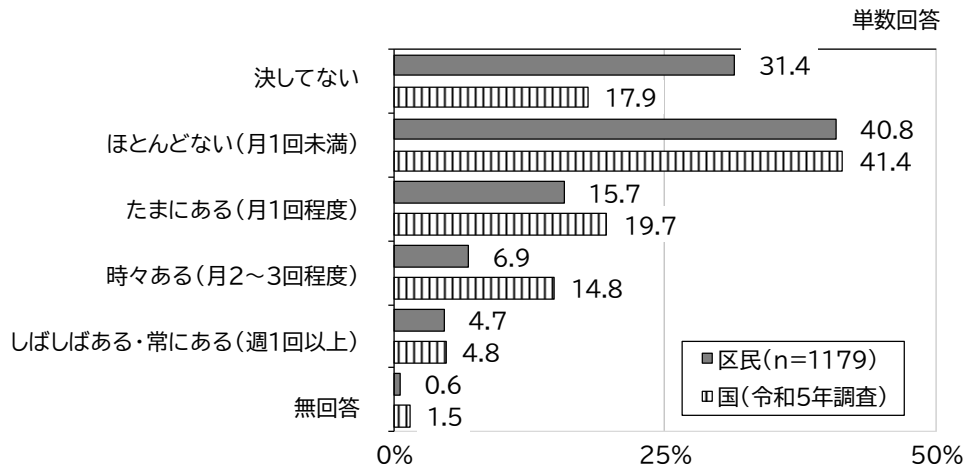
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	公園・広場、 河川敷	カフェ（喫茶 店）、レスト ラン、飲食店	商業施設 （スーパーや コンビニな ど）	町会・自治 会、マシヨ ンなどの集会 スペース	図書館、地区 センターなど の公共施設	趣味の活動や 運動・スポー ツができる場 所	その他	特にな い
性別（自認）	男性	476	58.6	51.9	34.9	3.4	31.3	39.3	1.5	8.0
	女性	689	52.4	64.0	43.7	3.8	37.6	38.3	1.2	7.0
年齢	その他	8	62.5	75.0	37.5	0.0	25.0	12.5	12.5	0.0
	18～19歳	9	55.6	55.6	22.2	0.0	33.3	44.4	0.0	0.0
	20～24歳	35	57.1	82.9	48.6	0.0	28.6	51.4	0.0	2.9
	25～29歳	55	50.9	72.7	52.7	3.6	27.3	32.7	0.0	1.8
	30～34歳	71	64.8	84.5	57.7	1.4	42.3	40.8	0.0	0.0
	35～39歳	77	67.5	84.4	49.4	1.3	35.1	31.2	1.3	5.2
	40～44歳	100	64.0	75.0	57.0	7.0	41.0	38.0	1.0	4.0
	45～49歳	124	57.3	71.8	47.6	2.4	31.5	33.1	0.0	3.2
	50～54歳	121	53.7	51.2	35.5	0.8	32.2	38.0	2.5	9.9
	55～59歳	108	47.2	65.7	44.4	0.0	27.8	38.9	2.8	9.3
	60～64歳	84	47.6	47.6	44.0	4.8	40.5	52.4	2.4	6.0
	65～69歳	79	58.2	44.3	31.6	2.5	35.4	43.0	1.3	11.4
	70～74歳	109	54.1	41.3	26.6	3.7	33.9	43.1	0.0	10.1
	75～79歳	88	59.1	48.9	23.9	10.2	39.8	36.4	1.1	11.4
居住地区	80歳以上	116	41.4	31.0	20.7	7.8	38.8	31.9	3.4	12.9
	白河地区	113	56.6	60.2	34.5	2.7	26.5	38.1	0.0	8.8
	富岡地区	106	52.8	65.1	33.0	3.8	47.2	39.6	0.0	6.6
	豊洲地区	247	55.9	63.6	44.1	2.8	33.6	40.1	1.2	7.7
	小松橋地区	90	57.8	53.3	37.8	3.3	33.3	43.3	1.1	5.6
	東陽地区	101	62.4	66.3	43.6	1.0	40.6	43.6	1.0	7.9
	亀戸地区	143	46.9	58.0	38.5	3.5	28.0	37.1	3.5	7.0
	大島地区	135	53.3	51.9	37.8	3.7	34.8	31.1	2.2	7.4
	砂町地区	142	56.3	50.0	41.5	6.3	40.1	35.9	2.1	9.2
	南砂地区	101	54.5	61.4	44.6	5.9	35.6	40.6	0.0	5.0

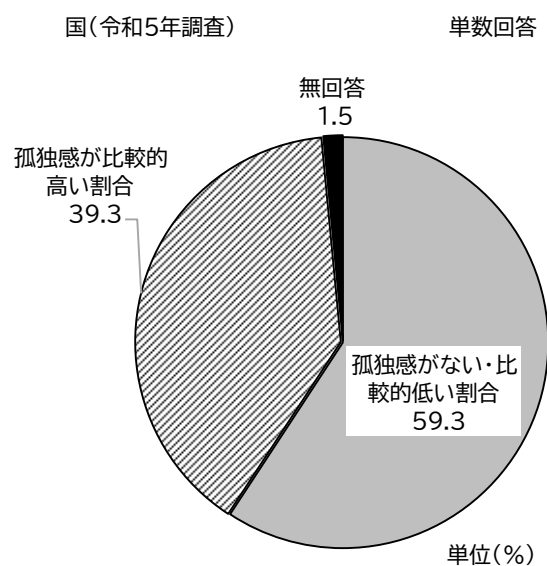
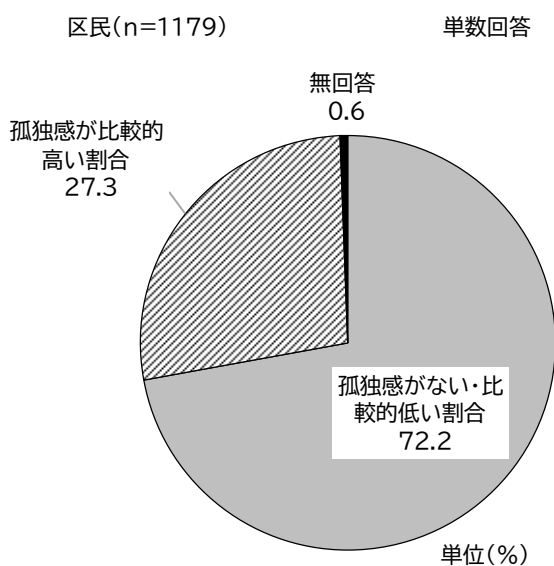
4 ふだんの暮らしについて

問 23 あなたは、日頃の生活の中で孤独であると感じることがありますか。（○は1つ）

- 自分が孤独と感じるか（問 23）について、「ほとんどない（月 1 回未満）」が 40.8%と最も高く、次いで「決してない」が 31.4%、「たまにある（月 1 回程度）」が 15.7%となっています。
- 参考に国の「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査／令和 5 年実施（人々のつながりに関する基礎調査（16 歳以上）問 24）」と比較すると、「決してない」が国より 13.5 ポイント高く、「時々ある」が国より 7.9 ポイント低くなっています。



- 孤独感がない・比較的低い割合（「決してない」＋「ほとんどない（月 1 回未満）」の合計）は 72.2%、孤独感が比較的高い割合（「たまにある（月 1 回程度）」＋「時々ある（月 2 ～ 3 回程度）」＋「しばしばある・常にある（週 1 回以上）」の合計）は 27.3%です。
- 国の令和 5 年調査と比較すると、孤独感がない・比較的低い割合（「決してない」＋「ほとんどない（月 1 回未満）」の合計）が国より 12.9 ポイント高くなっています。



Ⅱ 区民アンケート調査結果

■属性別の主な傾向

- 全ての属性で「ほとんどない（月 1 回未満）」が高くなっています。25～29 歳、東陽地区では「決してない」も高くとなっています。
- 「しばしばある・常にある（週 1 回以上）」は性別その他、18～19 歳、20～24 歳が 10%台と他の割合に比べて高くなっています。

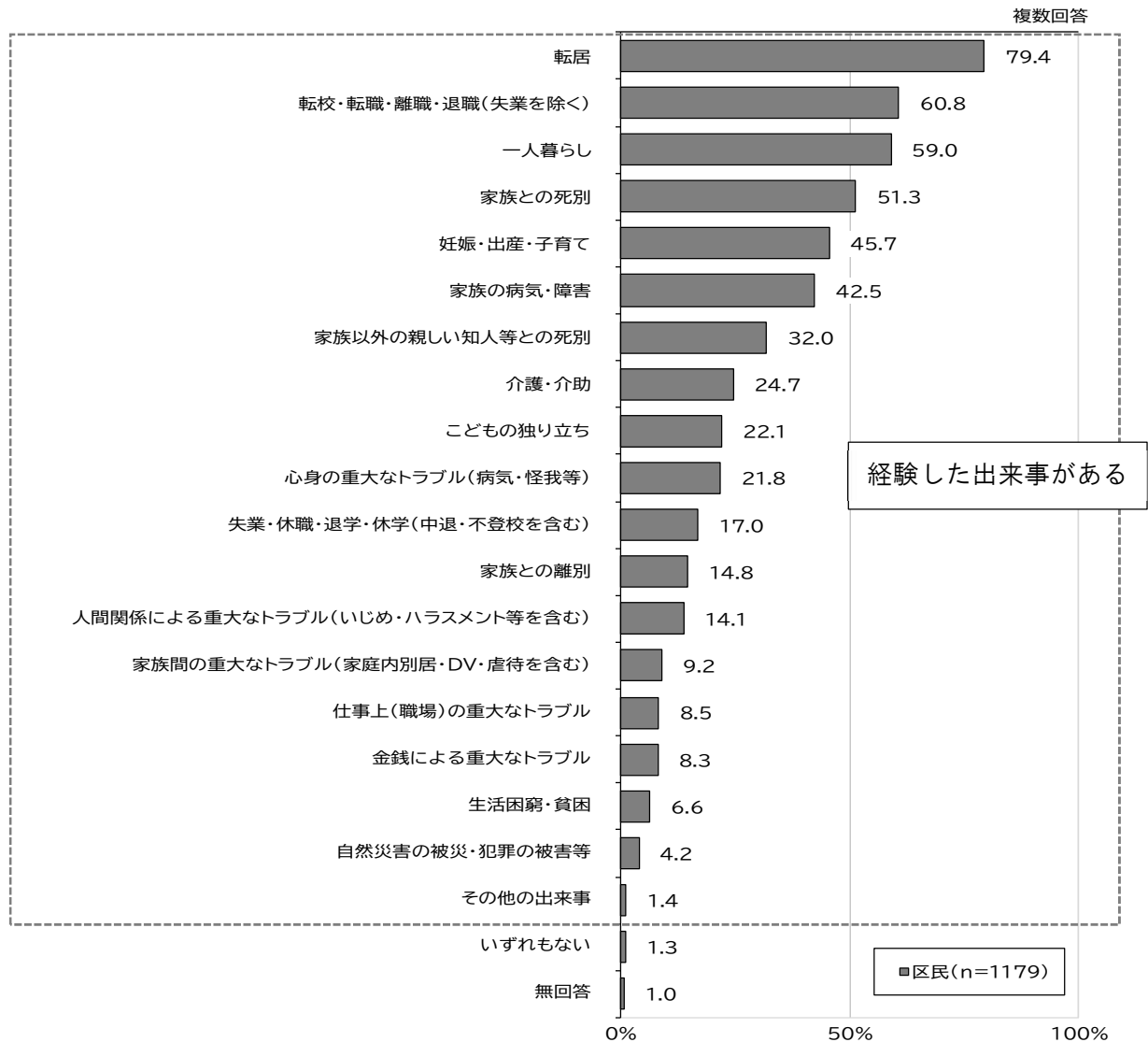
数値は%、網掛は各属性の 1 位、属性及び設問の「無回答」は非表示

	%	合計(n)	決してない	ほとんどない (月1回未満)	たまにある (月1回程度)	時々ある(月 2～3回程度)	しばしばある・常にある (週1回以上)
性別(自認)	男性	476	33.0	42.4	13.9	6.5	3.8
	女性	689	30.8	39.3	17.0	7.3	4.9
	その他	8	0.0	62.5	12.5	0.0	25.0
年齢	18～19歳	9	33.3	55.6	0.0	0.0	11.1
	20～24歳	35	22.9	34.3	11.4	14.3	17.1
	25～29歳	55	32.7	32.7	25.5	3.6	3.6
	30～34歳	71	32.4	39.4	18.3	7.0	2.8
	35～39歳	77	36.4	37.7	10.4	7.8	7.8
	40～44歳	100	37.0	38.0	17.0	4.0	4.0
	45～49歳	124	28.2	45.2	12.9	5.6	8.1
	50～54歳	121	36.4	41.3	11.6	4.1	6.6
	55～59歳	108	35.2	38.0	14.8	7.4	4.6
	60～64歳	84	28.6	47.6	13.1	8.3	2.4
	65～69歳	79	27.8	44.3	17.7	8.9	1.3
	70～74歳	109	23.9	46.8	20.2	5.5	0.9
	75～79歳	88	33.0	37.5	17.0	10.2	2.3
	80歳以上	116	27.6	38.8	18.1	8.6	4.3
居住地区	白河地区	113	30.1	39.8	14.2	8.8	7.1
	富岡地区	106	26.4	37.7	20.8	7.5	5.7
	豊洲地区	247	34.4	37.7	19.0	4.9	4.0
	小松橋地区	90	24.4	42.2	16.7	5.6	7.8
	東陽地区	101	36.6	36.6	14.9	9.9	2.0
	亀戸地区	143	26.6	47.6	13.3	6.3	6.3
	大島地区	135	33.3	44.4	12.6	3.7	5.2
	砂町地区	142	31.7	40.1	16.9	8.5	2.8
	南砂地区	101	35.6	42.6	9.9	8.9	2.0

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 24 あなたがこれまでに経験した出来事をお答えください。（〇はいくつでも）

- これまで経験した出来事（問 24）について、「転居」が 79.4%と最も高く、次いで「転校・転職・離職・退職（失業を除く）」が 60.8%、「一人暮らし」が 59%となっています。

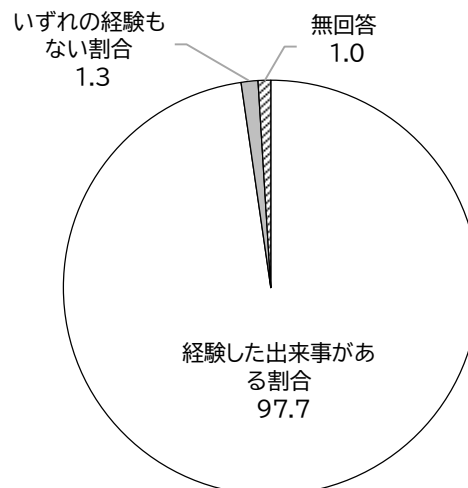


- 経験した出来事がある割合（「いずれもない」「無回答」を除いた人数）は 97.7%です。

区民(n=1179)

複数回答

単位(%)



Ⅱ 区民アンケート調査結果

■属性別の主な傾向

- 全ての属性で、経験した出来事がある（いずれかの経験あり）割合が高くとなっています。
- 「いずれもない」は18～19歳が20%台、20～24歳が10%台であり、ほかの属性と比べると若干高くなっています。

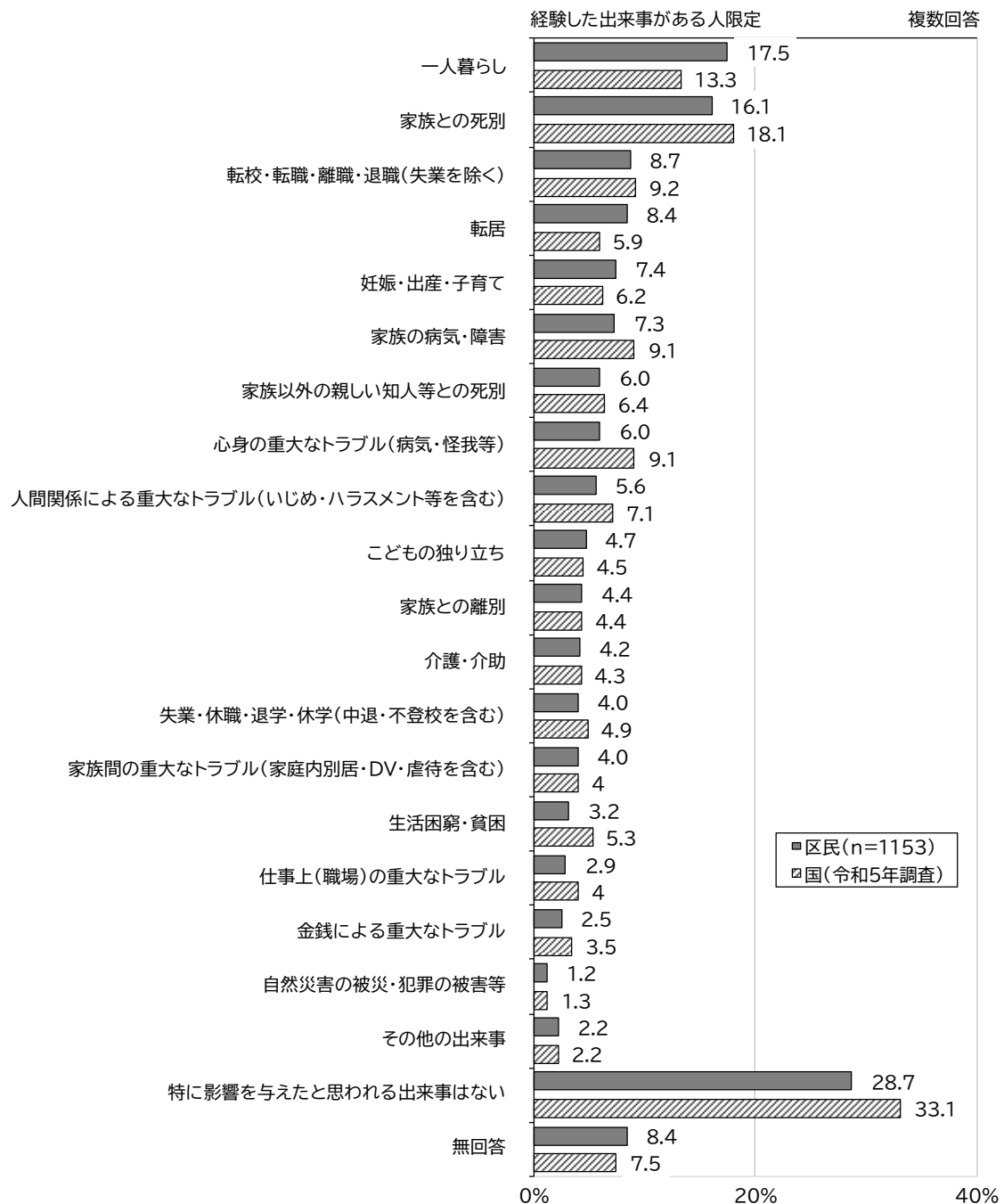
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

	%	合計(n)	いずれかの経験あり	いずれもない
性別（自認）	男性	476	97.3	1.9
	女性	689	98.3	0.9
	その他	8	100.0	0.0
年齢	18～19歳	9	77.8	22.2
	20～24歳	35	85.7	14.3
	25～29歳	55	98.2	0.0
	30～34歳	71	98.6	0.0
	35～39歳	77	96.1	2.6
	40～44歳	100	98.0	2.0
	45～49歳	124	100.0	0.0
	50～54歳	121	100.0	0.0
	55～59歳	108	100.0	0.0
	60～64歳	84	100.0	0.0
	65～69歳	79	98.7	1.3
	70～74歳	109	97.2	0.9
	75～79歳	88	97.7	1.1
	80歳以上	116	94.8	0.0
居住地区	白河地区	113	99.1	0.9
	富岡地区	106	96.2	2.8
	豊洲地区	247	98.8	0.8
	小松橋地区	90	94.4	3.3
	東陽地区	101	99.0	1.0
	亀戸地区	143	95.8	1.4
	大島地区	135	97.0	1.5
	砂町地区	142	100.0	0.0
	南砂地区	101	98.0	1.0

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 25 問 24 で「1」～「19」のいずれかに○を付けた（経験した出来事がある）方におたずねします。
現在の孤独感（問 23 で回答した状況）に強く影響を与えたと思われる出来事はどれですか。
（○はいくつでも）

- （経験した出来事がある人）現在の孤独感に強く影響した出来事（問 25）について、「特に影響を与えたと思われる出来事はない」が 28.7%と最も高く、次いで「一人暮らし」が 17.5%、「家族との死別」が 16.1%となっています。
- 国の「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査／令和 5 年実施（人々のつながりに関する基礎調査 問 26-1）」と比較しても著しい差がみられる項目はなく、概ね同様の傾向です。



Ⅱ 区民アンケート調査結果

■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「特に影響を与えたと思われる出来事はない」が高くなっています。
- 現在の孤独感に強く影響した出来事として、20～24 歳、25～29 歳、30～34 歳は「一人暮らし」、性別その他は「家族間の重大なトラブル（家庭内別居・DV・虐待を含む）」、75 歳以上は「家族との死別」が高くなっています。

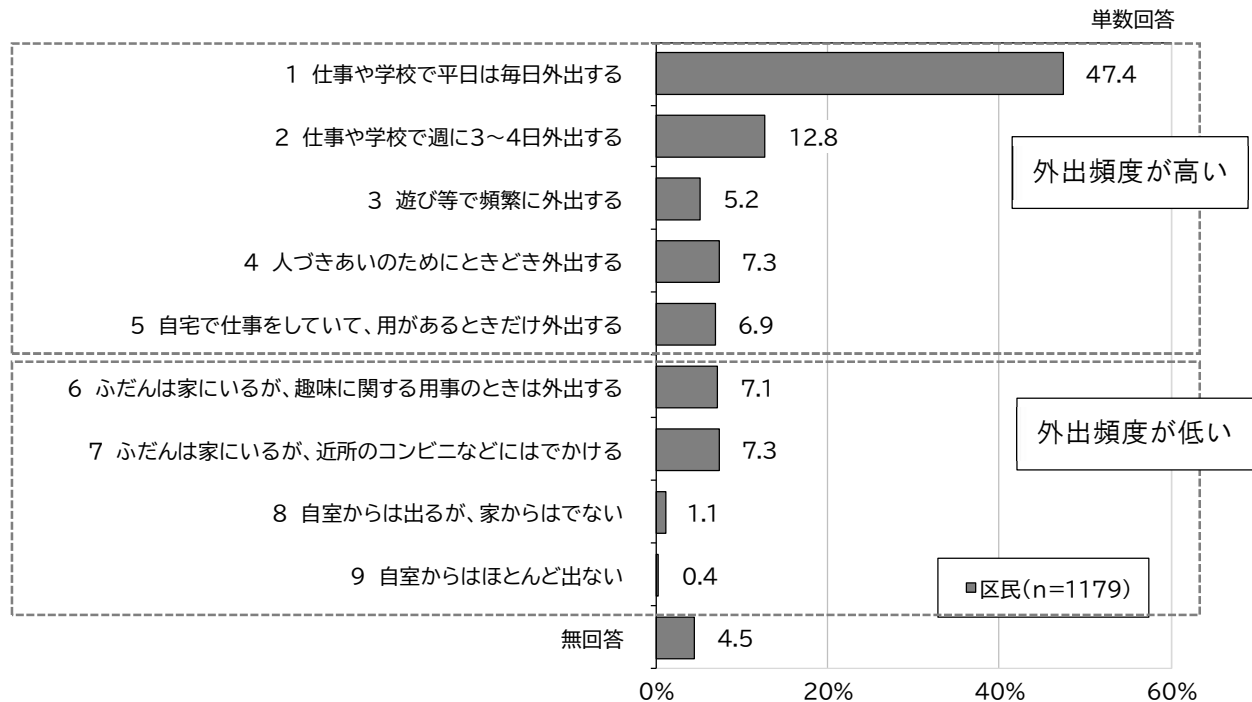
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

%	合計(n)	一人暮らし	結婚	結婚・離婚・再婚 (失業を除く)	失業・転職・退学・進学 (中退・不登校を含む)	妊娠・出産・子育て	介護・介助	子どもの持ち立ち	家族・家族との関係	家族以外の親しい人等との死別	家族間の親しい人等(家庭内暴力・DV・虐待を含む)	心身の重大なトラブル(病歴・大けが・事故・怪我等)	人間関係による重大なトラブル(いじめ・ハラスメント等を含む)	金融による重大なトラブル	生活困窮・貧困	自然災害の被害・犯罪の被害等	その他	特に影響を与えると思われる出来事はな				
性別(自答)	男性	463	205	63	99	54	19	30	32	60	76	26	48	41	35	26	43	17	343			
	女性	677	155	97	77	28	111	49	55	80	50	46	65	21	71	25	12	24	253			
	その他	8	125	250	250	250	125	00	00	125	00	375	250	00	125	00	125	00	125			
	18~19歳	7	143	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	571			
	20~24歳	30	367	33	100	00	00	00	00	67	67	33	100	33	133	00	00	33	233			
	25~29歳	54	310	130	93	56	19	37	00	19	130	74	19	74	19	74	37	19	259			
	30~34歳	70	386	71	157	14	157	00	00	29	29	71	14	29	57	14	43	14	314			
	35~39歳	74	176	54	81	27	203	27	14	41	00	14	41	54	41	14	27	14	338			
	40~44歳	98	153	112	82	71	173	00	00	31	10	82	20	41	92	31	31	20	378			
	45~49歳	124	137	113	103	40	113	16	16	40	16	89	24	65	24	81	08	24	40	323		
居住地	50~54歳	121	116	83	107	50	58	25	50	66	66	132	33	41	33	17	41	66	08	17	388	
	55~59歳	108	148	93	65	56	65	46	56	93	56	167	37	102	46	37	111	09	56	00	287	
	60~64歳	84	143	107	107	36	36	119	131	60	71	190	60	36	36	48	60	48	12	24	262	
	65~69歳	78	167	51	64	38	38	64	64	115	26	244	38	38	77	26	51	38	51	13	00	333
	70~74歳	106	75	38	28	28	28	66	75	142	19	236	94	38	123	38	19	28	19	00	19	255
	75~79歳	86	151	105	70	58	12	47	58	81	81	233	198	12	58	23	35	35	47	12	23	116
	80歳以上	110	200	82	91	18	18	73	91	127	55	336	135	18	109	00	09	18	18	27	00	164
	北海道	112	214	71	89	36	80	27	45	54	45	170	71	18	71	27	36	00	36	36	36	277
	東北地区	102	206	29	127	20	78	20	59	78	20	186	59	29	59	29	59	10	39	00	20	294
	関東地区	244	168	111	70	33	78	41	49	78	61	164	49	49	70	29	53	20	29	16	20	316
居住地	小松藩地区	85	141	71	71	35	82	47	35	47	47	71	47	71	35	35	24	35	12	00	306	
	東海地区	100	180	90	90	50	100	60	30	60	40	160	70	50	20	40	60	20	20	10	10	240
	瀬戸地区	137	212	66	80	22	80	51	22	51	29	139	58	44	80	44	102	29	29	22	44	255
	大島地区	131	145	99	107	69	69	38	38	107	38	107	46	38	61	23	38	46	46	00	15	298
	砂町地区	142	204	106	99	70	42	42	85	77	63	211	49	28	49	07	70	42	42	00	21	282
	南砂地区	99	91	71	61	20	61	51	91	91	30	182	111	40	30	40	30	10	10	20	20	293

Ⅱ 区民アンケート調査結果

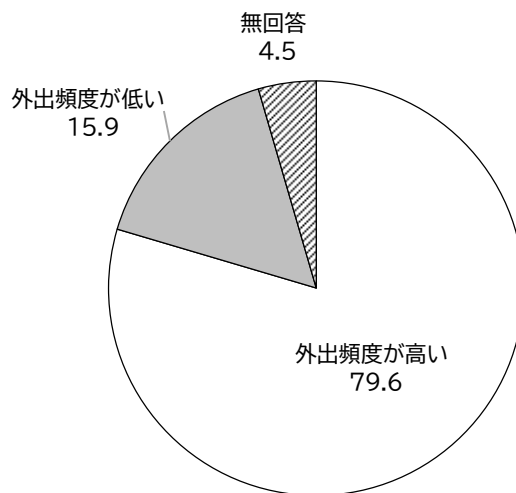
問 26 あなたは普段どのくらい外出しますか。（○は1つ）

- 現在の外出頻度（問 26）について、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が 47.4%と最も高く、次いで「仕事や学校で週に3～4日外出する」が 12.8%、「遊び等で頻繁に外出する」が 5.2%となっています。
- 外出頻度が高い（「1」～「5」と答えた方の合計）は 79.6%、外出頻度が低い（「6」～「9」と答えた方の合計）は 15.9%となっています。



区民(n=1179)

単数回答 単位(%)



Ⅱ 区民アンケート調査結果

■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「仕事や学校で平日は毎日外出する」が高くなっています。
- 75 歳以上は「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどにはでかける」が高くなっています。

数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	1 仕事や学校で平日は毎日外出する	2 仕事や学校で週に3～4日外出する	3 遊び等で頻繁に外出する	4 人づきあいのためにときどき外出する	5 自宅で仕事をしていて、用があるときだけ外出する	6 ふだんは家にいるが、趣味に関する用事のときは外出する	7 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどにはでかける	8 自室からは出るが、家からはでない	9 自室からはほとんど出ない
性別（自認）	男性	476	52.3	12.8	4.2	5.5	6.5	6.5	6.3	1.3	0.4
	女性	689	44.1	13.1	5.8	8.4	7.1	7.5	8.0	1.0	0.3
	その他	8	75.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	18～19歳	9	88.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
	20～24歳	35	54.3	22.9	2.9	0.0	2.9	14.3	0.0	0.0	0.0
	25～29歳	55	56.4	20.0	3.6	5.5	5.5	3.6	1.8	1.8	0.0
	30～34歳	71	54.9	16.9	5.6	2.8	8.5	4.2	7.0	0.0	0.0
	35～39歳	77	63.6	13.0	0.0	5.2	9.1	1.3	5.2	0.0	0.0
	40～44歳	100	71.0	13.0	0.0	1.0	11.0	2.0	2.0	0.0	0.0
	45～49歳	124	60.5	17.7	3.2	1.6	8.1	3.2	2.4	0.0	0.0
	50～54歳	121	62.8	19.8	1.7	0.8	8.3	2.5	1.7	0.0	0.0
	55～59歳	108	70.4	10.2	0.0	2.8	6.5	2.8	3.7	0.9	0.0
	60～64歳	84	47.6	10.7	6.0	8.3	8.3	2.4	7.1	0.0	0.0
	65～69歳	79	38.0	12.7	11.4	7.6	5.1	10.1	6.3	1.3	1.3
	70～74歳	109	22.0	6.4	11.0	15.6	4.6	20.2	11.9	1.8	0.0
	75～79歳	88	15.9	9.1	10.2	15.9	5.7	12.5	18.2	1.1	0.0
	80歳以上	116	5.2	5.2	11.2	20.7	4.3	14.7	21.6	6.0	3.4
居住地区	白河地区	113	47.8	17.7	2.7	8.0	7.1	9.7	0.9	0.9	0.0
	富岡地区	106	50.0	16.0	2.8	6.6	4.7	6.6	8.5	0.9	0.0
	豊洲地区	247	47.8	13.4	5.7	6.1	7.3	6.9	8.9	1.2	0.8
	小松橋地区	90	41.1	13.3	7.8	4.4	7.8	8.9	6.7	2.2	2.2
	東陽地区	101	54.5	8.9	5.0	5.9	8.9	5.0	5.0	2.0	0.0
	亀戸地区	143	50.3	11.9	3.5	9.1	7.0	7.0	7.0	0.7	0.0
	大島地区	135	40.7	10.4	3.7	9.6	7.4	8.9	9.6	1.5	0.0
	砂町地区	142	46.5	12.7	5.6	9.9	4.9	5.6	9.2	0.0	0.7
	南砂地区	101	48.5	10.9	10.9	5.0	6.9	5.9	5.9	1.0	0.0

- 外出頻度が低い（「6」～「9」と答えた方の合計）割合をみると、65～69 歳から年齢が上がる毎に上昇しています。

数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

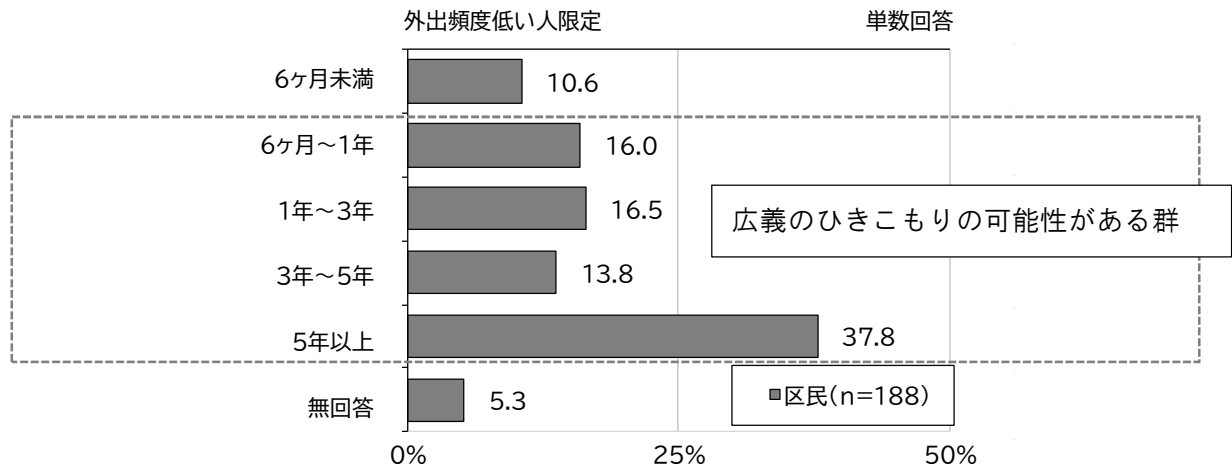
%		合計(n)	外出頻度高い	外出頻度低い
性別（自認）	男性	476	81.3	14.5
	女性	689	78.5	16.8
	その他	8	100.0	0.0
年齢	18～19歳	9	88.9	11.1
	20～24歳	35	82.9	14.3
	25～29歳	55	90.9	7.3
	30～34歳	71	88.7	11.3
	35～39歳	77	90.9	6.5
	40～44歳	100	96.0	4.0
	45～49歳	124	91.1	5.6
	50～54歳	121	93.4	4.1
	55～59歳	108	89.8	7.4
	60～64歳	84	81.0	9.5
	65～69歳	79	74.7	19.0
	70～74歳	109	59.6	33.9
	75～79歳	88	56.8	31.8
	80歳以上	116	46.6	45.7
居住地区	白河地区	113	83.2	11.5
	富岡地区	106	80.2	16.0
	豊洲地区	247	80.2	17.8
	小松橋地区	90	74.4	20.0
	東陽地区	101	83.2	11.9
	亀戸地区	143	81.8	14.7
	大島地区	135	71.9	20.0
	砂町地区	142	79.6	15.5
	南砂地区	101	82.2	12.9

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 27 問 26 で「6」～「9」と答えた方におたずねします。

あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（○は1つ）

- （外出頻度が低い人）現在の外出頻度の期間（問 27）について、「5 年以上」が 37.8%と最も高く、次いで「1 年～3 年」が 16.5%、「6 ヶ月～1 年」が 16.0%となっています。



■「広義のひきこもりの可能性がある群」について

- 国の「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）（対象 10 歳～39 歳、40 歳～69 歳）」では上記の「外出頻度が低い」と「低い期間が6 か月以上」に加えて、社会的自立条件（「現在の状態になった特定の理由」と「特定の就労状況」）に該当した人を「広義のひきこもり群」と捉えています。
- 本調査では設問数等を考慮して社会的自立条件を設定していないことから、「外出頻度が低い」と「低い期間が6 か月以上」に該当するケースを「広義のひきこもりの可能性がある群」と捉えます。
- 「広義のひきこもりの可能性がある群」の該当人数は 158 人、回答者全数（1,179 人）における割合は 13.4%となります。

Ⅱ 区民アンケート調査結果

■属性別の主な傾向 (※回答者が少数のため、参考値)

- 回答者が少数なことも影響し、現在の外出頻度の具体的な期間は様々ですが、多くの属性で「5年以上」が高くなっています。

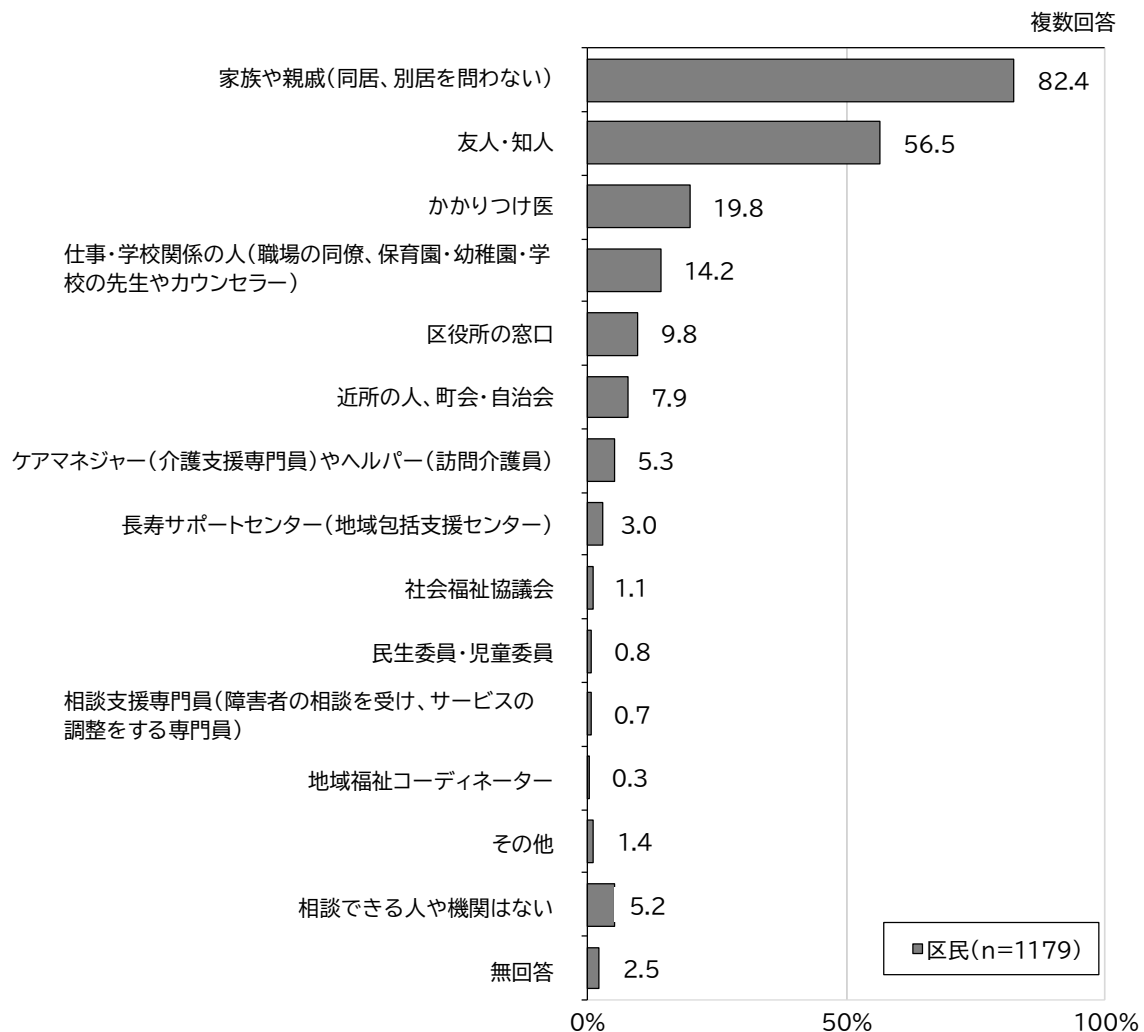
数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

	%	合計(n)	6ヶ月未満	6ヶ月～1年	1年～3年	3年～5年	5年以上
性別（自認）	男性	69	8.7	17.4	14.5	14.5	40.6
	女性	116	12.1	15.5	18.1	13.8	35.3
	その他	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	18～19歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	20～24歳	5	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0
	25～29歳	4	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0
	30～34歳	8	12.5	37.5	12.5	25.0	12.5
	35～39歳	5	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0
	40～44歳	4	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0
	45～49歳	7	14.3	28.6	0.0	28.6	28.6
	50～54歳	5	0.0	40.0	0.0	20.0	40.0
	55～59歳	8	0.0	25.0	12.5	12.5	50.0
	60～64歳	8	0.0	12.5	50.0	12.5	25.0
	65～69歳	15	20.0	20.0	33.3	6.7	20.0
	70～74歳	37	5.4	8.1	8.1	18.9	59.5
	75～79歳	28	14.3	0.0	28.6	14.3	25.0
	80歳以上	53	9.4	17.0	13.2	7.5	43.4
居住地区	白河地区	13	0.0	15.4	23.1	23.1	38.5
	富岡地区	17	17.6	5.9	5.9	17.6	52.9
	豊洲地区	44	11.4	13.6	15.9	11.4	38.6
	小松橋地区	18	0.0	33.3	16.7	5.6	38.9
	東陽地区	12	25.0	33.3	8.3	8.3	16.7
	亀戸地区	21	4.8	9.5	19.0	23.8	38.1
	大島地区	27	18.5	7.4	7.4	22.2	37.0
	砂町地区	22	0.0	22.7	22.7	9.1	40.9
	南砂地区	13	23.1	7.7	38.5	0.0	30.8

5 困ったときの相談先や福祉情報の入手先について

問 28 あなたや家族が日常生活で困った時に頼れる人や機関はありますか。（○はいくつでも）

- 困った時に頼れる人・機関（問 28）について、「家族や親戚（同居、別居を問わない）」が 82.4%と最も高く、次いで「友人・知人」が 56.5%、「かかりつけ医」が 19.8%となっています。



■属性別の主な傾向

- 多くの属性で「家族や親戚（同居、別居を問わない）」もしくは「友人・知人」が高くなっています。
- 上記以外で比較的高い（20%以上）相談先を年齢でみると、25～29 歳と 35～54 歳は「仕事・学校関係の人（職場の同僚、保育園・幼稚園・学校の先生やカウンセラー）」、70 歳以上は「かかりつけ医」となっています。
- 「相談できる人や機関はない」が比較的高い属性は、性別その他で 30%台となっています。（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

数値は％、網掛は各属性の１位、属性及び設問の「無回答」は非表示

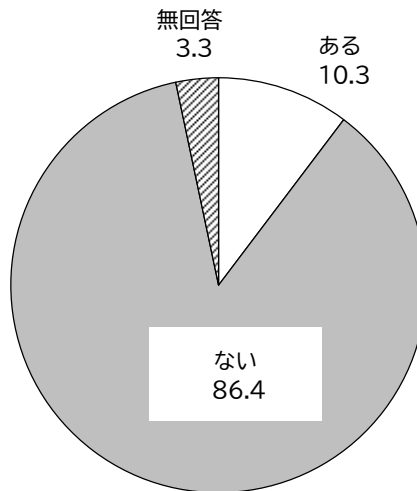
性別（自認）	％	合計(n)	家族や親戚 (同居・別居 を問わない)	友人・知人	近所の人、町 会・自治会	民生委員・児 童委員	かかりつけ医	ケアマネ ジャー（介護 支援専門員） やヘルパー （訪問介護 員）	地域福祉コー ディネーター	仕事・学校関 係の人（職場 の同僚、保育 園・幼稚園・ 学校の先生や カウンセラ ー）	相談支援専門 員（障害者の 相談を受け、 サービスの調 整をする専門 員）	長寿サポー トセンター（地 域包括支援セ ンター）	区役所の窓口	社会福祉協議 会	その他	相談できる人 や機関はない
年齢	男性	476	78.4	468	6.9	0.6	18.1	5.9	0.6	13.2	0.8	1.1	9.0	1.1	0.4	6.9
	女性	689	85.6	639	8.4	0.9	21.2	5.1	0.1	14.9	0.6	4.4	10.2	1.2	2.2	3.6
	その他	8	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5
	18～19歳	9	77.8	55.6	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1
	20～24歳	35	74.3	80.0	2.9	0.0	5.7	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9
	25～29歳	55	90.9	81.8	1.8	0.0	10.9	1.8	0.0	25.5	0.0	0.0	10.9	0.0	0.0	3.6
	30～34歳	71	93.0	69.0	0.0	0.0	8.5	0.0	0.0	16.9	0.0	0.0	5.6	0.0	1.4	1.4
	35～39歳	77	94.8	68.8	2.6	0.0	15.6	2.6	0.0	23.4	0.0	0.0	6.5	0.0	3.9	0.0
	40～44歳	100	89.0	59.0	6.0	0.0	13.0	1.0	0.0	25.0	1.0	1.0	4.0	0.0	0.0	6.0
	45～49歳	124	82.3	58.9	8.1	0.0	16.9	2.4	0.8	21.0	1.6	0.0	11.3	1.6	1.6	6.5
	50～54歳	121	82.6	51.2	3.3	0.0	21.5	3.3	0.8	22.3	0.8	0.8	12.4	0.0	0.8	7.4
	55～59歳	108	82.4	56.5	5.6	0.0	19.4	9.3	0.0	13.0	1.9	2.8	11.1	0.9	1.9	9.3
	60～64歳	84	71.4	50.0	13.1	0.0	13.1	13.1	1.2	14.3	0.0	4.8	9.5	4.8	2.4	9.5
	65～69歳	79	73.4	53.2	11.4	0.0	19.0	5.1	0.0	6.3	1.3	6.3	12.7	2.5	0.0	6.3
	70～74歳	109	84.4	51.4	11.0	1.8	24.8	3.7	0.0	4.6	0.0	3.7	11.0	2.8	1.8	3.7
	75～79歳	88	76.1	43.2	12.5	4.5	28.4	6.8	1.1	3.4	1.1	3.4	13.6	1.1	0.0	4.5
	80歳以上	116	77.6	44.8	15.5	2.6	40.5	13.8	0.0	0.9	0.0	12.1	8.6	0.0	3.4	1.7
居住地区	白河地区	113	81.4	61.1	9.7	0.9	25.7	4.4	0.9	17.7	0.9	1.8	6.2	0.9	1.8	4.4
	富岡地区	106	84.9	63.2	10.4	0.0	29.2	4.7	0.0	11.3	1.9	1.9	10.4	0.9	3.8	1.9
	豊洲地区	247	83.0	53.0	2.4	0.8	16.2	5.7	0.4	17.8	0.8	0.8	12.1	0.8	1.2	6.5
	小松橋地区	90	83.3	61.1	10.0	0.0	18.9	6.7	0.0	12.2	0.0	4.4	7.8	0.0	1.1	4.4
	東陽地区	101	81.2	59.4	5.9	0.0	22.8	4.0	0.0	18.8	1.0	3.0	15.8	2.0	0.0	5.0
	亀戸地区	143	80.4	58.0	10.5	2.8	14.7	2.8	0.0	11.9	0.7	5.6	7.0	0.7	1.4	4.9
	大島地区	135	82.2	49.6	7.4	0.7	20.0	6.7	0.7	10.4	0.0	5.2	8.1	1.5	0.7	3.7
	砂町地区	142	82.4	51.4	8.5	0.0	17.6	7.0	0.0	11.3	0.7	2.8	10.6	2.1	0.7	7.0
	南砂地区	101	82.2	59.4	12.9	2.0	19.8	5.9	1.0	14.9	0.0	3.0	7.9	1.0	3.0	6.9

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 29 現在、あなたや家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。（○は1つ）

- 相談先がわからない困りごと（問 29）について、「ある」は 10.3%、「ない」は 86.4%となっています。

区民(n=1179) 単数回答 単位(%)



■属性別の主な傾向

- 全ての属性で「ない」が高くなっています。
- 「ある」が比較的高い属性は、性別その他で 20%台となっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

数値は%、網掛は各属性の1位、属性及び設問の「無回答」は非表示

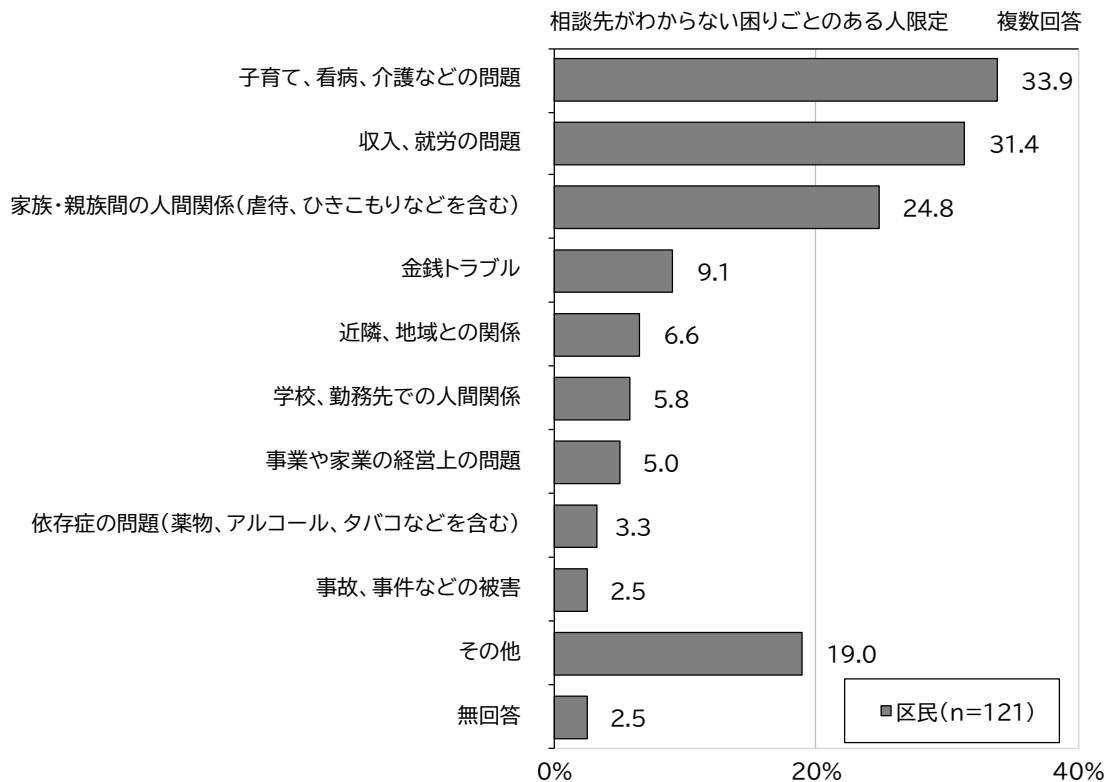
	%	合計(n)	ある	ない
性別（自認）	男性	476	8.8	88.7
	女性	689	11.0	85.3
	その他	8	25.0	75.0
年齢	18～19歳	9	11.1	88.9
	20～24歳	35	14.3	82.9
	25～29歳	55	9.1	90.9
	30～34歳	71	5.6	91.5
	35～39歳	77	13.0	85.7
	40～44歳	100	12.0	88.0
	45～49歳	124	11.3	87.9
	50～54歳	121	11.6	86.0
	55～59歳	108	12.0	88.0
	60～64歳	84	14.3	85.7
	65～69歳	79	8.9	86.1
	70～74歳	109	5.5	89.9
	75～79歳	88	9.1	85.2
	80歳以上	116	8.6	76.7
居住地区	白河地区	113	9.7	88.5
	富岡地区	106	7.5	88.7
	豊洲地区	247	11.7	83.8
	小松橋地区	90	5.6	88.9
	東陽地区	101	8.9	89.1
	亀戸地区	143	8.4	88.8
	大島地区	135	12.6	83.7
	砂町地区	142	11.3	85.2
	南砂地区	101	13.9	85.1

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 30 問 29 で「1 ある」と答えた方におたずねします。

お困りの内容は何ですか。（〇はいくつでも）

- （相談先がわからない困りごとのある人）困りごとの内容（問 30）について、「子育て、看病、介護などの問題」が 33.9%と最も高く、次いで「収入、就労の問題」が 31.4%、「家族・親族間の人間関係（虐待、ひきこもりなどを含む）」が 24.8%となっています。



■属性別の主な傾向 （※回答者が少数のため、参考値）

- 回答者が少数なことも影響し、困りごとの内容は一様ではありません。
- 性別では、男性は「収入、就労の問題」、女性は「子育て、看病、介護などの問題」、性別その他は複数の内容が高くなっています。
- 年齢では、30 代前半までは「収入、就労の問題」、30 代後半から 50 代前半にかけては「子育て、看病、介護などの問題」が高くなっています。50 代後半より上の年齢では複数の内容が高くなっています。
- 一部の地区では「収入、就労の問題」もしくは「子育て、看病、介護などの問題」が高くなっています。「その他」が高い地区もあります。

「その他」の意見（抜粋して要約）

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| ● 1 人暮らしの不安、生活の懸念 | ● ウミネコ営業対策 |
| ● 実家の空き家の対処、家屋の老朽化、相続税等 | ● 発達障害グレーゾーン、こどもの知的障害 |
| ● 近隣からの悪臭 | ● フリースクールなど学校に代わる所 |
| ● ゴミ置き場のカラス被害、ゴミだしのマナー | |

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

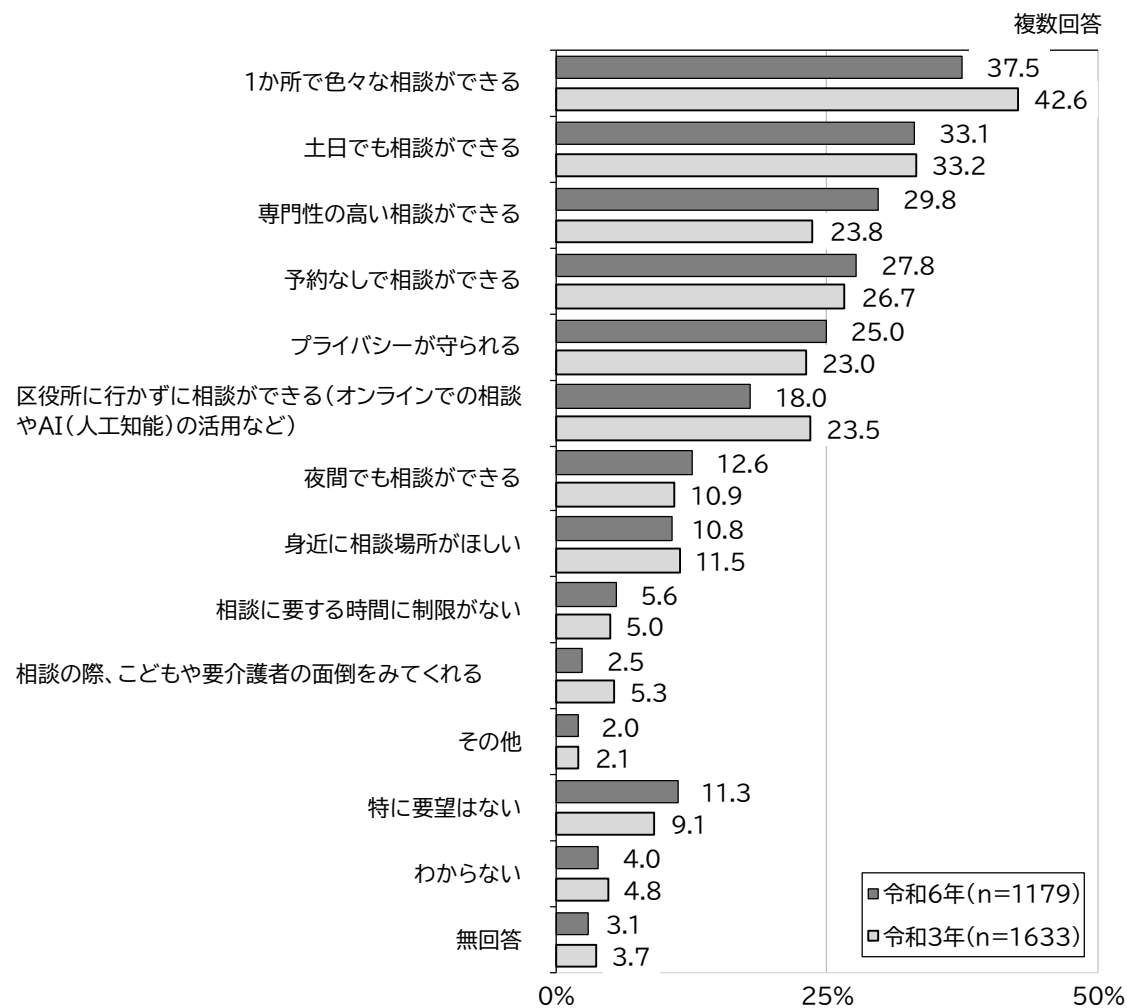
数値は％、網掛は各属性の１位、属性及び設問の「無回答」は非表示

％	合計(n)	家族・親族間の人間関係 (虐待、ひきこもりなどを 含む)	子育て、看 病、介護など の問題	依存症の問題 (薬物、アル コール、タバ コなどを含 む)	収入、就労の 問題	学校、勤務先 での人間関係	事業や家業の 経営上の問題	金銭トラブル	近隣、地域と の関係	事故、事件な どの被害	その他
性別（自認）											
男性	42	286	238	24	38.1	4.8	14.3	16.7	9.5	24	16.7
女性	76	224	40.8	2.6	27.6	6.6	0.0	5.3	5.3	2.6	19.7
その他	2	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
年齢											
18～19歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	5	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
25～29歳	5	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
30～34歳	4	0.0	0.0	0.0	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
35～39歳	10	20.0	60.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
40～44歳	12	41.7	50.0	8.3	33.3	16.7	8.3	8.3	8.3	0.0	8.3
45～49歳	14	28.6	50.0	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3	7.1	0.0	14.3
50～54歳	14	14.3	42.9	0.0	21.4	14.3	7.1	7.1	7.1	0.0	14.3
55～59歳	13	30.8	23.1	7.7	46.2	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	30.8
60～64歳	12	16.7	41.7	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	25.0
65～69歳	7	14.3	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0	42.9
70～74歳	6	66.7	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	16.7	0.0
75～79歳	8	37.5	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	37.5
80歳以上	10	10.0	30.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
居住地区											
白河地区	11	9.1	27.3	0.0	18.2	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	36.4
富岡地区	8	12.5	62.5	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
豊洲地区	29	27.6	51.7	0.0	27.6	0.0	6.9	13.8	0.0	0.0	13.8
小松橋地区	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0
東陽地区	9	22.2	55.6	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2
亀戸地区	12	8.3	16.7	0.0	25.0	16.7	0.0	8.3	16.7	8.3	41.7
大島地区	17	23.5	17.6	17.6	47.1	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	17.6
砂町地区	16	37.5	43.8	6.3	31.3	0.0	6.3	18.8	12.5	6.3	0.0
南砂地区	14	35.7	7.1	0.0	71.4	0.0	7.1	7.1	14.3	7.1	7.1

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 31 区役所等の相談窓口について要望はありますか。（〇は3つまで）

- 区役所等の相談窓口への要望（問 31）について、「1 か所で色々な相談ができる」が 37.5% と最も高く、次いで「土日でも相談ができる」が 33.1%、「専門性の高い相談ができる」が 29.8%となっています。
- 令和3年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して5ポイント以上の差）は、「専門性の高い相談ができる」が 6.0 ポイント上昇、「区役所に行かずに相談ができる（オンラインでの相談やAI（人工知能）の活用など）」が 5.5 ポイント低下、「1 か所で色々な相談ができる」が 5.1 ポイント低下しました。



■ 属性別の主な傾向

- 多くの属性で「1 か所で色々な相談ができる」もしくは「土日でも相談ができる」が高くなっています。
- 「1 か所で色々な相談ができる」は 50 代以上で概ね高く、「土日でも相談ができる」は 20 代後半から 40 代にかけて高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

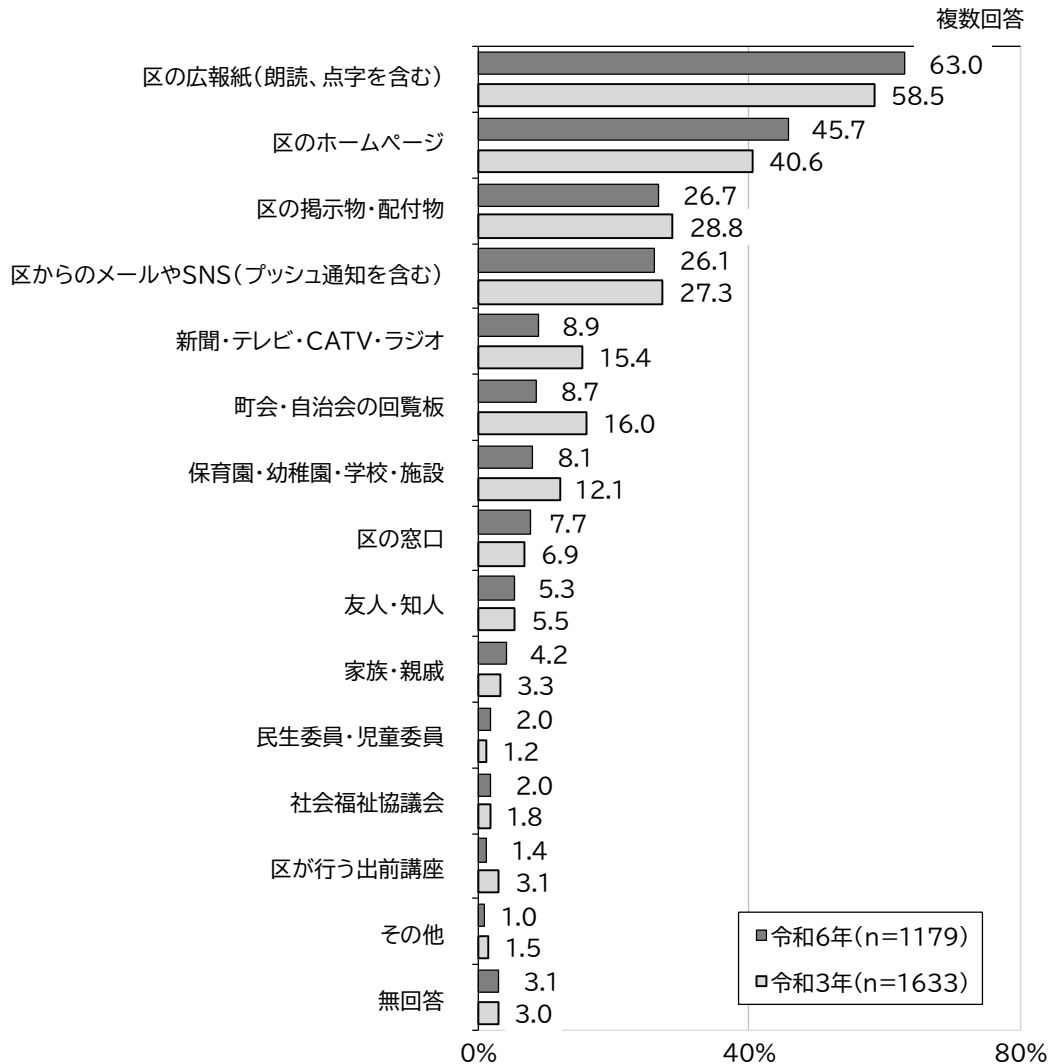
数値は％、網掛は各属性の１位、属性及び設問の「無回答」は非表示

性別（自認）	％	合計(n)	1か所で色々な相談ができる	専門性の高い相談ができる	予約なしで相談ができる	夜間でも相談ができる	土日でも相談ができる	相談に要する時間に制限がない	身近に相談場所がほしい	プライバシーが守られる	相談の際、子どもや要介護者の面倒をみてくれる	区役所に行かずに相談ができる（オンラインでの相談やAI（人工知能）の活用など）	その他	特に要望はない	わからない
年齢	男性	476	35.5	28.2	25.4	13.7	36.3	5.0	9.5	18.3	1.1	16.4	2.1	14.7	4.0
	女性	689	38.8	31.3	29.6	11.3	30.9	6.0	11.9	29.9	3.3	19.3	1.9	8.7	4.1
	その他	8	50.0	12.5	25.0	50.0	50.0	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0
	18～19歳	9	0.0	22.2	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	22.2	33.3
	20～24歳	35	34.3	28.6	17.1	22.9	25.7	5.7	11.4	25.7	0.0	17.1	2.9	8.6	5.7
	25～29歳	55	32.7	29.1	18.2	27.3	47.3	5.5	10.9	27.3	1.8	21.8	0.0	5.5	5.5
	30～34歳	71	33.8	38.0	29.6	16.9	47.9	5.6	8.5	22.5	4.2	25.4	1.4	4.2	1.4
	35～39歳	77	29.9	29.9	24.7	18.2	48.1	2.6	7.8	20.8	9.1	26.0	5.2	7.8	2.6
	40～44歳	100	38.0	35.0	21.0	15.0	42.0	6.0	11.0	29.0	6.0	24.0	1.0	6.0	3.0
	45～49歳	124	30.6	37.9	21.0	17.7	47.6	4.8	7.3	35.5	4.0	29.0	2.4	8.9	1.6
居住地区	50～54歳	121	41.3	28.1	24.0	13.2	36.4	4.1	6.6	24.0	1.7	27.3	3.3	9.1	4.1
	55～59歳	108	42.6	37.0	24.1	17.6	41.7	5.6	11.1	32.4	0.9	18.5	0.9	8.3	6.5
	60～64歳	84	39.3	35.7	32.1	11.9	36.9	7.1	10.7	26.2	0.0	15.5	2.4	14.3	2.4
	65～69歳	79	43.0	27.8	27.8	3.8	25.3	3.8	20.3	17.7	0.0	15.2	3.8	16.5	2.5
	70～74歳	109	44.0	25.7	45.9	5.5	13.8	8.3	14.7	24.8	0.9	8.3	1.8	13.8	4.6
	75～79歳	88	34.1	18.2	33.0	4.5	21.6	4.5	12.5	21.6	1.1	3.4	0.0	18.2	4.5
	80歳以上	116	40.5	18.1	35.3	2.6	6.0	7.8	11.2	14.7	1.7	4.3	0.9	19.0	5.2
	白河地区	113	31.9	27.4	23.9	15.9	43.4	6.2	9.7	34.5	4.4	22.1	1.8	8.8	5.3
	富岡地区	106	43.4	39.6	21.7	13.2	33.0	4.7	10.4	27.4	1.9	17.0	1.9	7.5	0.0
	豊洲地区	247	38.5	25.9	32.0	12.1	29.1	8.1	10.9	25.9	2.4	21.1	2.0	9.7	5.7
	小松橋地区	90	25.6	25.6	22.2	6.7	25.6	2.2	2.2	25.6	1.1	18.9	2.2	21.1	3.3
	東陽地区	101	39.6	39.6	29.7	16.8	38.6	7.9	5.0	24.8	4.0	20.8	1.0	6.9	6.9
	龍戸地区	143	32.9	24.5	28.7	11.9	39.2	4.2	12.6	23.1	1.4	15.4	4.2	11.9	2.8
	大島地区	135	40.7	26.7	29.6	11.9	31.1	6.7	13.3	18.5	0.0	15.6	1.5	11.9	3.0
	砂町地区	142	41.5	33.1	30.3	13.4	31.7	4.9	15.5	21.1	3.5	18.3	2.1	13.4	2.8
	南砂地区	101	39.6	31.7	24.8	10.9	28.7	2.0	12.9	26.7	4.0	9.9	0.0	12.9	5.0

Ⅱ 区民アンケート調査結果

問 32 今後、区の福祉に関する情報を主に何（誰）から入手したいですか。（〇は3つまで）

- 区の福祉情報の入手先（問 32）について、「区の広報紙（朗読、点字を含む）」が 63.0%と最も高く、次いで「区のホームページ」が 45.7%、「区の掲示物・配付物」が 26.7%となっています。
- 令和 3 年から変化がみられた項目（標本誤差を考慮して 5 ポイント以上の差）は、「区のホームページ」が 5.1 ポイント上昇、「町会・自治会の回覧板」が 7.3 ポイント低下、「新聞・テレビ・CATV・ラジオ」が 6.5 ポイント低下しました。



■ 属性別の主な傾向

- 多くの属性で「区の広報紙（朗読、点字を含む）」もしくは「区のホームページ」が高くなっています。
- 「区からのメールやSNS（プッシュ通知を含む）」の希望は、64 歳以下（20～24 歳、50～54 歳を除く）で 30～40%台と比較的高くなっています。

（データは次ページ参照）

Ⅱ 区民アンケート調査結果

数値は％、網掛は各属性の１位、属性及び設問の「無回答」は非表示

％		合計(n)	区の広報紙 (朗読、点字 を含む)	区のホーム ページ	区の窓口	区の掲示物・ 配付物	区が行う出前 講座	民生委員・児 童委員	社会福祉協議 会	町会・自治会 の回覧板	新聞・テレ ビ・CAT V・ラジオ	区からのメー ルやSNS (ブッシュ通 知を含む)	家族・親戚	友人・知人	保育園・幼稚 園・学校・施 設	その他
性別 (自認)	男性	476	61.3	47.9	7.6	26.5	1.7	27	2.3	6.7	9.5	23.5	4.2	4.8	5.3	0.6
	女性	689	64.6	44.7	7.8	27.0	1.2	1.6	1.5	9.9	8.6	28.3	3.9	5.4	10.0	1.3
年齢	その他	8	62.5	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	0.0
	18～19歳	9	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	44.4	11.1	11.1	0.0	0.0
	20～24歳	35	34.3	37.1	2.9	34.3	0.0	2.9	0.0	2.9	11.4	25.7	5.7	2.9	0.0	0.0
	25～29歳	55	40.0	58.2	1.8	18.2	1.8	0.0	3.6	5.5	7.3	38.2	7.3	10.9	7.3	3.6
	30～34歳	71	54.9	49.3	9.9	15.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	31.0	4.2	5.6	18.3	1.4
	35～39歳	77	51.9	51.9	3.9	16.9	0.0	0.0	1.3	1.3	3.9	41.6	5.2	1.3	36.4	1.3
	40～44歳	100	70.0	45.0	6.0	21.0	1.0	1.0	1.0	4.0	8.0	37.0	2.0	5.0	29.0	0.0
	45～49歳	124	55.6	53.2	5.6	24.2	0.0	0.0	0.0	8.1	4.8	36.3	0.0	1.6	7.3	1.6
	50～54歳	121	63.6	62.8	5.0	21.5	2.5	0.8	0.8	5.0	9.1	29.8	4.1	1.7	4.1	0.8
	55～59歳	108	64.8	64.8	9.3	23.1	3.7	2.8	2.8	8.3	9.3	33.3	2.8	5.6	0.9	0.9
居住地区	60～64歳	84	75.0	54.8	10.7	32.1	3.6	0.0	1.2	7.1	11.9	31.0	3.6	4.8	2.4	1.2
	65～69歳	79	82.3	49.4	11.4	29.1	1.3	1.3	2.5	11.4	12.7	13.9	6.3	10.1	0.0	0.0
	70～74歳	109	80.7	35.8	6.4	38.5	1.8	2.8	1.8	11.9	8.3	12.8	2.8	5.5	2.8	1.8
	75～79歳	88	59.1	20.5	10.2	37.5	1.1	4.5	2.3	18.2	13.6	11.4	8.0	6.8	0.0	0.0
	80歳以上	116	62.9	13.8	13.8	36.2	0.0	7.8	5.2	20.7	12.1	3.4	6.0	9.5	0.0	0.9
	白河地区	113	63.7	44.2	4.4	22.1	0.9	4.4	1.8	12.4	11.5	28.3	1.8	3.5	8.8	0.9
	雷岡地区	106	68.9	47.2	1.9	28.3	0.9	2.8	0.0	6.6	5.7	26.4	3.8	5.7	4.7	0.9
	豊洲地区	247	66.0	49.0	8.5	27.1	1.6	0.8	1.6	5.3	8.1	29.1	3.6	5.3	8.1	0.4
	小松橋地区	90	57.8	40.0	11.1	16.7	1.1	3.3	2.2	4.4	12.2	27.8	2.2	2.2	8.9	1.1
	真隣地区	101	63.4	47.5	4.0	30.7	1.0	0.0	3.0	7.9	5.0	31.7	4.0	5.0	12.9	0.0
	亀戸地区	143	59.4	53.8	11.9	23.8	0.7	2.8	2.1	9.8	7.7	21.7	2.8	4.9	7.0	2.8
	大島地区	135	61.5	41.5	5.9	29.6	2.2	0.7	3.7	12.6	11.1	20.7	5.2	5.2	7.4	0.0
	砂町地区	142	62.0	44.4	8.5	31.0	2.8	2.1	2.1	11.3	10.6	23.9	5.6	4.9	6.3	1.4
	南砂地区	101	62.4	37.6	11.9	28.7	0.0	3.0	1.0	8.9	8.9	24.8	8.9	11.9	9.9	2.0

6 区の地域福祉について

問 33 区の地域福祉を進める上での意見・提案をお聴かせください。

ア 区民同士や地域活動による支えあいに関する意見・提案（自由記入）

○ 回答者のうち、218 人から意見を頂きました。意見の分類と件数は以下のとおりです。

番号	分類	件数
1	住民同士の交流、地域の居場所の増加	45 件
2	自治・地域活動の活性化と課題	37 件
3	支え合いの工夫（ボランティア含む）	32 件
4	情報の発信、広報	15 件
5	民間・公共施設・スペースの活用	13 件
6	高齢者支援	10 件
7	防災、防犯、交通	9 件
8	外国人住民との共生	8 件
9	子育て・若者支援	7 件
10	その他の意見	21 件
11	特に意見はない、わからない等	21 件
合計		218 件

（注）1 人で複数の意見が記載してある場合は代表的な意見で分類と件数に計上した。

イ 区の福祉に関する意見・提案（自由記入）

○ 回答者のうち、220 人から意見を頂きました。意見の分類と件数は以下のとおりです。

番号	分類	件数
1	教育、啓発活動、情報発信、広報	34 件
2	子育て・若者、現役世代への支援	19 件
3	高齢者支援	18 件
4	生活、安全、交通、就労	18 件
5	地域の居場所、活動・福祉の担い手への支援	16 件
6	生活困窮、手当、補助、生活保護	14 件
7	相談支援	12 件
8	障害者支援	11 件
9	制度や区への要望	40 件
10	その他の意見	18 件
11	特に意見はない、わからない等	20 件
合計		220 件

（注）1 人で複数の意見が記載してある場合は代表的な意見で分類と件数に計上した。

Ⅲ 区民アンケート調査結果分析

分析１ 近所の「顔も知らない人が多い」人について

- 近所との付き合い方（問８）の全体結果は「あいさつをする程度の付き合いが多い」が 50% 台、「顔も知らない人が多い」は 20% 台です。
- 「顔も知らない人が多い」に注目すると、回答者の属性は 25～29 歳、居住歴 2 年以下、民営の賃貸住宅と給与住宅（社宅・公務員住宅など）・寮・寄宿舍、学生・生徒の割合が比較的高く（50%以上）なっています。

数値は%、網掛は太枠項目のうち 50%以上、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	家族ぐるみの 付き合いが多い	おみやげをあ げたり（も らったり）、 何かを手伝い あうことが多い	あいさつをする 程度の付き あいが多い	顔は知っているが、あいさ つをしないこ とが多い	顔も知らない 人が多い	その他
性別（自認）	男性	476	3.8	9.2	52.1	4.6	27.7	2.3
	女性	689	4.2	11.2	56.9	3.5	23.1	0.9
	その他	8	12.5	0.0	87.5	0.0	0.0	0.0
年齢	18～19歳	9	11.1	0.0	44.4	0.0	44.4	0.0
	20～24歳	35	5.7	2.9	34.3	8.6	48.6	0.0
	25～29歳	55	1.8	0.0	23.6	7.3	67.3	0.0
	30～34歳	71	2.8	0.0	43.7	7.0	46.5	0.0
	35～39歳	77	3.9	7.8	54.5	5.2	28.6	0.0
	40～44歳	100	4.0	5.0	53.0	11.0	27.0	0.0
	45～49歳	124	4.8	10.5	60.5	0.0	24.2	0.0
	50～54歳	121	3.3	6.6	59.5	3.3	27.3	0.0
	55～59歳	108	3.7	8.3	62.0	3.7	21.3	0.9
	60～64歳	84	1.2	14.3	64.3	3.6	14.3	2.4
	65～69歳	79	2.5	13.9	67.1	1.3	13.9	1.3
	70～74歳	109	1.8	19.3	55.0	1.8	16.5	4.6
	75～79歳	88	4.5	14.8	60.2	3.4	13.6	2.3
	80歳以上	116	10.3	19.8	50.9	1.7	10.3	6.0
居住地区	白河地区	113	2.7	9.7	59.3	4.4	23.0	0.9
	富岡地区	106	2.8	10.4	59.4	4.7	21.7	0.9
	豊洲地区	247	5.3	7.7	49.8	3.6	32.8	0.4
	小松橋地区	90	4.4	8.9	56.7	4.4	22.2	1.1
	東陽地区	101	2.0	11.9	54.5	4.0	27.7	0.0
	亀戸地区	143	3.5	13.3	50.3	3.5	25.9	3.5
	大島地区	135	3.7	10.4	51.9	3.7	26.7	3.7
	砂町地区	142	4.2	13.4	62.0	4.9	13.4	2.1
	南砂地区	101	6.9	8.9	61.4	2.0	19.8	1.0
	2年以下	157	2.5	1.3	39.5	3.2	52.9	0.6
居住歴	3～5年	165	3.0	6.1	46.1	5.5	38.2	1.2
	6～9年	133	5.3	8.3	56.4	3.8	26.3	0.0
	10～19年	281	3.2	9.3	57.3	4.3	24.2	1.4
	20～29年	208	3.4	12.0	64.4	4.3	13.0	1.9
	30年以上	232	6.9	20.7	60.8	2.6	6.0	3.0
	持ち家（一戸建）	181	8.3	18.2	63.5	3.3	5.5	1.1
住まい形態	持ち家（マンションなどの共同住宅）	566	3.9	10.6	60.1	3.0	21.0	1.4
	民営の賃貸住宅	230	0.9	3.9	37.0	6.5	50.9	0.9
	都・区営の賃貸住宅・都市再生機構（UR）・公社	151	6.0	12.6	55.0	4.6	17.9	2.6
	給与住宅（社宅・公務員住宅など）・寮・寄宿舍	27	0.0	3.7	33.3	0.0	63.0	0.0
	その他・わからない	23	0.0	0.0	82.6	4.3	4.3	8.7
	1人世帯	242	1.7	8.7	39.3	3.7	43.4	2.9
世帯構成	夫婦だけの1世代世帯	354	3.4	13.8	54.8	3.1	23.2	1.4
	親と子の2世代世帯	505	5.1	8.3	63.4	4.8	17.4	1.0
	親と子と孫の3世代世帯	32	15.6	21.9	53.1	0.0	9.4	0.0
	その他の世帯	42	2.4	4.8	57.1	4.8	28.6	2.4
	正規の職員・従業員	448	4.7	5.1	50.4	5.6	33.9	0.2
働き方	非正規の職員・従業員（派遣・契約社員、パート等）	249	2.4	14.9	59.0	2.0	20.9	0.8
	会社などの役員	40	10.0	12.5	50.0	5.0	22.5	0.0
	自営業主	71	1.4	15.5	53.5	4.2	25.4	0.0
	家族従業者・内職	17	0.0	23.5	70.6	0.0	0.0	5.9
	学生・生徒	23	4.3	0.0	26.1	8.7	60.9	0.0
	収入をともなう仕事をしていない（仕事を探している）	42	2.4	11.9	66.7	2.4	14.3	2.4
	収入をともなう仕事をしていない（仕事を探していない）	228	4.8	13.2	62.7	3.1	13.2	2.6
	その他	53	5.7	11.3	52.8	0.0	15.1	13.2

Ⅲ 区民アンケート調査結果分析

- 「顔も知らない人が多い」と回答した人は、近所や地域との関わりに「あまり必要ないと思う」や「必要ないと思う」、近所に困っている人がいる場合に「助けたいとは思わない」、地域の「つながり」に重要なことに「つながる必要はない」もそれぞれ高い（50%以上）ことから、進学や就職で賃貸住宅や社宅に入居をし始めた若い世代は近所付き合いが浅く、その必要性も感じていない意識がうかがえます。

数値は%、網掛は太枠項目のうち 50%以上、属性及び設問の「無回答」は非表示

	%	合計(n)	家族ぐるみの 付き合いが多い	おみやげをあげたり（も らったり）、 何かを手伝い あうことが多い	あいさつをする 程度の付き合い が多い	顔は知っているが、あいさ つをしないこ とが多い	顔も知らない 人が多い	その他
関わりへの意識	必要だと思う	246	12.6	28.0	48.4	0.8	6.5	3.3
	ある程度は必要だと思う	682	1.8	6.0	63.0	4.3	23.9	1.0
	あまり必要ないと思う	144	0.7	0.0	37.5	7.6	53.5	0.7
	必要ないと思う	19	0.0	0.0	21.1	0.0	68.4	10.5
近所に困って いる人がいる 場合の気持ち	自分ができる範囲で助けたい	458	5.5	13.5	53.1	4.1	22.7	1.1
	周りの人や区と一緒に助けたい	240	5.0	15.4	55.4	2.1	20.0	2.1
	助けたいが、仕事や家族の面倒で時間がとれない	162	3.1	6.2	65.4	4.3	20.4	0.6
	助けたいが、心身の状況でできない	45	0.0	8.9	68.9	4.4	11.1	6.7
	助けたいが、助ける方法がわからない	151	0.7	2.0	55.6	6.6	34.4	0.7
	助けたいとは思わない	24	4.2	0.0	41.7	0.0	54.2	0.0
	わからない	56	1.8	0.0	39.3	1.8	50.0	5.4
	町会・自治会への所属	337	8.6	17.2	50.1	3.9	17.2	2.7
「つながり」 に重要なこと	隣近所や地域の付き合い	781	5.4	12.8	59.2	2.9	18.4	1.2
	趣味やスポーツ等のサークル活動	340	4.4	11.5	53.5	4.4	23.8	2.1
	共通の課題を抱える方同士との交流	123	2.4	8.9	49.6	8.1	30.9	0.0
	NPO等の特定分野での支援団体とのつながり	111	2.7	4.5	55.0	4.5	29.7	3.6
	その他	43	0.0	9.3	48.8	4.7	34.9	0.0
	つながる必要はない	86	0.0	1.2	32.6	5.8	57.0	3.5

- 「顔も知らない人が多い」と回答した人の中にも地域への貢献をしたいと「思っている」が 10%台みられます。参加したい地域活動では「社会福祉法人、福祉サービス事業者などが行うイベント・講習会・ボランティア」、「趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）」、「区、商店街、NPOなどが行うイベント・講習会・ボランティア」が 20%台、地域活動の参加条件は「自分の能力向上につながる事」、「参加に報酬がある事」が 30%台という結果は、地域のつながりづくりのヒントになると考えられます。

数値は%、属性及び設問の「無回答」は非表示

	%	合計(n)	家族ぐるみの 付き合いが多い	おみやげをあげたり（も らったり）、 何かを手伝い あうことが多い	あいさつをする 程度の付き合い が多い	顔は知っているが、あいさ つをしないこ とが多い	顔も知らない 人が多い	その他
地域への貢献	思っている	476	6.9	17.2	52.9	3.4	17.2	1.9
	あまり考えていない	676	2.1	5.3	56.7	4.3	30.5	1.2
参加したい地域 活動	町会・自治会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動	336	6.8	17.6	56.0	2.1	14.6	3.0
	保護者会、PTAなどが行う、学校などを拠点とする活動	137	9.5	11.7	61.3	3.6	13.9	0.0
	社会福祉法人、福祉サービス事業者などが行うイベント・講習会・ボランティア	195	3.1	11.3	58.5	3.6	23.6	0.0
	趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）	488	3.9	13.9	51.6	4.1	25.2	1.0
	区、商店街、NPOなどが行うイベント・講習会・ボランティア	234	3.4	10.3	53.0	5.6	26.5	1.3
	自分たちが主体となって行う地域活動（交流づくり、居場所づくりなど）	112	11.6	17.0	42.9	6.3	19.6	2.7
	その他	36	5.6	8.3	52.8	2.8	22.2	5.6
	そうした活動に参加したくない・関心がない	208	0.0	3.4	54.3	5.3	35.1	1.9
	自分の時間に余裕があること	680	5.4	10.7	55.4	3.8	23.2	1.2
	時間や期間にあまりしづらいこと	637	4.6	11.6	56.2	3.6	23.5	0.5
地域活動の参加条件	関心・興味のあるテーマの活動があること	592	3.4	10.3	54.6	3.7	27.2	0.8
	知り合いや気の合う仲間がいること	465	4.9	14.2	55.1	4.7	19.6	1.3
	身近な場所で活動できること	564	5.5	13.1	55.3	3.0	21.3	1.8
	家族の理解・協力が得られること	164	5.5	14.0	61.6	3.0	15.9	0.0
	子どもの世話や親の介護を代わってもらうこと	69	4.3	11.6	65.2	1.4	17.4	0.0
	自分の能力向上につながる事	174	3.4	10.9	44.3	5.2	34.5	1.1
	参加に報酬があること	163	1.2	8.0	52.8	6.7	30.7	0.6
	その他	26	3.8	19.2	34.6	0.0	34.6	3.8
	そうした活動に参加したくない・関心がない	71	0.0	0.0	53.5	7.0	35.2	4.2

分析2 地域貢献の意欲と地域活動について

- 地域貢献の意欲（問18）の全体結果は、「思っている」が40%台、「あまり考えていない」が50%台です。
- 多くの回答者属性で地域に役立ちたいと「あまり考えていない」割合が上回りますが、その中でも60～74歳、80歳以上、居住歴30年以上、自営業主は地域貢献の意欲が比較的高くなっています（※）。加えて、会社などの役員は地域に役立ちたいと「思っている」が「あまり考えていない」を5ポイント以上上回っています。こうした属性の区民は地域活動の担い手として期待できる存在と考えられます。

（※「思っている」と「あまり考えていない」が差が5ポイント未満）

数値は%、網掛は各項目の5ポイント未満の差、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	地域に役立ちたいと「思っている」	地域に役立ちたいと「あまり考えていない」	「思っている」-「あまり考えていない」
性別(自認)	男性	476	42.4	55.0	-12.6
	女性	689	38.9	58.9	-20.0
	その他	8	25.0	75.0	-50.0
年齢	18～19歳	9	44.4	55.6	-11.2
	20～24歳	35	34.3	62.9	-28.6
	25～29歳	55	23.6	76.4	-52.8
	30～34歳	71	28.2	71.8	-43.6
	35～39歳	77	31.2	67.5	-36.3
	40～44歳	100	37.0	63.0	-26.0
	45～49歳	124	46.0	54.0	-8.0
	50～54歳	121	32.2	66.1	-33.9
	55～59歳	108	45.4	53.7	-8.3
	60～64歳	84	48.8	48.8	0.0
	65～69歳	79	50.6	48.1	2.5
	70～74歳	109	45.9	49.5	-3.6
	75～79歳	88	44.3	52.3	-8.0
	80歳以上	116	44.0	46.6	-2.6
居住地区	白河地区	113	43.4	56.6	-13.2
	富岡地区	106	49.1	48.1	1.0
	豊洲地区	247	42.9	55.1	-12.2
	小松橋地区	90	37.8	56.7	-18.9
	東陽地区	101	40.6	59.4	-18.8
	亀戸地区	143	37.1	59.4	-22.3
	大島地区	135	28.9	67.4	-38.5
	砂町地区	142	43.0	55.6	-12.6
	南砂地区	101	40.6	57.4	-16.8
居住歴	2年以下	157	34.4	64.3	-29.9
	3～5年	165	32.7	64.8	-32.1
	6～9年	133	37.6	61.7	-24.1
	10～19年	281	39.5	59.1	-19.6
	20～29年	208	44.7	54.3	-9.6
	30年以上	232	48.7	45.3	3.4
住まい形態	持ち家(一戸建)	181	48.6	47.5	1.1
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	566	42.6	55.7	-13.1
	民営の賃貸住宅	230	32.2	66.5	-34.3
	都・区営の賃貸住宅・都市再生機構(UR)・公社	151	35.1	60.9	-25.8
	給与住宅(社宅・公務員住宅など)・寮・寄宿舍	27	44.4	55.6	-11.2
	その他・わからない	23	30.4	65.2	-34.8
世帯構成	1人世帯	242	34.7	61.2	-26.5
	夫婦だけの1世代世帯	354	45.5	52.8	-7.3
	親と子の2世代世帯	505	39.6	58.4	-18.8
	親と子と孫の3世代世帯	32	46.9	53.1	-6.2
	その他の世帯	42	31.0	66.7	-35.7
働き方	正規の職員・従業員	448	36.2	63.4	-27.2
	非正規の職員・従業員(派遣・契約社員、パート等)	249	40.6	58.6	-18.0
	会社などの役員	40	52.5	45.0	7.5
	自営業主	71	49.3	50.7	-1.4
	家族従業者・内職	17	47.1	47.1	0.0
	学生・生徒	23	43.5	47.8	-4.3
	収入をとまなう仕事をしていない(仕事を探している)	42	50.0	47.6	2.4
	収入をとまなう仕事をしていない(仕事を探していない)	228	40.8	54.4	-13.6
	その他	53	41.5	49.1	-7.6

Ⅲ 区民アンケート調査結果分析

- 地域貢献の意欲と近所付き合いの程度をみると、地域貢献の意欲がある（思っている）人は親密な近所付き合いをしている傾向がみられます。

数値は%、網掛は各属性で高い割合、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	地域に役立ちたいと「思っている」	地域に役立ちたいと「あまり考えていない」
近所付き合い	家族ぐるみの付き合いが多い	48	68.8	29.2
	おみやげをあげたり(もらったり)、何かを手伝いあうことが多い	122	67.2	29.5
	あいさつをする程度の付き合いが多い	651	38.7	58.8
	顔は知っているが、あいさつをしないことが多い	46	34.8	63.0
	顔も知らない人が多い	291	28.2	70.8
	その他	18	50.0	44.4

- 地域貢献の意欲と助けあいのできること・したいことをみると、地域貢献の意欲がある（思っている）人は「登下校時の見守り、地域のパトロール」や「自分の時間、経験、知識、体力を生かせること」（いずれも 60%台）などを挙げています。一方、地域貢献の意欲が低い（あまり考えていない）人も「災害時の地域での助けあい」には関心を示しています。

数値は%、網掛は各属性で高い割合、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	地域に役立ちたいと「思っている」	地域に役立ちたいと「あまり考えていない」
助けあいのできること・したいこと	話し相手、声かけ	638	49.1	48.3
	ちょっとした手伝い(例 ごみ出し、買い物、植木の手入れ、家・玄関周りの掃除)	379	56.2	41.2
	短時間、家族の面倒をみる(こども、高齢者等)	86	58.1	40.7
	火事や災害時の助けあい	551	45.0	53.7
	登下校時の見守り、地域のパトロール	147	63.3	36.7
	自分の時間、経験、知識、体力を生かせること	62	67.7	29.0
	特になし	118	12.7	84.7

- 地域貢献の意欲と助けあいを地域に広げる区の実施をみると、地域貢献の意欲がある（思っている）人は「町会・自治会の加入促進」や「住民同士、住民と行政が地域福祉について話しあう機会の確保」（いずれも 60%台）などを挙げています。

数値は%、網掛は各属性で高い割合、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	地域に役立ちたいと「思っている」	地域に役立ちたいと「あまり考えていない」
助けあいを地域に広げる区の実施	福祉活動の重要性の発信や地域共生に関する社会の理解促進	291	47.8	50.9
	住民同士、住民と行政が地域福祉について話しあう機会の確保	162	61.1	36.4
	誰でも気軽に集える、住民やNPO等が中心となる「地域の居場所」づくり	391	48.6	49.9
	地域福祉やボランティアについての研修・講座の開催	115	57.4	41.7
	わかりやすい福祉情報・地域活動情報の提供	541	38.8	59.5
	地域福祉活動団体の運営ノウハウ(資金調達等)の提供	52	48.1	51.9
	地域福祉活動の相談や指導をするコーディネーターの派遣	103	37.9	61.2
	地域福祉活動やボランティア等の拠点・窓口の整備	191	49.2	49.2
	地域福祉活動に伴う費用助成の充実	203	42.9	54.7
	町会・自治会の加入促進	103	62.1	35.0
	有志(周りの人、近所同士)で助けあう仕組みづくり	204	54.9	43.6
	その他	34	55.9	44.1
	わからない	121	12.4	86.8

Ⅲ 区民アンケート調査結果分析

- 地域貢献の意欲と参加したい地域活動をみると、地域貢献の意欲がある（思っている）人は「自分たちが主体となって行う地域活動（交流づくり、居場所づくりなど）」、「町会・自治会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動」、「社会福祉法人、福祉サービス事業者などが行うイベント・講習会・ボランティア」（いずれも 60～70%台）などを挙げています。

数値は%、網掛は各属性で高い割合、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	地域に役立ちたいと「思っている」	地域に役立ちたいと「あまり考えていない」
参加したい地域活動	町会・自治会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動	336	64.0	34.8
	保護者会、PTAなどが行う、学校などを拠点とする活動	137	54.0	46.0
	社会福祉法人、福祉サービス事業者などが行うイベント・講習会・ボランティア	195	63.6	34.4
	趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動（自分が関心のある分野）	488	44.3	54.3
	区、商店街、NPOなどが行うイベント・講習会・ボランティア	234	58.1	41.9
	自分たちが主体となって行う地域活動（交流づくり、居場所づくりなど）	112	74.1	23.2
	その他	36	52.8	38.9
	そうした活動に参加したくない・関心がない	208	4.8	95.2

- 地域貢献の意欲と地域活動の参加条件をみると、地域貢献の意欲がある（思っている）人は「身近な場所で活動できること」や「家族の理解・協力が得られること」（いずれも 50%台）などを挙げています。

数値は%、網掛は各属性で高い割合、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	地域に役立ちたいと「思っている」	地域に役立ちたいと「あまり考えていない」
地域活動の参加条件	自分の時間に余裕があること	680	45.0	54.3
	時間や期間にあまりしばられないこと	637	43.8	55.1
	関心・興味のあるテーマの活動があること	592	44.4	54.2
	知り合いや気の合う仲間がいること	465	44.3	54.6
	身近な場所で活動できること	564	52.0	47.2
	家族の理解・協力が得られること	164	50.6	48.2
	子どもの世話や親の介護を代わってもらふこと	69	44.9	55.1
	自分の能力向上につながる事	174	43.7	55.2
	参加に報酬があること	163	33.1	66.3
	その他	26	46.2	42.3
	そうした活動に参加したくない・関心がない	71	4.2	95.8

- これらの結果を踏まえ、地域活動の担い手育成、地域活動に参加する動機付け、地域活動の活性化を検討するヒントになると考えられます。

分析3 孤独を感じる人について

- 自分が孤独とを感じるか（問 23）の全体結果は、「ほとんどない（月 1 回未満）」が 40%台、「決してない」が 30%台です。一方、「しばしばある・常にある（週 1 回以上）」は 4.7%であり、国の「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査／令和 5 年実施（人々のつながりに関する基礎調査（16 歳以上）問 24）」の 4.8%と同程度です。
- 孤独と感ずることが「しばしばある・常にある（週 1 回以上）」に注目すると、回答者の属性は性別その他、18～19 歳、20～24 歳、居住歴 3～5 年、給与住宅（社宅・公務員住宅など）・寮・寄宿舎、収入をとまなう仕事をしていない（仕事を探している）の割合が比較的高く（10%以上）なっています。

数値は%、網掛は太枠項目のうち 10%以上、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	決してない	ほとんどない (月 1 回未満)	たまにある(月 1 回程度)	時々ある(月 2 ～3 回程度)	しばしばある・ 常にある(週 1 回以上)
性別(自認)	男性	476	33.0	42.4	13.9	6.5	3.8
	女性	689	30.8	39.3	17.0	7.3	4.9
	その他	8	0.0	62.5	12.5	0.0	25.0
年齢	18～19歳	9	33.3	55.6	0.0	0.0	11.1
	20～24歳	35	22.9	34.3	11.4	14.3	17.1
	25～29歳	55	32.7	32.7	25.5	3.6	3.6
	30～34歳	71	32.4	39.4	18.3	7.0	2.8
	35～39歳	77	36.4	37.7	10.4	7.8	7.8
	40～44歳	100	37.0	38.0	17.0	4.0	4.0
	45～49歳	124	28.2	45.2	12.9	5.6	8.1
	50～54歳	121	36.4	41.3	11.6	4.1	6.6
	55～59歳	108	35.2	38.0	14.8	7.4	4.6
	60～64歳	84	28.6	47.6	13.1	8.3	2.4
	65～69歳	79	27.8	44.3	17.7	8.9	1.3
	70～74歳	109	23.9	46.8	20.2	5.5	0.9
	75～79歳	88	33.0	37.5	17.0	10.2	2.3
	80歳以上	116	27.6	38.8	18.1	8.6	4.3
居住地区	白河地区	113	30.1	39.8	14.2	8.8	7.1
	富岡地区	106	26.4	37.7	20.8	7.5	5.7
	豊洲地区	247	34.4	37.7	19.0	4.9	4.0
	小松橋地区	90	24.4	42.2	16.7	5.6	7.8
	東陽地区	101	36.6	36.6	14.9	9.9	2.0
	亀戸地区	143	26.6	47.6	13.3	6.3	6.3
	大島地区	135	33.3	44.4	12.6	3.7	5.2
	砂町地区	142	31.7	40.1	16.9	8.5	2.8
	南砂地区	101	35.6	42.6	9.9	8.9	2.0
居住歴	2年以下	157	33.1	38.2	14.0	8.9	5.1
	3～5年	165	26.1	42.4	15.2	6.1	10.3
	6～9年	133	37.6	38.3	12.8	6.0	4.5
	10～19年	281	27.4	44.8	16.7	5.3	5.0
	20～29年	208	29.3	44.7	14.4	8.7	1.9
	30年以上	232	37.5	34.5	18.5	6.9	2.2
住まい形態	持ち家(一戸建)	181	33.7	40.3	18.2	5.0	2.2
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	566	33.6	42.6	13.6	6.4	3.5
	民営の賃貸住宅	230	26.5	40.0	16.1	8.7	8.3
	都・区営の賃貸住宅・都市再生機構(UR)・公社	151	29.1	41.1	16.6	7.3	4.6
	給与住宅(社宅・公務員住宅など)・寮・寄宿舎	27	33.3	25.9	18.5	11.1	11.1
	その他・わからない	23	21.7	26.1	34.8	8.7	8.7
世帯構成	1人世帯	242	17.8	36.4	21.5	13.6	9.1
	夫婦だけの1世代世帯	354	32.8	42.7	15.0	5.9	3.7
	親と子の2世代世帯	505	36.6	42.2	12.5	5.1	3.2
	親と子と孫の3世代世帯	32	43.8	25.0	21.9	0.0	9.4
	その他の世帯	42	23.8	50.0	21.4	2.4	2.4
働き方	正規の職員・従業員	448	34.2	41.7	13.2	6.5	4.0
	非正規の職員・従業員(派遣・契約社員、パート等)	249	33.7	37.3	17.3	6.0	5.2
	会社などの役員	40	30.0	47.5	10.0	7.5	5.0
	自営業主	71	32.4	42.3	19.7	2.8	2.8
	家族従業者・内職	17	29.4	23.5	23.5	11.8	5.9
	学生・生徒	23	21.7	52.2	8.7	8.7	8.7
	収入をとまなう仕事をしていない(仕事を探している)	42	16.7	40.5	26.2	4.8	11.9
	収入をとまなう仕事をしていない(仕事を探していない)	228	28.5	41.7	17.1	8.3	3.9
	その他	53	28.3	39.6	13.2	11.3	5.7

Ⅲ 区民アンケート調査結果分析

- 孤独と覚えることが「しばしばある・常にある（週 1 回以上）」と回答した人にも地域活動への参加意向はみられます。
- 地域活動の参加条件は「子どもの世話や親の介護を代わってもらうこと」が 10% 台、「参加に報酬があること」が 9% 台です。地域の居場所（自宅以外で過ごしたい身近な場所）は「その他」が 10% 台です。その他の内容（自由記述）は健康であることを挙げています。
- これらの結果は孤独を覚える人を支援する地域づくりのヒントになると考えられます。

数値は%、網掛は太枠項目のうち 10% 以上、属性及び設問の「無回答」は非表示

	%	合計(n)	決してない	ほとんどない (月 1 回未満)	たまにある(月 1 回程度)	時々ある(月 2 ～3 回程度)	しばしばある・ 常にある(週 1 回以上)
参加したい地域活動	町会・自治会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などが行う地域活動	336	35.4	39.9	16.1	6.3	2.1
	保護者会、PTA などが行う、学校などを拠点とする活動	137	43.1	37.2	10.2	2.9	6.6
	社会福祉法人、福祉サービス事業者などが行うイベント・講習会・ボランティア	195	28.2	42.1	16.4	9.2	3.6
	趣味のグループ、自主サークルなどが行う地域活動(自分が関心のある分野)	488	27.7	42.2	17.2	8.2	4.5
	区、商店街、NPO などが行うイベント・講習会・ボランティア	234	30.3	39.3	18.8	6.4	5.1
	自分たちが主体となつて行う地域活動(交流づくり、居場所づくりなど)	112	33.0	33.9	22.3	7.1	2.7
	その他	36	22.2	38.9	16.7	11.1	8.3
	そうした活動に参加したくない・関心がない	208	33.2	41.3	11.1	6.3	7.7
地域活動の参加条件	自分の時間に余裕があること	680	34.0	39.6	15.6	6.2	4.3
	時間や期間にあまりしられないこと	637	32.7	41.6	14.4	6.8	4.4
	関心・興味のあるテーマの活動があること	592	29.6	40.5	18.1	6.9	4.7
	知り合いや気の合う仲間がいること	465	30.5	37.2	17.4	8.0	6.2
	身近な場所で活動できること	564	29.8	40.4	18.4	7.4	3.7
	家族の理解・協力が得られること	164	37.8	39.0	14.0	4.3	4.9
	子どもの世話や親の介護を代わってもらうこと	69	26.1	36.2	18.8	8.7	10.1
	自分の能力向上につながる	174	27.0	44.3	14.4	8.0	5.2
	参加に報酬があること	163	31.3	32.5	19.0	8.0	9.2
	その他	26	30.8	34.6	19.2	7.7	7.7
	そうした活動に参加したくない・関心がない	71	38.0	40.8	7.0	7.0	7.0
地域の居場所	公園・広場、河川敷	648	31.5	41.8	14.4	7.4	4.8
	カフェ(喫茶店)、レストラン、飲食店	696	31.5	41.1	16.8	6.3	4.3
	商業施設(スーパーやコンビニなど)	471	29.5	42.7	16.1	6.4	5.3
	町会・自治会、マンションなどの集会所	43	39.5	23.3	30.2	4.7	2.3
	図書館、地区センターなどの公共施設	414	27.8	44.0	16.7	6.0	5.3
	趣味の活動や運動・スポーツができる場所	454	31.3	41.9	14.8	6.4	5.7
	その他	16	25.0	50.0	6.3	6.3	12.5
	特にない	87	41.4	31.0	14.9	8.0	4.6

Ⅲ 区民アンケート調査結果分析

- 孤独とすることが「しばしばある・常にある（週１回以上）」と回答した人の困った時に頼れる人・機関で比較的高い（10%以上）は「民生委員・児童委員」、「相談支援専門員（障害者の相談を受け、サービスの調整をする専門員）」、「その他」が10%台です。その他の内容（自由記述）はDV 専門相談員、親族を挙げています。
- 一方、「相談できる人や機関はない」が20%台と高く、また、相談先がわからない困りごと（問29）は「ある」が10%台と高くなっています。
- 孤独とすることが「しばしばある・常にある（週１回以上）」と回答した人の相談窓口への要望は「その他」が10%台、「身近に相談場所がほしい」が9%台です。その他の内容（自由記述）は身体が不自由な人への相談員派遣、小学生の子育ての悩みを相談できる窓口やサービス、相談員のスキル向上、一定の相談時間の確保を挙げています。
- これらの結果は、孤独を感じる人に早期にアプローチする方法や相談しやすい窓口のあり方のヒントになると考えられます。

数値は%、網掛は太枠項目のうち10%以上、属性及び設問の「無回答」は非表示

	%	合計(n)	決してない	ほとんどない (月1回未満)	たまにある(月 1回程度)	時々ある(月2 ～3回程度)	しばしばある・ 常にある(週1 回以上)
頼れる人・機 関	家族や親戚(同居、別居を問わない)	971	32.9	42.5	15.0	5.8	3.4
	友人・知人	666	33.6	42.2	15.3	5.3	3.0
	近所の人、町会・自治会	93	38.7	38.7	18.3	3.2	0.0
	民生委員・児童委員	10	50.0	10.0	20.0	10.0	10.0
	かかりつけ医	233	36.1	34.8	17.2	7.7	3.9
	ケアマネジャー(介護支援専門員)やヘルパー(訪問介護員)	63	44.4	28.6	11.1	11.1	4.8
	地域福祉コーディネーター	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	仕事・学校関係の人(職場の同僚、保育園・幼稚園・学校の先生やカウンセラー)	168	41.1	33.9	12.5	8.3	3.6
	相談支援専門員(障害者の相談を受け、サービスの調整をする専門員)	8	25.0	37.5	12.5	12.5	12.5
	長寿サポートセンター(地域包括支援センター)	35	28.6	37.1	20.0	11.4	2.9
	区役所の窓口	115	37.4	43.5	10.4	4.3	4.3
	社会福祉協議会	13	30.8	46.2	15.4	7.7	0.0
	その他	17	29.4	35.3	23.5	0.0	11.8
	相談できる人や機関はない	61	13.1	31.1	18.0	16.4	21.3
相談先がわ からない困りごと	ある	121	19.8	24.8	21.5	14.0	19.0
	ない	1,019	33.3	42.7	14.9	6.1	2.7
相談窓口への 要望	1か所で色々な相談ができる	442	29.6	42.1	18.1	6.3	3.8
	専門性の高い相談ができる	351	28.5	41.0	15.7	7.7	7.1
	予約なしで相談ができる	328	32.9	42.1	15.9	5.8	3.4
	夜間でも相談ができる	148	37.2	36.5	16.2	4.7	4.7
	土日でも相談ができる	390	31.0	43.3	16.9	4.4	4.4
	相談に要する時間に制限がない	66	33.3	34.8	18.2	9.1	4.5
	身近に相談場所がほしい	127	26.8	31.5	20.5	11.0	9.4
	プライバシーが守られる	295	29.2	39.3	14.9	9.8	6.8
	相談の際、こどもや要介護者の面倒をみってくれる	29	27.6	31.0	20.7	13.8	6.9
	区役所に行かずに相談ができる(オンラインでの相談やAI(人工知能)の活用など)	212	39.6	31.1	17.0	5.7	6.6
	その他	23	17.4	39.1	17.4	13.0	13.0
	特に要望はない	133	33.1	42.1	16.5	5.3	3.0
	わからない	47	31.9	40.4	6.4	12.8	6.4

分析4 相談先がわからない困りごとが「ある」人について

- 相談先がわからない困りごと（問 29）の全体結果は、「ある」が 10%台、「ない」は 80%台です。相談先がわからない困りごとが「ある」に注目すると、「ある」割合は全ての属性にみられます。その中でも、性別その他は 20%台と高く、また、30 代から 60 代前半、親と子の 2 世代世帯などをはじめ、多くの属性で 10%台となっています。

数値は%、網掛は太枠項目のうち 10%以上、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	相談先がわからない困りごと 「ある」	相談先がわからない困りごと 「ない」
性別(自認)	男性	476	8.8	88.7
	女性	689	11.0	85.3
	その他	8	25.0	75.0
年齢	18～19歳	9	11.1	88.9
	20～24歳	35	14.3	82.9
	25～29歳	55	9.1	90.9
	30～34歳	71	5.6	91.5
	35～39歳	77	13.0	85.7
	40～44歳	100	12.0	88.0
	45～49歳	124	11.3	87.9
	50～54歳	121	11.6	86.0
	55～59歳	108	12.0	88.0
	60～64歳	84	14.3	85.7
	65～69歳	79	8.9	86.1
	70～74歳	109	5.5	89.9
	75～79歳	88	9.1	85.2
	80歳以上	116	8.6	76.7
居住地区	白河地区	113	9.7	88.5
	富岡地区	106	7.5	88.7
	豊洲地区	247	11.7	83.8
	小松橋地区	90	5.6	88.9
	東陽地区	101	8.9	89.1
	亀戸地区	143	8.4	88.8
	大島地区	135	12.6	83.7
	砂町地区	142	11.3	85.2
	南砂地区	101	13.9	85.1
居住歴	2年以下	157	8.3	89.2
	3～5年	165	13.3	84.8
	6～9年	133	9.0	88.7
	10～19年	281	11.4	85.4
	20～29年	208	9.1	88.0
	30年以上	232	9.9	84.5
住まい形態	持ち家(一戸建)	181	7.7	87.8
	持ち家(マンションなどの共同住宅)	566	10.2	88.3
	民営の賃貸住宅	230	10.0	87.8
	都・区営の賃貸住宅・都市再生機構(UR)・公社	151	14.6	75.5
	給与住宅(社宅・公務員住宅など)・寮・寄宿舎	27	0.0	96.3
	その他・わからない	23	17.4	78.3
世帯構成	1人世帯	242	11.6	83.1
	夫婦だけの1世代世帯	354	7.1	90.1
	親と子の2世代世帯	505	12.3	85.7
	親と子と孫の3世代世帯	32	9.4	84.4
	その他の世帯	42	7.1	88.1
働き方	正規の職員・従業員	448	8.3	91.3
	非正規の職員・従業員(派遣・契約社員、パート等)	249	12.4	83.1
	会社などの役員	40	10.0	90.0
	自営業主	71	12.7	83.1
	家族従業者・内職	17	17.6	82.4
	学生・生徒	23	8.7	82.6
	収入をとまなう仕事をしていない(仕事を探している)	42	19.0	71.4
	収入をとまなう仕事をしていない(仕事を探していない)	228	9.6	85.5
	その他	53	7.5	86.8

- 相談先がわからない困りごとが「ある」と回答した人は近所付きあいが多い人でなく、「家族ぐるみの付きあいが多く」と回答した人にも困りごとが「ある」割合は 10%台です。

数値は%、網掛は太枠項目のうち 10%以上、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	相談先がわからない困りごと 「ある」	相談先がわからない困りごと 「ない」
近所付きあい	家族ぐるみの付きあいが多い	48	10.4	87.5
	おみやげをあげたり(もらったり)、何かを手伝いあうことが多い	122	6.6	87.7
	あいさつをする程度の付きあいが多い	651	10.0	87.1
	顔は知っているが、あいさつをしないことが多い	46	15.2	82.6
	顔も知らない人が多い	291	11.3	86.6
	その他	18	16.7	72.2

Ⅲ 区民アンケート調査結果分析

- 相談先がわからない困りごとが「ある」と回答した人と自分が孤独とを感じるかをみると、「時々ある（月2～3回程度）」が20%台、「しばしばある・常にある（週1回以上）」が40%台と高く、相談先がわからない困りごとが「ある」と孤独とを感じる状況は深く関係していることが考えられます。

数値は%、網掛は太枠項目のうち20%以上、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	相談先がわからない困りごと「ある」	相談先がわからない困りごと「ない」
孤独を感じる	決してない	370	6.5	91.6
	ほとんどない(月1回未満)	481	6.2	90.4
	たまにある(月1回程度)	185	14.1	82.2
	時々ある(月2～3回程度)	81	21.0	76.5
	しばしばある・常にある(週1回以上)	55	41.8	50.9

- 相談先がわからない困りごとが「ある」と回答した人の相談窓口への要望は「身近に相談場所がほしい」、「相談の際、こどもや要介護者の面倒をみてくれる」、「その他」が20%台と高くなっています。
- 区の福祉情報の入手先は「区が行う出前講座」や「社会福祉協議会」が20%台と高くなっています。
- これらの結果は、相談しやすい窓口や情報発信のあり方を検討するヒントになると考えられます。

数値は%、網掛は太枠項目のうち20%以上、属性及び設問の「無回答」は非表示

%		合計(n)	相談先がわからない困りごと「ある」	相談先がわからない困りごと「ない」
相談窓口への要望	1か所で色々な相談ができる	442	10.0	87.8
	専門性の高い相談ができる	351	14.5	83.8
	予約なしで相談ができる	328	6.4	90.5
	夜間でも相談ができる	148	8.8	89.9
	土日でも相談ができる	390	9.2	89.5
	相談に要する時間に制限がない	66	19.7	77.3
	身近に相談場所がほしい	127	20.5	77.2
	プライバシーが守られる	295	11.9	86.4
	相談の際、こどもや要介護者の面倒をみてくれる	29	20.7	75.9
	区役所に行かずに相談ができる(オンラインでの相談やAI(人工知能)の活用など)	212	10.4	89.2
	その他	23	26.1	65.2
	特に要望はない	133	2.3	96.2
	わからない	47	14.9	78.7
区の福祉情報の入手先	区の広報紙(朗読、点字を含む)	743	10.8	86.8
	区のホームページ	539	9.6	89.2
	区の窓口	91	11.0	86.8
	区の掲示物・配付物	315	9.5	87.9
	区が行う出前講座	16	25.0	75.0
	民生委員・児童委員	24	8.3	83.3
	社会福祉協議会	23	26.1	65.2
	町会・自治会の回覧板	102	6.9	88.2
	新聞・テレビ・CATV・ラジオ	105	10.5	86.7
	区からのメールやSNS(プッシュ通知を含む)	308	13.0	86.4
	家族・親戚	49	10.2	85.7
	友人・知人	63	7.9	87.3
	保育園・幼稚園・学校・施設	95	11.6	88.4
	その他	12	8.3	91.7

Ⅳ 団体アンケート調査結果

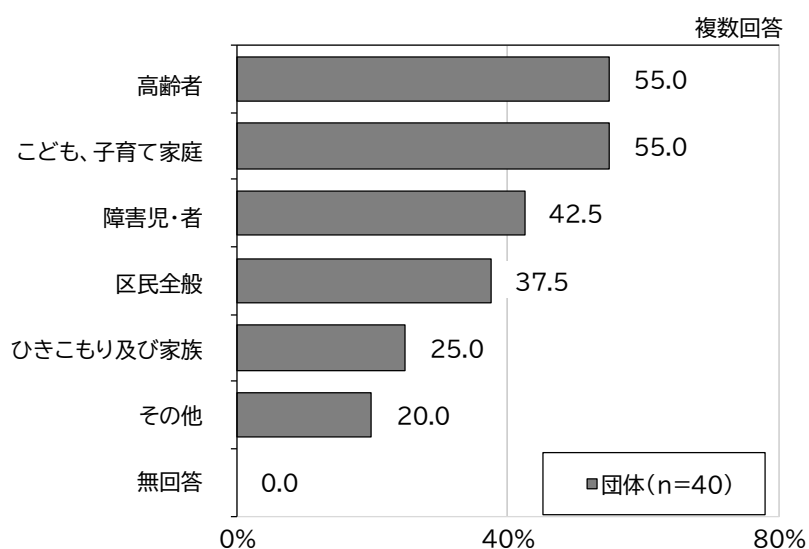
1 貴殿、貴団体の活動について

問 1 貴殿、貴団体の活動状況についてお答えください。

①団体名等、②記入者氏名、④主な活動内容（省略）

③活動の主な対象（○はいくつでも）

○ 活動の主な対象（問1）について、「高齢者」と「こども、子育て家庭」が50%台、「障害児・者」が40%台となっています。

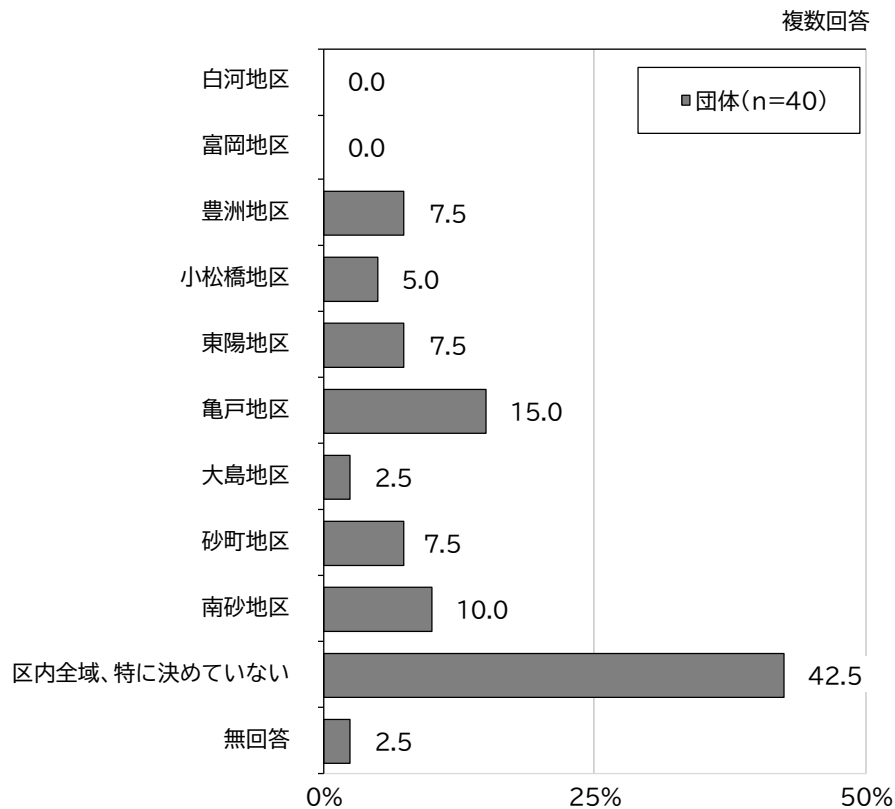


Ⅳ 団体アンケート調査結果

問 2 主な活動エリアについてお答えください。

(注) 複数の活動エリアに回答を頂いた団体もあったため、複数回答として集計している。

- 主な活動エリア（問 3）について、「区内全域、特に決めていない」が 42.5%と最も高く、次いで「亀戸地区」と「南砂地区」が 10%台で続いています。



■ 地区詳細

白河地区	清澄、常盤、新大橋、森下、平野、三好、白河、高橋
富岡地区	佐賀、永代、福住、深川、冬木、門前仲町、富岡、牡丹、古石場、越中島
豊洲地区	塩浜、枝川、豊洲、東雲、有明、辰巳、潮見、青海
小松橋地区	千石、石島、千田、海辺、扇橋、猿江、住吉、毛利
東陽地区	木場、東陽、南砂二丁目 1 番 1 号～5 号、5～7 番
亀戸地区	亀戸全区域
大島地区	大島全区域
砂町地区	北砂全区域、東砂一～五丁目、南砂一丁目、南砂二丁目 24 番～34 番、南砂五丁目
南砂地区	東砂六～八丁目、南砂二丁目（1 番 1 号～5 号、5 番～7 番、24 番～34 番を除く）、南砂三・四・六・七丁目、新砂一丁目（1 番を除く）、新砂二・三丁目、新木場

問 3 貴殿、貴団体のこれからの活動について、ぜひお聴かせください。

※「参考 団体アンケート意見全文」に掲載しています。

2 区の地域福祉についての意見・提案

※問4～問6は現行計画の施策に沿って「②取組や仕掛けの提案・アイデア」から主な提案・アイデア（意見全文の**太字表示**）を分類、抽出、要約しました。
 なお、頂いた意見は「参考 団体アンケート意見全文」に掲載しています。

問4 「地域のつながりをつくる活動について」

身近な地域の中で、様々な背景を持つ人々が集い、交流する活動に関する現状への意見と、こんな取組や仕掛けがあると、区民はもっと参加しやすいといった提案・アイデアをぜひお聴かせください。

「計画方針Ⅰ 地域のつながりをつくる活動」

施策1 地域のつながりをつくる（気軽に集える場の創設、地域ネットワークの構築、身近な相談支援体制の充実）

PR活動

- 着ぐるみ等を用意してのPR活動
- 長寿サポートセンター、社会福祉協議会の活動、取組をもっと頻繁にPRすべき
- 区の広報担当部門で活動を取り上げてメディアへ伝え、区広報誌、ケーブルテレビでの取組みは効果ありと考えてる
- 各種ポータルサイトを充実させ双方向での情報発信ができる体制を整える
- 「ことこみゅネット」のような江東区内の各種団体等の活動内容やイベント（カレンダー）、募集等 Web で閲覧できるプラットフォームをより充実していく

地域イベント、多世代交流

- 町会の行事で何かを企画してほしい
- 納涼まつりのミニ版の開催
- お祭りや町会の納涼会
- 色々な人が自由に集まれる場所を作る
- 大規模商業施設があるため、広場をお借りして、地域丸ごとフェスティバルのような、高齢者や子供、障害の関連する団体などと一緒に、情報発信やグルメなどの提供の場を開催する
- 色々な人が自由に集まれる場所を作る
- 乗り降りがしやすく、現場までいける手段の提供

- 高齢者と乳幼児、子供達が交流できる場が欲しい
- 町会会館や、公民館等の活用
- 避難拠点となる学校などと共に住民参加型の訓練を中学校区ごとに開催する
- 行政が架け橋となって企画し、徐々に地域団体に投げかける

こども、教育

- 保育園・幼稚園・小学校の活動に保護者出来る内容を増やす。 町会・自治会の活動に子供と保護者が参加しやすい活動を増やす
- コミュニティースクールを活発化させて地域とのコミュニケーションをはかる
- 学校でも子供たちの活動をもっと見られるようにしたい
- 学校の施設管理を業務委託として、もう少し学校施設を利用しやすくして欲しい
- 男女別制服の撤廃
- ジェンダー・セクシュアリティ関連の問題について専門的知見を有するスクール・カウンセラーやソーシャルワーカーの配置・紹介
- ジェンダー・セクシュアリティに関する行政職員、教員向け研修の実施
- 性的同意や反同性愛差別・反トランス差別の問題を含む進歩的で地に足のついた性教育の実施
- 悩みを共有できる居場所作り

身近な相談の場

- 「困っていること相談カフェ」のような取り組み
- 障害者も健康な人も共通する健康講座や運動講座を開く
- リンクワーカーの活用。暮らしの保健室の立ち上げ

地域活動支援

- いろいろな意見を持って参加されている方がおり、理解した上でうまくコーディネートする役割の人がいないと揉め事などにも発展するため、コーディネーターが必要となってくる
- 団体活動の紹介や交流を兼ねた出張型の活動を支えてもらえると、より地域活動が活性化するのではないだろうか
- 民生児童委員が心理学や心の発達などを勉強する
- 地域を支えている方々同士の関係性の構築が浅いように感じている
- ボランティア募集等、個人情報の取得に関わる事項が課題

施策3 地域と行政のつながりをつくる（区民や地域活動団体等との連携・協働の推進）

連携方法

- 日常生活圏での行政・関係機関・地域活動団体の連携

- 当事者や関係者の意見要望を把握する制度づくり
- 騒いでも、立ち歩いても、出入り自由の本格的なコンサートや重度障害者のためのプール教室などの開催や、実施している団体の後援や助成金の支出をお願いしたい
- 居場所的活動に関して助成金
- UR の取組は団地居住者のみならず、地域の方々へも開いているが、団地外への周知が難しい。区役所はじめ、関係機関に協力頂きたい

※施策２ 行政のつながりをつくる（行政内部の連携強化、組織横断的な相談支援体制の構築）への意見はありませんでした。

（問 7 の中に「施策２ 行政のつながりをつくる」に関する意見があります。）

問 5 「誰もが大切にされる社会をつくる活動について」

区の取組ア～エ（施策４～７）に関する現状への意見と、取組の充実に向けた提案・アイデアをぜひお聴かせください。

「計画方針Ⅱ 誰もが大切にされる社会をつくる活動」

ア（施策４） 人に優しいまちをつくる（まちのバリアフリー化、移動支援）

啓発、情報保障

- どこに行けば、どんな支援が受けられるか、どんな相談窓口があるのか、たゆまぬ情報発信を続けていただきたい
- 江東区報、ベイネットなどの活用
- 区のテレビ放送については手話通訳や字幕などをつけていく。オノマトペを文字化する機械を導入
- 宣伝文に「情報保障が必要な方はお問い合わせ下さい」と必ず明記する
- 英語、中国語、韓国語での表記を多くしていく
- 映像には常に日本語字幕をつける。外国にルーツを持つ方向けには、英語字幕、やさしい日本語を保障する
- 区民への浸透と考えるともっと発信する必要がある

バリアフリーと設備改善

- 障害者の疑似体験の実施
- 担当の方々が実際に車椅子に乗ったり、目を隠して歩いたりして、経験を重ね一つ一つ改善して行く
- 道路の排水を工夫して平坦な道にして欲しい
- 四大小、西中エレベーターの設置

「計画方針Ⅱ 誰もが大切にされる社会をつくる活動」

ア（施策４） 人に優しいまちをつくる（まちのバリアフリー化、移動支援）

- 大きな駅では両側の改札でのエレベーター設置
- エレベーターを都営住宅の低層階などでも導入
- エレベーター以外に補助できるものがあると利用しやすい
- エレベーター設置が無理であれば昇降機の設置
- 公共施設の入り口にエレベーターの設置場所や誰でもトイレなどの場所がわかりやすく表示
- どの駅も車椅子やベビーカーの移動がスムーズにできるように整備
- 移動が困難な場所が多くある
- 横断歩道の長さに対して青信号が短い場所が多数
- 施設内に誰でもトイレがあることを明記する。実験的に性別を問わないトイレを設置していく（公共施設内）
- 公共施設の入り口にエレベーターの設置場所や誰でもトイレなどの場所がわかりやすく表示
- バリアフリー化に関する助成の拡大
- バリアフリー化は以前と比べると随分進んでいる
- 1Fにコミュニティスペースがあると高齢の方も気軽に訪問できる

移動支援

- 江東区のコミュニティバスの拡大（既存の停留所まで歩けない高齢者が多いため）
- 順天堂高齢者医療センターへの東陽町からの循環路線ができれば通院する方々には便利になる
- 高齢者や介護認定者への移動手段の補助。タクシー代3割削減とかタクシー券の配布
- 通院の付き添いや外出同行など、住民参加型で気軽に利用できる支援があると良い
- バス乗降の一部手伝い（体を支えること、シルバーカーの上げ下げを補助する程度）
- 街や公共施設の中に休息できる空間やベンチを設置する

障害者支援

- 自動運転の車イスの方が少しの段差で前に進めずに困っていました。自動運転の車イスで少しの段差に対応出来るタイヤは無いのか？
 - 障害者に対応できるヘルパー、移動支援従事者養成研修を区が主催して行う
 - 障害者をケアする移動支援や、点字に起こす人を多く育成する講座を行う。区からも活動をしてくださる方へ報酬が届くような仕組みを作っていた
- だく

「計画方針Ⅱ 誰もが大切にされる社会をつくる活動」

ア（施策４） 人に優しいまちをつくる（まちのバリアフリー化、移動支援）

- 色々な人と自然に交わえることの出来るごちゃまぜ施設を作って欲しい
- カームダウン室（注釈：精神的にパニックになった際、冷静になるためのスペース）を設置する。イベント開催時に、手話通訳者や失語症要点筆者の派遣の推進を行う

心のバリアフリー

- 小・中学生の間から職業体験に福祉職なども入れる
- 園児・児童・生徒の登下校時に地域住民(大人)から積極的に挨拶をする

その他

- 出かけて行く場（住民主体のサークルなど）の充実
- 気軽に出かけてもらえるボランティアの充実、コーディネートをしてもらえる窓口の充実
- 区民会館などの使いやすさ。気楽にお茶など持ち込み会話できる場があるとよい
- 当事者や関係者の意見要望を把握する制度づくり
- 地域ケア会議（地域課題・政策提言）を社協と区が協働で行い、サテライトごとに年に１つ必ず政策として実現できるようになればいい
- サポーターが帰宅困難者が出現した際に、エリアを決めて捜索をするなどを仕組み
- ロボットや機械などでも対応できるようになれば人出が少なくて済む
- それぞれの取組（ア～エ）は都と区でどこまで望めるのか、検討して頂く
- 民間と公共の施設の相互活用

イ（施策５） 一人ひとりの尊厳を守る（意思決定支援、虐待・DV防止、生活困窮・居住支援）

意思決定支援、終活支援

- 意思決定に際しての情報保障が不十分。当事者の希望する方法で情報提供が受けられ、コミュニケーションがとれるような体制を充実させる
- 重度の脳性麻痺の方など、コミュニケーション支援が必要である。視線でコミュニケーションがとれる機材で安価なものも出ているようなので、希望する施設（できれば家庭）に購入資金を補助する
- 身内以外の後見人制度の普及が進んでいない
- 意思決定に関する区民に対する啓発、関係者（福祉職等）への勉強会などの開催
- 世代や障害等関係なく相談できる、ワンストップ窓口の設置

イ（施策５） 一人ひとりの尊厳を守る（意思決定支援、虐待・DV防止、生活困窮・居住支援）

- 意思決定支援についての意見交換会
- 終活に向けた相談の窓口の設置、江東区独自に死後事務処理などの契約を行える制度を作る

虐待・DV防止等

- 虐待を見かけた時の連絡先の周知を徹底する
- 相談しやすさの広報
- 見守り支援事業の強化、虐待防止の啓発、職員による KOTO ハッピー子育てトレーニングの実施

居住支援

- 高齢者の居住支援のためシェアハウス（低額）
- 高齢者や障害者が安心して暮らせるグループホームが増えると良い
- エリアごとに対応できるだけの拠点の配置
- 1人暮らし世帯に関する見守り支援の充実
- 区内の民間不動産関連企業および不動産所有者への啓発

関係機関の連携

- 民生委員児童委員との連携において個人情報の壁が困りもの
- 診療所などから情報を収集できる仕組みを作る。各種業界の交流の場を作る
- 支援の対象から漏れる人が出ないような体制や資源作り、制度の拡充
- ぎりぎりでは生活保護にならない方への支援の検討

多様性、インクルージョン

- 区の公的機関において働く職員を対象とした、ジェンダー・セクシュアリティ関連の研修
- 区ホームページに、性的マイノリティの抱える課題や区の取り組みについて掲載
- 自治体と当事者や関係者が集まる定例会の設立
- 公営住宅への同性パートナーの入居許可
- 親密な関係にあるすべての人のためのパートナーシップ制度
- 区立医療施設において、同性パートナーの立ち会い、診療方針の説明・同意に際して親族と同様の取り扱い
- 区独自の（＝国や都と関係のない）応募・提出書類における性別欄の撤廃
- ジェンダーやセクシュアリティに関する悩みを持つ人たちを対象とした、交流機会の提供

イ（施策５） 一人ひとりの尊厳を守る（意思決定支援、虐待・ＤＶ防止、生活困窮・居住支援）

- 保健所での「精神保健相談」で当事者を積極的に受け入れる体制づくり
- 性的マイノリティであることを理由とした入所拒否の禁止

その他

- 当事者向けの相談専門窓口の設置
- 効果的な広報活動
- 江東区報に掲載されていても読まない方が多いので PR に努める
- 人権教室を盛んにして自分の意見をはっきり言えるようにする。こどもと向き合い、親身に対応できるように研修をする
- 学校や園の先生が子供と真摯に向き合い、その意見や思いを受け止めて欲しい。研修の充実
- 居住支援、DV 防止については区役所や社協で推進していただきたい

ウ（施策６） 災害時の福祉を向上させる（防災教育、災害時要配慮者の支援）

防災訓練の改善

- 災害時、想定した訓練を多く行なう
- 特に水害時の対策立案が必要
- 地域の学校での避難所開放訓練はもっと迅速にすべき
- 中学校等の防災訓練時、各地域の高齢者の避難者支援者に対する応援（車イス取扱い）等を入れて欲しい
- 地区ごとに想定される被災状況を想定した上で、区や消防からの出前講座を団地集会所で開催

災害への備え、備蓄品

- 災害時の福祉の前に必ず起きる災害を自分事として思えるような意識改革が必要
- 中学、高校生（防災教育をして）からの支援（若い力が必要）
- 日常の挨拶などつながりを深める
- 「どういう障害の方はどの場所へ」といった一覧表及び個別案内などを配布しておく
- 備蓄の大切さを PR して欲しい
- 地域の歴史や地域の仕組みを分かりやすく説明、広報する仕組み
- 体験学習を出来るようにイベント、ソナエリアと連携ビデオから VR で体験
- 防災教育、災害時要配慮者の支援等については一般的には浸透していない

ウ（施策6） 災害時の福祉を向上させる（防災教育、災害時要配慮者の支援）	
	● 大人を運ぶことも想定し車イスの配置を検討する。離乳食やミルク、オムツの備品を多く用意する ● 物資配給の充実を図る。水→1ℓ2ℓではなく、500 mlのペットボトル ● 避難所のバリアフリーについて話し合いが必要 災害時要配慮者、新たな取組 ● 災害時要配慮者の支援については人員と場所が必要。災害時の移動支援に協力できる個人、団体、ボランティア等、協力者の育成、登録をし、長寿サポートセンターへの情報提供をしてほしいです。避難所で過ごせない高齢者、障がい者が大勢自宅にとどまざるを得ないのではと心配です ● 一人暮らし訪問調査の必要性が課題。訪問は必要な時のみにした方が良い ● 透析患者の災害時の行動が確立していないため、患者は不安を感じている。クリニックによっては防災訓練を全く行っていない。透析中に災害時にどのように逃げればよいのかをクリニックはきちんと患者に指導することが必要だと感じます。大きな災害時にどのように行動して透析をしてもらえるようになるかの指針が欲しい ● スマホアプリなどで位置情報を確認でき、避難経路や避難指示などが自動で出てくるものなどを搭載してもらい、安心してできる仕組み。どこに要配慮者がいるかがわかる仕組み ● 要配慮者が自発的に支援を要請できるようなアイテムを開発する 避難所運営 ● 災害時の福祉避難所を手伝う人員を用意する ● 福祉避難所の設置を検討する。避難所に障害者支援者を配置する。どうしても騒いでしまう人には個室対応（簡易個室も含む）の場所を設ける ● 男女のみの分類で災害対応をするとトランスジェンダーやノンバイナリーの人たちが避難所に行けなくなってしまう。要配慮者用の避難所が震源地近くで行けず、一般向けの避難所に行くのは抵抗を持ったという重度障害当事者もいた ● 避難所などでは放送などの音声による情報提供ばかりでなく、文字情報など視覚的な情報提供も行う
エ（施策7） 誰もが社会参加できる仕組みをつくる（就労・社会参加の支援、子育て・介護等と生活の両立支援）	
	障害者支援 ● 特別支援学校は就労至上の考えから、利用者が地域で落ち着いて生活できることに目を向けて支援する ● 障害のある方のワークショップなどが、どの程度反映されているのかとと思っています 就労者への支援 ● （江戸川区駄菓子屋居場所「よりみち屋」のような15分から就労可能）中間的就労機関があるとハードルが下がる

エ（施策 7） 誰もが社会参加できる仕組みをつくる（就労・社会参加の支援、子育て・介護等と生活の両立支援）

- 区内の働きたい人が無理なく働けるようにマッチングができる仕組みがあるとよい
- ハローワークのような相談、紹介機能が社協のサテライトごとにあればよい。求職者と事業者とマッチングさせる機能が必要

企業への雇用支援

- 職場でのジェンダーやセクシュアリティに関するハラスメント行為に対応できる相談窓口の設置（すでにある労働相談に加えて設置されたい）
- 性的マイノリティにも働きやすい制度を有する地元企業への支援、またその区民への紹介（性的マイノリティも安心して働ける空間を増やしていくため）

地域参加の機会、ボランティア支援

- 地域でともに支え合い助け合う活動
- 社会参加できる仕組みの項目を先ずは作り上げて、一人一人の個性の違いに対し、平等、自由があれば、個人が尊重され、動き出す
- 手助けしたい人がいる反面、ボランティアセンターに登録したりするまでには至らない方もいる。こんなことを手伝いたい。という掲示板のようなサイト運営。ボランティアセンターのサイト版のようなもの。ジモティの江東区版
- 気軽に活用できる民間の家事代行サービスの補助券
- 参加したい時の窓口が分かりにくい
- 他部署との連携により若い人も来やすくなるのでは？ 例）防災×福祉、環境×福祉など

啓発活動、情報発信

- サービスや相談窓口が沢山記載されている冊子（区発行）をテキストに使った。冊子の存在や他の分野における案内書などあれば、知らしめるべく広報に力を入れるべき
- 誰もがボランティア活動ができるよう案内していく、周知（チラシ、講演など）。有償も考えていく（現在一部有償）
- もっとメディアを使い、体験談などの番組をつくる

保育・学童保育、子育て支援

- 保育園・幼稚園を増やす
- 幼稚園での園児以外の一時預かりの充実
- 子供の預かり所の充実
- 学童保育（小 1 のかべ）の保留児対策が急務である
- 職場での配慮に関しては周知活動や企業に対して育児中や介護中の就労者へ配慮しているところには補助金を出すなどして配慮しやすい環境づくりをしてほしい

エ（施策 7） 誰もが社会参加できる仕組みをつくる（就労・社会参加の支援、子育て・介護等と生活の両立支援）

高齢者支援

- 聞こえない方が安心して通える高齢者のデイサービスや老人ホームなどが足りない。事業者への啓発や、起業や運営に際しての様々な支援を行う
- 介護サービスにかかる費用が利用者にとって、あまり負担にならないようなサービスとそのサービスの利用方法を広く伝えるしくみがあればと感じます
- 住民同士での交流(社会参加)を好まない高齢者も多い

複合的な支援

- 複合的な課題を抱えている中で各制度で垣根なく繋がりのある支援体制の構築、サービスの拡充

その他（歩道の安全、バリアフリー化）

- 点字ブロックの上に自転車、店舗の荷物などが置かれています
- 歩道の段差など障害のある方は大変です

問 6 「地域福祉の基盤をつくる活動について」

区の実組ア～ウ（施策 8～10）に関する現状への意見と、取組の充実に向けた提案・アイデアをぜひお聴かせください。

「計画方針Ⅲ 地域福祉の基盤をつくる活動」

ア（施策 8） 情報の適切な活用を図る（情報発信、支援関係者間の情報共有、デジタル活用策）

広報や情報発信の効果的な方法

- 紙ベースでは全ての人に周知することは難しい。人が集まる主要な駅などに様々な情報を発信する
- 各種イベントに啓発する機会を設ける
- 区民への広報、周知の在り方を検討する
- 定例の会合の開催も有効

支援関係者間の情報共有、個人情報保護とのジレンマ

- 情報を管理組合等に伝達。人の集まる場所で情報提供
- 問題を解決するにはどのように支援していくか、関係者間の情報共有が大切である
- 家族の休息時間を作ることが有効。ヘルパー不足が深刻な状況。ヘルパーの入れる状況確認をして、相談支援事業所に情報提供をしていただいた

「計画方針Ⅲ 地域福祉の基盤をつくる活動」

ア（施策８） 情報の適切な活用を図る（情報発信、支援関係者間の情報共有、デジタル活用策）

い。その際、「知的障害者に実績がある」「精神障害を受けている」などの情報もいただきたい

- 役所内それぞれ課の連携を強化し窓口をたらい回しの無い事を目指して頂きたいです
- 個人情報保護法は大切な事であるが、できる範囲で可能なかぎり、情報を共有してほしい
- 個人情報の壁があるため、なかなか活用がしづらい
- 開催を計画する相談事業所の業務が煩雑

デジタル化、アクセシビリティ

- 江東ワイドスクエアも全家庭で視聴出来れば理想的
- 多職種連携における積極的な ICT 活用が必要である。MCS の積極的活用(活用実績が少ない現状がある)
- システム運用。HP 上の発信。2 次元コード QR の活用。HP を見やすくしていく。デジタルアンケートも活用していい
- デジタル研修の充実
- 積極的な SNS 配信を推進してもらいたい
- 各職種、区民が情報共有や交流ができるポータルサイトを構築してほしい
- 江東区内の不登校・ひきこもりに関する情報のポータルサイトがないので（フォーマル並びにインフォーマルな情報の一元化並びに情報のアクセシビリティ）を整備してもらいたい
- 多言語表記が必要・地域で相互 PR できる仕組みがあるといい。チラシなど、多言語へ翻訳サービスがあるといい

デジタルデバイト対策

- 適切な情報を受け取る手段がない・知らない高齢者もいる。高齢者の利用頻度の多い馴染みのある媒体（回覧板や町会の掲示板など）の更なる有効活用
- 高齢者にはデジタルだけではなくアナログ（紙）での情報伝達も必要
- スマホで有効な情報を知ってほしくとも、うまく操作できない人が多い。週ごとに児童、高齢者、障害者などのコーナーを紙面に設けて、利用したいサービスを探せるような取り組みをするのも良い
- 世の中のデジタル化は加速され、対応出来ない方が取り残される心配があります
- デジタル活用策はムリがある
- 情報取得の格差が出ないように、ご努力をお願いします

イ（施策９） 福祉の質を向上させる（福祉人材、サービスの質の向上、関係機関との連携によるアウトリーチ）

福祉人材・ボランティアの育成、リタイア世代の活用

- ボランティアの確保。人材・場所などの情報をつなぐコーディネーターの養成
- ボランティア養成講座の充実
- 福祉人材を育成する学びの場を作る
- リタイアをしている方々にボランティア参加を呼びかける
- リタイア世代を対象とした入門講座を開催する
- セカンドキャリアも含め、福祉人材を育成する学びの場を作る
- 学習を終了した方々が無理なく少しの時間からでも区内で働いてもらえるようなしくみづくりができれば良いと感じます
- 民生委員という制度についてはよいと思うが、定員割れの状況には改正が必要無報酬から有報酬にする

手話通訳

- 手話通訳者の謝金の単価を引き上げる
- 手話通訳者団体とのヒアリングや意見交換を継続していく

情報発信、広報

- 福祉の仕事に関する魅力を伝えられるような教育や情報発信が必要
- 講演会、福祉まつりなどのイベント開催

施設職員が定着する環境整備・待遇改善

- 施設現場で働く職員の待遇改善
- 福祉事業に携わる方の給与を上げていただきたいと思います
- 施設運営の安定があって、職員が利用者支援に集中できるのだと思います。基本報酬を上げること
- 人材定着率を向上する為の取り組み強化が必要
- やりがいと高収入になる仕組みづくり
- 重層的支援体制整備事業の柔軟な運用
- 事業所単位で人材育成や資格取得をサポートするのは、人手不足・事務の煩雑化でかなりの負担。江東区が中心となって、資格取得の講習や研修開催、学習会企画をして欲しい
- 区の職員が福祉について理解し対応する事
- サービスの質の向上については同業者が集まる視察研修会などの開催も必要

イ（施策 9） 福祉の質を向上させる（福祉人材、サービスの質の向上、関係機関との連携によるアウトリーチ）

アウトリーチを可能にする医療と福祉、関係機関同士のネットワーク

- 認知症の受診拒否者へのアウトリーチを患者から直接病院へ依頼できる仕組み
- 専門医による、関係機関への通知制度。どうやって相談できるか、やはり複合的なシステムが必要
- 関係機関との連携によるアウトリーチに関してはうまくいった事例なども含め勉強会などの開催なども必要かもしれない
- 関係機関とは顔の見える関係づくりをしていく
- 子どもやその家族を取り巻く地域の関係機関のネットワークを今以上に整備し、充実させる
- 連携に必要な情報共有に時間を要する
- 長寿サポートセンターがどこまでやれるか考えているか

ウ（施策 10） 啓発活動を推進する（学ぶ機会の充実、多様性や共生社会に対する理解促進）

学校教育、図書館の活用

- 人権感覚を幼い頃より培う教育
- 小中学校で福祉に関する講座子供達に毎年、是非、全学校で福祉に関するお話や体験授業をしていただきたい
- 学校教育にて学ぶ。地域の活動などで学ぶ
- 学ぶ機会を増やし、様々な障害の理解を深める
- 知的障害児との交流授業、その際の障害特性の知識、理解を推進していく
- 図書館の活用を広める

講座、交流、研修

- 今後も講座の拡充と PR を広く行っていただきたい。気軽に参加できる講座も特に土日に増やしていただければ
- 外国人向けの講座、外国人と日本人の交流の講座
- 各職種、区民が情報共有や交流ができるポータルサイトを構築してほしい
- 区民と区内福祉専門職が交流できること
- 視察研修などの開催をして関係者との横の繋がりがづくり。身近に感じられる動画などでも発信していくことや学校や職場などで実感できる学習資料
- 多様性や共生社会のために性教育、誰もが平等である人権教育を充実できるよう研修を行う
- 研修の機会を増やす

情報発信、啓発

ウ（施策 10） 啓発活動を推進する（学ぶ機会の充実、多様性や共生社会に対する理解促進）

- 新しいモバイルツールやパソコンなどを活用して情報発信作業を繰り返し、参加を募る
- 家の壁に江東区の施策などについてのポスターを掲示することで地域に目が届きやすくなる
- こどもの権利に関する条例が制定される機会に、より一層啓発活動を推進して欲しい

3 区の地域福祉に関する意見・提案

問 7 最後に、ここまでの設問以外で、区の地域福祉に関する施策、体制、活動等に関する意見や提案がございましたら、ぜひお聴かせください。
（記述方法は自由）

※問 7 の主な意見（意見全文の**太字表示**）を現行計画の施策に分類、抽出、要約しました。

地域の交流（計画方針Ⅰ 施策 1）

- 多世代の色々な人が自由に集まれる場所を多く作ってもらえたらと考えます
- 地域住民一人一人が、積極的につながりを作っていくことが大切

行政への要望（計画方針Ⅰ 施策 2）

- 各地の出張所は行政の出先機関として、より地域との関係をはかっていくようにする
- 経験豊富で問題意識がある方々の貴重な意見をくみ生かせる組織が有るといい
- 当事者特に福祉を受けられている方々の意見を聞き、実際に生かして行って欲しいと思います
- 高齢者の相談窓口だが家族の相談が増えている。（特に対象者の子供や孫世代等）また高齢者でない若年層の相談も増えている。それぞれの療養相談、生活相談の窓口との連携が取りたい。またそれぞれの部署の情報が欲しいと思う
- 地域ケア会議（地域課題・政策提言）を社協と区が協働で行い、サテライトごとに年に 1 つ必ず政策として実現できるようになればいい
- 区民協働の取り組みを強化して欲しい
- みんなで少しでも関わりを持つ仕組みを作っていけたらいい
- 亀戸四丁目もワンルームマンションの数は相当あり、町会の中の空白の土地となっています。建設申請の時、行政指導を強化して頂きたい

行政と関係機関の連携（計画方針Ⅰ 施策 3）

- 所管分野を超えた行政や、地域と行政の繋がりを強化し、必要な方に対し必要な支援が届くような体制で各機関連携し、柔軟に対応ができると良い

- 関係する各種団体がこれまで以上に協力していく
- 広い世代にとって行動できるのは土、日だが関係機関の多くは休みで、中間支援組織としての活動の支援にはつながらない
- ○○地域で活動したいなど、コミュニティサロンを利用して、 区の取組やイベント等、入居者も含め近隣の方が参加できるようなイベント等がございましたら、ご検討、ご相談などお声がけいただければと存じます
- 地域活動については長寿サポートセンター以外の団体が行い、できる範囲での協力をさせていただければ時間的にありがたい

移動支援（計画方針Ⅱ施策４）

- 特に砂町エリアから城東エリアの縦のラインにバスを増便する

情報発信（計画方針Ⅲ施策８）

- 折角用意している施策について知らないまま過ごしていることも多々あると思います。広報情報発信の一層の充実を図っていただきたい
- 区はさまざまなサービスをきちんとされていると思いますが、それが区民に届いていない。まだまだ情報弱者が多い
- 手話は言語であることの周知が足りていません。オリンピックの際に行ったように区役所内の情報コーナーでのパネル展示や各種イベントの開催など積極的に機運を高めて欲しいと思います
- 一人暮らし調査で知っているかの質問には知らない人も結構いました

②福祉人材（計画方針Ⅲ施策９）

- 小・中学校での福祉の教育を増やす
- 地域活動を推進する人材育成
- 地域にかかわる人を多く創出する
- ボランティア入門のハードルを下げて、もう少し具体的にボランティア活動に触れ合えるきっかけを多く作って欲しい

③啓発活動（計画方針Ⅲ施策 10）

- 若者や子供に地域福祉活動に関して知ってもらうような取組み強化が必要
- 区内の大学生の協力を得て、若者の意見を聞いて、大学生達の社会福祉に関する意識も深まると思います

(参考 団体アンケート意見全文)

問3 貴殿、貴団体のこれからの活動について、ぜひお聴かせください。

<全意見（原文）>

No	調査区分	①これからの活動の展望や目指したいこと	②実現するために必要なこと
1	地域活動	現在までの町会活動は他町会からも高い評価を頂いています。今のままの活動が出来れば申し分ありません。	新しい役員の発掘はどんどん進めて行かなくてはなりません。良い人材と町会加入の増加です。
2	地域活動	益々増加する高齢者世帯に対し、寄り添い相談相手となれるよう努力していきたい。一方少子化もある。主任児童委員児童委員として、乳幼児から学童生徒までを対象に子育て支援の活動ができればと思います。最近、民生児童委員のなり手不足が深刻である。現在当地区においては定員 42 名中 10 名の欠損が生じている。各方面に呼びかけて解消に向け努力していきたい。	委員の多くが仕事に従事している。時間的な制約を受ける状況にあるが、委員同士連絡を深めてカバーし合い活動の充実を図りたい。また、長寿サポートセンターなどとの更なる連携を模索したい。学校訪問などを通じ、子ども家庭支援センターとの情報共有（主任児童委員）を得て、信頼関係に立って子育て支援にあたりたい。児童館の依頼に応じてママのリフレ時間の手伝いや行事協力を通じて地域の子ども支援の一端を担っていきたい。なり手不足については町会自治会を始め PTA や地区対他に声がけし人材を確保したい。勿論現任委員自身も、さまざまなルートで働きがけをしていくつもりである。
3	地域活動	今まで同様、今後も地域の方々に気軽にお声がけを頂き、情報も頂けるようにしたいです。	地域の行事等に参加し、こちらからもお声がけをする事です。お声がけをする事で顔見知りになり、次の行事にも参加して頂けますので。
4	地域活動	民生・児童委員が抱える負担増と問題増されるからの変容する地域生活に対応する民生児童委員の仕事は増加すると考えられます。今後行政をはじめとし、関係機関・団体との連携という外部との調整が課題となり、「班体制」という内部の負担減に向けた調整が課題として活動に取り組む。負担増の対応。今後も各地域の状況を見て、民生委員の定数増及び後継者の確保に努めなければならない。	地域の課題に対して民生児童委員は行政をはじめと、関係機関につなぐことは基本であるが、社会が多様化していくなか、個人での対応が難しい場合であっても近隣の委員がチームを組んで情報、経験、課題を共有することで多くな力を発揮出来るので、当面 3 つの班体制を維持して行く。活動しやすい、負担増の軽減。町内会・自治会との連携強化。行政からの必要な個人情報の提供。活動に役立つ福祉制度、最新事例などの情報提供の充実。制度活動の広報周知による地域理解の促進。民生・児童委員の活動が十分理解をされていない。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①これからの活動の展望や目指したいこと	②実現するために必要なこと
5	地域活動	5年後には町会は大変なことになる。町会三役は80歳を超えます。主要役職者も同じです。40代、50代各2名男女おりますが、フルで働く会社員で、土、日と有給休暇を使って協力している状態です。町会としては役員の増強に力を入れています。民生も来年は改選なので、2年の延長が有りますが通常でいけば10名ぐらい改選になります。班制を取り入れてから、民生員同士の関係も一層よい状態です。	町会の仕事は資源回収・街キレイ・交通安全10日間・防災訓練・毎月の役員会20名参加・町会事務所を月・水・金1時から3時まで2時間開ける。去年、今年と盆踊りはやめました。それに代わって公園をかりて去年は子供対象にゲームのみで「子供なつまつり」を行った。今年は「なつまつり」で家族対象で規模も大きくしてインターネットを使ってボランティアを集め、町内の飲食店にも参加して頂き成功しました。来年は校外さん（PTA）の協力を頂けると、ボランティアをもっと集めなくてはと思っています。
6	地域活動	高齢者の方々が増えているので、困り事、介護等について保健所、長寿サポートセンターと連携して対応していく。学校訪問や評議員会等と通して担当区域の問題点を把握する。	民生・児童委員は区域の情報を得るために、普段より近隣の方々と親しくしていく。また情報の集まりやすいお店等に様子を聞く。私の担当区域には公衆浴場があるので、気になる事があったら連絡してもらう。町会役員さん、婦人部さん、老人クラブ等と連携していく。
7	地域活動	委員相互の連帯や連携を維持して行き、何でも全委員で考えられる協議会にして行きたい。「チーム●●地区」結束、仲良しが第一で、それが委員活動をスムーズにし、定年迄頑張れる要因のひとつと考える。後任委員推薦業務にも胸を張って対処できると思う。	まず年間の活動を頭に入れてもらう事が必要だと思う。自分、家庭の都合をまず第一に無理なく活動するには月単位ではなく、年単位での予定表が不可欠だ。行政より配布の年間予定表に地区の予定を早目に加え、通知することが第一だと思う。短観ではなく任期3年の民・児委員活動は長期の視線でまとめて行くのが良いと思う。楽しく活動無理なく活動をモットーに。
8	地域活動	私達はそれぞれの担当する区域において、住民の生活上の様々な相談の応じ、関係機関とのつなぎ役としての役割を担っています。地域住民が安心して暮らせるよう見守りを続けて参ります。又、自主活動として「●●」の運営委員として活動中、長年続いたコロナ禍の影響で来訪者も少なくなりましたが、その中でも工夫しながら「子どもの時間」「折り紙教室」「スマホ教室」等に取り組んでいます。	一人一人が自覚を持ち、地域住民に寄り添い、「つなぎ役」としての役割を果たすことに努める。自主活動を続けながらいつでも誰でも来所できる「居場所」としての「●●」の構築に努める。
9	地域活動	民生・児童委員のなりてを増やしていく事。	地域とのコミュニケーションをはかりながらPR活動をしていく。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①これからの活動の展望や目指したいこと	②実現するために必要なこと
10	地域活動	私たちは●●地区と限定された民生児童委員協議会ですが、江東区全体の民児協に属して、そこでは子育て支援部会、児童福祉部会、障がい福祉部会、生活福祉部会、高齢福祉部会、それに児童福祉専任の主任児童委員制度があり、専門分野として学び活動する組織です。これは福祉部福祉系の組織に民生児童委員は所属しているのですから、ここからの情報を得て、それぞれお委員は、地域によって活動しています。そして一人一人は委員と言っても個人差がありますので、その個人差の特色も、活動のエリアによって特色が出るのでしょうか。同じではないところに、良さが出るのでしょうか。差も出るのでしょうか。男性であるか女性であるか、経歴も違います。年齢も様々です。仕事を持っている人も居ますし、家庭を優先することも大切です。ただ対象者への相談には、家庭の事情も顧みずに対処することも仕方ないことです。家族の理解も必要だからです。ゆりかごから高齢者までを含んで、各委員は、町会組織の中で、与えられた委員としての役割を持っています。しかし町会といっても、それぞれの町会は、歴史から、様々な特色があり、それが町会名となっています。しかも一戸建て住宅が主流だった町の景色は、町自体だった家々が高層化となって、戸から戸へと、多世代家庭から家族の構成員も、一世帯へと代わり、一人住まいや二人住まいが増えています。しかも、近年は一戸建ての家族が減少して、どこの地域も多層階となり、住民が増えて、誰が住んでいるのかわからないことも多く発生しています。顔と顔とのつながりが、薄れてきているのではないかと思います。町会の現状は、ここ 20 年、随分と変わってきています。下町の雰囲気は組織としてあるものの、現状は変わってきています。例えば、私の属する●●丁目は、南町会と北町会に分かれて、私は●●北町会に属しています。住民は、●●丁目全体で、令和 6 年 10 月 1 日付けで、男性 1320 名、女性 1235	例えば、今後 5 年間を想定して具体的に記載。例えば、高齢者の一人暮らし、二人暮らしが増えています。団塊の世代が 70 歳を超えて、町会の活動に、参加しない家庭が増えていることもあるでしょう。でもお隣さんという気質は今も残っています。町会を何軒かの班に分けてはいるものの、マンションはともかく、高層化した賃貸住宅には、企業が持つことから、対話をする機会もあります。そこに暮らす高齢者もいますが、出入りが多く、目が届かないのです。また北町会の老人クラブが毎週、生き生きサロンなど開催して食事会に脳トレ、麻雀などの催しをして活動しています。そこに訪問し会話をするのですが、参加しない高齢者は、人と接し会話をするのが億劫だったり、苦手な高齢者もいます。コツコツと日々の生活の中で、道ばたの挨拶で、会館で、電話やラインも含めて、何でもないことを話す機会が大切です。相手の口から、悩みや身体の状態、脳の変化など話すことで、抱える問題も解けることがあるからです。それらを、長寿サポートセンターに繋いでいければ、なお良いと思っています。小学生に関しては、もう大分以前でしたが、給食の時間に地域の高齢者を招いて一緒に食事をし、ゲームをし、子供達の演技を見て、楽しい時間を過ごす機会もあったのですが、それも今はなくなりました。唯一残っているのは、民生児童委員として、小中学校への学校訪問です。その訪問では壁に張り出された、作品や子供達の書いた文章を観察したりして子供達の様子を知ります。また単独で校長先生や副校長に面会して、自分の気がついた子供の状態を相談することもあります。子供達を見る機会は、学校側から運動会・展覧会・発表会など行事に招待され、子供達の今の姿を見ることです。これらは、継続して次の 5 年間も必要でしょう。また評議員として参加することもあり、学校の経営方針を示す地域との懇談会に誘われ、意見を交わすことも、今後必要だと思います。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①これからの活動の展望や目指したいこと	②実現するために必要なこと
		名の 2555 名です。そのうち外国人は、124 名となっています。世帯数は 1,786 件です。この数字は江東区の住民基本台帳からですが、会社や作業場もあることから、顔の見えない住民が大変多くなっています。多くの民生児童委員は、町会員に帰属していることで、老人会・子供会・青年部・婦人部の一人一人の住まいや顔を知ります。そして町会の活動と経験を通じて、町会の人たちを知るのですが、最近は顔の判らない人が増えているのが現状ではないでしょうか。民生児童委員の活動も、こうした状況の中で、活動しています。地域の子供達は、幼稚園・保育園・小学校生活を通して、民生児童委員の顔を知るのでしょうが、入学式、運動会、展覧会、学校公開、卒業式に、学校訪問を重ねて、地域の状況なども重ねて活動の基本となる知識を増やしていきます。また町会の、子供達の見守りである、通学時間の見守り、交差点での誘導などもすることもあります。男性の場合は、夜間や防犯パトロールなどを通して、窓の明かりにより安否を確認することもあるのです。	うのです。2 区の地域福祉についての意見・提案地域福祉について、関わり合えば合うほど、民生児童委員の個人として生活に支障というか、時間がなくなることです。民生児童委員は委員であることの前に、家族の中の一人です。区からの動員など、何もない方が、家庭に寄り添うことができます。近年、活動の要望や、地域の委員を超えて、範囲や動員などが増えています。多分 5 年後には、団塊の世代も高齢者となり、委員の担い手も減少する事を考えれば、抜本的に現在の民生児童委員の担う部分を、検討するか、分割することも必要なのではないでしょうか。民間ボランティアを奨励された会社員など、副業というか社会貢献としての民生児童委員を増やすにも、民生児童委員の役割範囲を、細分化して、幼児施設・小中学校、高齢者、青少年対策など分野別に分けて、委員の専門性を柱に分割することも考えて良いと思っています。それは、引きこもり、ヤングケアラー、身体障害、家庭内不和、暴力、覚醒剤や麻薬、また外国人の住民に対するケアなど、高齢化や人口減少時代を迎えて、準備も必要だからです。
11	地域活動	1.平均年齢 75 才超の会員。ボランティア活動の意義、社会貢献を次世代へ伝承したい。2.車椅子利用施設（者）へ安全利用の大切さを伝え、点検整備の普及へ行動を。3.調べてみたが活動 19 年、定期的ボランティア活動を行う団体は僅少。同じ活動してる団体とのネットワーク作りに取り組みたい。4.ジュニア世代へボランティアの意義、社会的ニーズを伝える活動を実行したい。	活動を積極的に世間へ伝える行動。広報、メディアへ活動状況を伝える。
12	地域活動	昨年●●は創立 30 周年を迎えました。立派な成人に成長するためには並々ならぬ先人たちの努力と知恵の積み重ねがあったと思います。手話サークルは会員なしでは成り立ちません。最初は少ない人数でも、その活動と熱意に少しずつ形ができてきたと思います。現在は 100 人を超える団体となりましたが、この勢いを保ち活動を続けてい	サークル会員を増やすためには、魅力ある定例会にすることが大切だと思います。聞こえる人だけが楽しそうに話しをしていたら、聞こえない人はどう思うのでしょうか。手話が初めての方を経験者がフォローし、孤立させない内容にすることの心配りが必要でしょう。参加者全員が楽しく会話ができれば、自然と大きな実を結ぶことになると思います

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①これからの活動の展望や目指したいこと	②実現するために必要なこと
		きたいと思っています。2025 年 11 月に東京で初めて聴覚障害者のオリンピックであるデフリンピックが開催されます。今は昔と違って手話が特別視されることはほとんどなくなりましたが、デフリンピックはパラリンピックに比べて、まだまだ知名度がありません。知名度を高めるためには、どのようにしたら良いのか悩ましいところです。サークル行事としては聴覚障害者団体と共催で 1 年に大きな取り組みが 3 つあります。今はその一つ一つをお互いの意見を尊重しながら喜びを共有したいと思っています。そして、それは創立 40 周年につながるものと信じています。	ます。デフリンピックまであと 1 年になりました。チラシや催し物、手話のマークのバッジ作りなど各地で活動が続いています。地道ではありますが、サークル会員の熱意を感じます。現在、サークルも社会同様、会員の高齢化が進んでいます。どんなに IT 化が進んでも対面で話しをしたいろう者はたくさんいます。まして高齢者は特にそうだと思います。1 日でも長くサークルに来ていただくため、1 回 1 回の定例会を楽しいものにしていきたいと思っています。
13	地域活動	居住者が安心・安全に暮らせるコミュニティづくり。高齢化の進行に対応する日常生活の支援活動、相談活動の強化。孤独・孤立対策の強化。	声かけ、広報活動。人材育成、支援者・世話人の世代交代。行政・関係機関との連携、協働。
14	地域活動	これまでと同様に手作り作品を作り其々の施設に無償で届ける事を行いますが、今後は更に多くの施設に必要とされる作品を届けたいと考えております それと同時に会員の高齢化の現実を打破して活動が継続出来るようにしたいと計画しております	多くの施設や団体に本会の活動をお知らせして、必要とされる作品を的確にキャッチして喜ばれる作品を作りお届けしたいと思います 作った作品を喜んでもらえることで会員一人一人がちょっとだけ社会と繋がっていること、そして少しだけ社会の役にたっていることを感じ、幸せな日々を過ごすことが出来たらと思っています
15	高齢・障害	指定特定相談支援では、1 事業所で出来ることはわずかなことです。医療、介護分野、また行政とのつながり、協力が無いと、話を聞くだけの機関になってしまいます。目指すところは、利用者からの相談があって、すぐに動けるようにする。ヘルパー斡旋、施設や企業の紹介、見学、実習同行をして、障害者や家族が地域で安心して暮らせるような社会基盤を作る。	民間事業所では、できないネットワークづくりを基幹相談支援センターに期待しております。地域生活拠点の事業所の指導、助言と一緒にあって丁寧に行うことが必要です。たとえば、最初の数年間は、拠点となる複数の事業所職員が基幹相談支援センターと一緒に活動するなど組織を超えての基盤構築が必要かと思われます。
16	高齢・障害	重度化の予防、健康寿命を延ばす	介護予防に関する啓発 重度化予防に向けた啓発や多職種との連携
17	高齢・障害	高齢化の増加に伴い、住民ニーズにこたえられるような事業展開を行う	高齢者により身近に感じてもらうことのできるような事業展開を行う

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①これからの活動の展望や目指したいこと	②実現するために必要なこと
18	高齢・障害	高齢者が住みやすい街になるように地域の関係機関と連携を図り、地域包括ケアシステムの完成と運用を目指していく。	地域の主となる方たちとの顔が見える関係づくりの構築、支援が必要な方の掘り起こし、だれでも相談窓口がわかるための PR の実施
19	高齢・障害	総合相談支援体制 継続 認知症地域支援推進 継続 介護予防活動 継続	区民への個別支援にあたる人員や設備が不足しないように、区役所、事業者も含めた調整が必要と思います。
20	高齢・障害	人とのつながりが薄くなってくると、困ったことがあっても相談できず、また困っていることすら認識できなくなってしまう、結果としてサイレントプアを生み、孤立を助長していく。ニーズがあるにも関わらず、どの支援機関やサービスにも結びついておらず孤立する世帯を減らせるよう、ニーズに応じて適切な機関やフォーマル・インフォーマルサービスへのリンケージを目指す。	総合相談支援事業や熱中症訪問事業において受理した、多様なケースの分析を行い、個別のニーズに適合した制度や機関へのリンケージや協働へ繋げる。地域とのネットワークを構築し、見守り事業者や民生委員、町会、ケアマネージャーと連携し、自立支援、重度化予防を目指す。
21	高齢・障害	障害者の心身の健康とケア、患者どうしの交流を活発に行っていく	これまで寄付をしてくださった 2 つの団体からの助成金が少なくなり、来年から区民まつりの参加も断念しました。少ない活動費で効果的に運営していくためこれまで以上に無駄のない計画を行っていききたい
22	こども	江東区での子育てが楽しくなるように、子どもたちが生き生き過ごせるように、子育て家庭が孤立育児にならないように、人と人をつなげる、ひろがりへを目標に運営していく。	子育てひろば…来室への促し。子育て相談…子育て中のちょっとした悩みもすぐ相談・質問できる。リフレッシュひととき保育…いかなる理由でも預けられる。見守り支援事業…家庭への訪問を通じて地域から孤立しないよう、丁寧な関わりをしていく（虐待防止）。特に有明地域は転入・転出が多く、知り合いがいない、子育て家庭は子育てをサポートしてくれる家庭が遠いなど困っていることも多い。近くのみずべ（子ども家庭支援センター）へ行けば、困り事が共有できたり、解決の糸口となれるよう、目標に向けていく。中でも見守り支援事業に注力を向けていく。
23	こども	妊娠期から切れ目なく、子育て家庭の心の拠り所、及び相談、支援の場となるような活動。乳幼児期の子育て支援、ひろばやリフレッシュひととき保育。週末の親子の時間の充実。小中高校生に向けて、講座	妊婦さんとの出会いを求めて、地域の産婦人科小児科や商店、保険相談所、助産師などと連携した広報活動。協働の地域イベントの開催など、アウトリーチ広報、ショッピングモールの子育てスペースや保険

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①これからの活動の展望や目指したいこと	②実現するために必要なこと
		の開催、異年齢交流の場として月曜日のセンター活用など（不登校児の居場所、学習支援の場として）。	相談所の健診。新築マンションのキッズスペースに出張ひろばを開催。ボランティア育成（ボランティアセンター、地域）、活動→講座の保育、保育支援活動、農園などの園芸活動。
24	こども	ここ数年、全国で PTA の存在意義が問われています。「PTA は必要ないのではないか？」等の理由で解散する PTA も増えてきました。しかし私は学校と地域や保護者とのつながりのためには必要なものだと考えます。	単位 PTA 同士の横のつながりを強化したい。A 校ではこういうことをやっている、B 校ではこういったことに取り組んでいるなど、各校の PTA に対する取り組みが分かりやすくなるようにしていきたい。
25	こども	意欲的に、主体的に参加しやすく、持続的な PTA	会則改定 役員、事業の見直し
26	こども	子供たちに地域の歴史を伝えたい 子供たちに学校の授業についていけるようサポートしたい 子供たちと高齢者が交流できるようなイベントを企画開催したい	活動者の確保 地域の理解
27	こども	学校と地域と青少年育成団体と PT の垣根を無くして、兼務をせず子ども達のためにさまざまな企画を立案し、実行する！	特に地域との連携に力を入れ、学校と協力体制を築く
28	こども	●●事業…産前訪問の充実。重篤な事案を他の機関と連携して対処する。活動の質を一層向上するために研修を実施する。ママパパ・チャイルドライン…チャットでの相談を拡充。受け手と支え手の質を向上する。NPO として…それぞれの事業は着実に運営している。運営スタッフの高齢化が進んでいくため、新たなボランティアの参加が望まれる。	●●事業…オーガナイザーの養成と世代交代を円滑に実施する。産前訪問のための研修を充実する。ホームビジターへのケア。（重篤な事案が増えているため）休日や夜間に活動できるホームビジターの養成が急務である。ママパパ・チャイルド…チャットでの双方向通信に丁寧に対応できる受け手を養成する。受け手をケアする支え手の拡充。NPO として…事業を運営するためのスタッフを拡充する必要がある。理事の若返り。
29	医療	区内小・中学校での性教育を実施していきたいと考えている。性教育は命の授業という形で区内の小学生や保護者を対象に江東地区分会として長く担当している。命の誕生の現場にいる助産師として、かけがえのない命の大切さを伝えていきたい。	江東区内の小学生に包括的性教育を進めていく。4 年生全員を対象とする。科学的に事実を伝える。もちろん妊娠出産の素晴らしさ、面白さ、愛情の部分伝える。
30	医療	江東区民の口腔健康に資するために、すべて区民（障害者や要介護の方なども含む）に「かかりつけ歯科医」を持ていただくことを目標	現在行っている活動（区民公開講座、各種イベント、普及啓発広告など）の内容を深化させる。 障害者施設など地域歯科保健が行き届い

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①これからの活動の展望や目指したいこと	②実現するために必要なこと
		とし、その体制整備と普及啓発活動を展開するとともに、会員歯科医師のスキルアップ、各種関連団体（医師会、薬剤師会等）との連携も強化する。	ていない部分がないか調査及び検討。江東区内の歯科関連のデータ分析。会員間、関連団体、行政などとの連絡や情報共有のためのデジタルフォーマットの構築。
31	就労	第四次中期計画（令和４年～８年度）重点課題 1.会員の増強（令和８年度目標：2,800人）2.就業率の向上（令和８年度目標：85% 令和５年度 80.9%） 3. 契約金額の拡大（令和８年度目標：12.4億円 令和５年度 11.5億円 4.事故ゼロを目指した安全管理体制の確立（令和８年度目標：傷害事故 10件未満 令和５年度傷害事故 30件）	1.会員の増強 会員の確保は、センター運営の基盤であるため、会員からの紹介による入会促進や新聞折り込み等各種 PR 活動を強化して、会員増強に努める。2.就業率の向上 一人でも多くの方に就業機会を提供するため、就業相談窓口や就業状況提供の充実、ワークシェアリングの促進等を行なっていく。3. 契約金額の拡大 会員の就業機会の拡大とともにセンターの経営安定のために、PR 強化等により受注拡大を図っていく。4.事故ゼロを目指した安全管理体制の確率 会員の安全は事業運営の基本であるが、高齢化等により、残念ながら毎年多くの事故が発生している。事故ゼロを目指して、会員が安全・安心に就業できる環境づくりを推進していく。
32	就労	現在行なっている事業拠点を中心に現在活動していることから広がっている活動として、乳幼児から高齢者までが集える居場所を作っていきたい。そこでその地域で必要としていることを一緒に困っている方や町会・自治会、周辺団体や企業などとも協力を仰ぎながら一緒に立ち上げていきたい。亀戸地域では●●の隣の場所をオーナーさんからお借りし現在は地域食堂（子ども食堂）を開催しているに留まっているが、そこで居場所的な活動やサロン、フリーマーケットも含め立ち上げていきたい。深川地域では●●を拠点として元気高齢者が生きがいややりがいを持てるようなサロン活動の後押しをしながら、高齢者自身が活動でき、いつまでも元気で寝たきりにならない、楽しんで継続できる活動を後押ししていき、それを江東区全域に広げていきたい。今期は「認知症カフェ、ご近所ミニディ」を新たに立ち上げていきたい。豊洲地域では転居してきた方も多いため、町会・自	地域の方の理解やボランティアとして担ってくれる方の育成が必要となってくる。また、町会、自治会、包括支援センター、社会福祉協議会などと連携して進めて行き、小学生頃からボランティア教育を行ない、ボランティアを授業内などでも取り入れながら地域貢献していくことで、一緒に地域を作っていくこと、今後の未来の担い手として育てていくことが必要になってくる。我々の運営している保育園やきッズクラブなどでもボランティア活動なども取り入れながらボランティア意識の醸成や地域を一緒に作る担い手として育成していきたい。放課後等デイサービスは障害者であり、●●の相談者にも障害者が多いが、それでも何かできることや地域での居場所のための周囲の理解も必要なので啓発活動などを行なっていきたい。区内にも空き家や空きスペースが無料や安価で社会的なことに利用できるように補

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①これからの活動の展望や目指したいこと	②実現するために必要なこと
		治会の活動に参加しながら一緒になって豊洲地域の団体や企業とも連携したイベントなどしながら、ノルディックウォークを通して繋がりがりや健康づくりをますます推進していきたい。	助金などがあるとさらにそういった活動の弾みになるし、活動拠点が増えることで選択肢が増えていく。
33	居住	各公社住宅にあるコミュニティサロン（集会所）を活用して、入居者によるサロン活動など入居者同士のコミュニティの形成を住まいるアシスタントにより支援している。そのため、各住宅の自治会などお住まいの方からヒアリングを行い、各住宅におけるコミュニティ活性化に向けた活動内容を模索している。今後、入居者のみならず近隣にお住まいの方なども含めた活動となれば、地域の活性化にもつなげていくことができ地域貢献につなげていきたい	・各活動を継続していくため入居者による活動の担い手を発掘すること ・活動を助けるボランティアの紹介やそのボランティアへの支援
34	居住	①団地を活用した地域のニーズに応じた拠点化に係る取組の推進と取組の深化 ②地域や団地の特性に応じた施設（生活支援・医療・福祉・防災コミュニティ）の導入等を通じ、地域の価値・魅力向上に貢献する	①地域の課題やニーズを常に把握・意識した上で、地域関係者と連携するため、定期的に地域会議に出席する ②団地を拠点に地域に開かれたイベント等を開催し、孤独・孤立の防止の一助となるようにする
35	生活困窮	生活保護法における更生施設（全国で19施設）の認知度が低く、福祉専門職でもその存在をあまり知られていません。必要な社会資源ではありますが、生活保護の受給が利用要件となっているため一般的な施設利用になっていないからです。施設の入所利用はできないものの、地域にある社会資源として出来ることを模索しながら一般的に開かれた施設にしていきたいと考えています。地域の方のよろず相談に対応できる社会資源として認知される施設を目指していきたい。	まずは、このようなアンケート含め情報発信を行い、認知度を上げていくことが必要と考えています。クラブ活動、所内作業などの一般開放や地域団体との連携。生活保護関連に関わる一般的な相談など。施設単体での補完ではなく、地域福祉の観点で保護施設の在り方を見直していきたい。
36	その他	区立小中学校において、薬物乱用防止教室を継続して行いたい。	薬物乱用防止教室の講師(指導員)を増やしたい。
37	その他	・江東区パートナーシップ制度実現後、適切な運用がなされているかの点検 ・社会的少数者の存在を想定した居場所づくりの継続 ・地域市民への普及啓発活動の継続（主に学習会を通じて） ・ジェンダーやセクシュアリティに基づく差別や排除のない地域づくり	・区内パートナーシップ制度の適切な運用に向けて、性的少数者(当事者)の生活実態や生の声を区政に届けていく ・ジェンダー、セクシュアリティに関する制度制定に携わる行政職員や議員との対話の継続、傍聴会参加の継続 ・団体理念の賛同者、協力者を増やし区内での連

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①これからの活動の展望や目指したいこと	②実現するために必要なこと
			携を深める ・アクセシビリティ、情報保障など、合理的配慮を意識して居場所や講演会を実施していく
38	その他	1.現在、対象者の更生支援とともに、法務省提唱の「社会を明るくする運動」を支援している。2.特に、江東区が検討中の「再犯防止推進計画」について協力中。安全で安心出来る社会づくりを目指している。	1.現在、非行犯罪は減少しているが、より複雑化した非行・犯罪が多く、その対応が迫られている。個々の事例、犯罪に対応すべき、きめ細やかで柔軟な対応が必要である。2.そして、再犯防止を重要な課題として、地元自治体に協力していくことが必要と考える。

※団体等の取組であるため、記載内容のまとめはしていない。

2 区の地域福祉についての意見・提案

問4 「地域のつながりをつくる活動について」

身近な地域の中で、様々な背景を持つ人々が集い、交流する活動に関する現状への意見と、こんな取組や仕掛けがあると、区民はもっと参加しやすいといった提案・アイデアをぜひお聴かせください。

<全意見（原文）>

※太字で主な提案を表示

No	調査区分	①現状への意見	②取組や仕掛けの提案・アイデア
1	地域活動	地域の繋がり的一项是お祭りや納涼踊りです。町会役員による模擬店では利益なしの焼きそばやフランク、子供達に人気のあるわたあめ、かき氷など提供し大変喜ばれています。イベントを楽しむと人はすぐ打ち解けます。	沢山の方の参加とすれば当町会では防災訓練にどじょうつかみ大会を絡めて訓練の後に消防署、消防団、消防隊の方々に協力してもらい大掛かりの放水の中、親子でどじょうつかみをします。子供達の嬉々とした姿は見ていても嬉しいです。テレ朝のナニコレ珍百景にも取り上げられグランプリを取りました。どこから湧いて出て来たかと思う程、人々が集まります。
2	地域活動	「言うは易く行うは難し」難しい課題である。様々な背景を持つ人があるが、例えばマンションに住む人達と戸建に住む人達の交流は殆ど見られない。また、何かのアンケートを見たとき記憶しているが繋がりとか交流について、友人や仕事関係の付き合いがあればそれで十分。地域の人との関わりは必要無いとか煩わしい面倒くさいという意見	マンション族を除き、多くの人達にとって地域で一番関与があるのは町会だと思います。 <u>町会の行事</u> 、事業に役員だけでなく一般の人々も巻き込んで盛り上げ、参加した人々がおもしろい、いいなと思ってくれるような <u>何かを企画してほしい</u> （盆踊りはあるが他にも…）。参加した人が他の人を誘ってくれれば輪が広がっていく。行政も具体的な

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組や仕掛けの提案・アイデア
		が見られた。一方、集合住宅などで開かれているサロンに招かれたことがあるが、良い繋がりだなと思いました。	支援を考えてほしい。近くに（町内） <u>リハビリテーション病院がある</u> 。そこで医師や介護士が講師となって病気のことや生活習慣のことについてオープン講座を開いていた。結構参加者もいた。 <u>高齢者を中心に関心の高い内容なので出張講座</u> などしてもらえば良いと思います。
3	地域活動	区報をどれだけの方々が読んでいるのか？参加を呼びかけるのは、顔見知りになってお声がけが効果があると思います。おまつりを開催している事を放送する等は？	<u>着ぐるみ等を用意してのPR活動</u> 。
4	地域活動	近隣関係は稀薄になっているものの近所の情報が大切である。町会、自治会との交流実施、又、町会自治会主催のイベント、参加しやすい環境作り支援を行う。（イベント開催日を小・中学校に連携、周知してもらう。）	元気なうちに活動に入って頂き、連絡を取合って関係性を築いていく事が大切、重要である。 <u>長寿サポートセンター、社会福祉協議会の活動、取組をもっと頻繁にPRすべき</u> である。
5	地域活動	町会としては他町会との交流はありません。町会連合会と子ども連合会とで運動会をやっていましたが、いまは中央公園の夏まつりだけになりました。	亀戸地区の最大のイベント 8 月の第 4 日曜にかけて、中央公園の <u>納涼まつりのミニ版</u> を二丁目の文泉公園で開催しました。長年行っていた盆踊りをやめて、寄付金に頼らず江東区の補助金と町会からの援助金でまかない、盆踊りの櫓、電気、提灯、売店小屋は業者を頼まず、折り畳みテント、発電機をリースで人手はネットで募集して、売店は町内の飲食店にお願いして開催できました。会場は盛況でした。
6	地域活動	-	<u>お祭りや町会の納涼会等</u> 、区民の皆さんが楽しんで参加できる催し。 <u>災害協力隊の名簿を関係者のみに知らせて活用し、住民参加の訓練</u> をする。
7	地域活動	それぞれの団体が活動しているが現時点ではこれらがつながることはないのでは。	最初は <u>行政が架け橋となって企画し、徐々に地域団体に投げかけ</u> てはどうでしょうか。
8	地域活動	コロナ禍で地域とのつながりが薄くなってしまったのでは？	地域の学校との交流を各機会を増やしていきたい。 <u>コミュニティースクールを活発化させて地域とのコミュニケーションをはかる</u> 。学校施設の管理は現在、校長（学校）にあり、休日放課後の施設利用が学校

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組や仕掛けの提案・アイデア
			側に負担があるので、 <u>学校の施設管理を業務委託として、もう少し学校施設を利用しやすくして欲しい。</u>
9	地域活動	区民といえば、区民には一人一人個性や容貌、家族の歴史、地域の歴史、街の気質がありますが、先ずはそれらを町の永続と形成には必要なことだと理解することです。深川の地域にとって、過去の時代から受け継いだ町会組織です。例えば祭り、盆踊り、歳末警戒、季節をにじませた神社の行事です。組織があることで、人と人、家庭と家庭が繋がっていきます。現状への理解で、まず思うことは、委員にとっては町を見て、人を見て、家族を見て活動することが何よりも必要なことです。地域が喜んで委員の存在を認めてくれることこそ、大切なことです。協議会の運営は、それを助けることです。そのため委員の活動に役立つ知識を提供することです。政府広報オンラインには、『少子化や核家族化によって地域のつながりが薄れる中、高齢者や障害のある方、子育てや介護をしている方などが、周囲に相談できず孤立してしまうケースが増えています。そこで、地域の身近な相談相手として、必要な支援を行うのが「民生委員・児童委員」の存在です。誰もが安心して暮らせる地域づくりのために、様々な活動をしていることで、逆に地域から離れることもあります。「民生委員・児童委員」活動の多さについてぜひ知っていただき、活動へのご理解を知ってほしいと思うのです。	では、どうしたら、高齢者や子供達、障害を持った方々と交流できるか？そこで思うことは、先ず<u>委員が、心理学や心の発達など、自分の意識がどうした構造で出来ているのか。湧き上がる意識は、どこから出るのか？</u>どうしたら、ものごとをそのままの姿として見つめられるかなど、そんなこと<u>を勉強する</u>のも自分を知る営みの基礎のような気が致します。自分として成り立っていく構造を知れば、他者の気持ちもわかるのではないのでしょうか？そこに活動の原点があるように思えるのです。知識を詰めるのではなく、自分自身の心を知ることです。そして、地域に性別、年齢、障害、国籍等を問わずに交流できる（したくなる）、町会・自治会、福祉団体、支援者、サービス事業者、医療機関、学校、商店、企業等があれば良いとも思うのですが
10	地域活動	<u>区の広報担当部門で活動を取り上げてメディアへ伝え、区広報誌、ケーブルテレビでの取組みは効果あり</u> と考えてる。	-
11	地域活動	現状は江東区ボランティア・地域貢献活動センターなどが主催するイベントなどで聴覚障害者団体と●●が合同で、聞こえない方たちとイベントに参加された方たちとの交流を図っていますが、さらに充実していきたいと考えています。	<u>手話のキャラクター（手の形）を作る。区の行事に聞こえない方たちが、手話サークル会員と一緒に出場し、来場者に簡単な手話教室を行う。</u>

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組や仕掛けの提案・アイデア
12	地域活動	行政の取り組みが区民に見えず、行政と地域活動団体との連携・協働が不足している。	<u>日常生活圏での行政・関係機関・地域活動団体の連携</u> 、プラットフォームづくりの推進。
13	地域活動	難しい事は解りませんが、多世代の仲間が気軽に集まって活動できる場所が多く有ったら良いと考えます 点となる小さな活動が気楽に出来るような場所が有ったら、多くの点となる活動が生まれ、それがその場所ですつながりを持ち、点が線となり、面となるように考えます ボランティアのハードルを下げ難しく考えないで原点に戻って見たら良いかな？と考えます	前質問で答えたのと同様に、 <u>色々な人が自由に集まれる場所を作る</u> ことが一番の方法と考えます そこには自然に繋がりができ、災害時等でも自然に助け合える社会が出来るように思います 能登町の日本海クラブのごちゃ混ぜ力も参考になるようにおもいます
14	高齢・障害	知的障害者、精神障害者への偏見は根強く社会に残っています。「すべて国民は健康で文化的な生活を営む権利がある」にもかかわらず、コンサートは騒いではいけない、プールはトイレが自立してから、など障害者は文化的な活動に制限があります。	<u>騒いでも、立ち歩いて、出入り自由の本格的なコンサートや重度障害者のためのプール教室などの開催や、実施している団体の後援や助成金の支出</u> をお願いしたい。特に障害者も乳児も自由に入れる吹奏楽コンサートを見に行ったことがあるが、本格的なのに、立ち歩く人、声を出す人、演奏者の近くに行く人がいて、楽しめているようでした。
15	高齢・障害	お祭りなどを通して、地域の方だけでなく、様々な団体に参加して一つの物を作る。	地域の特性上、 <u>大規模商業施設があるため、広場をお借りして、地域丸ごとフェスティバルのような、高齢者や子供、障害の関連する団体などと一緒に、情報発信やグルメなどの提供の場を開催</u> する。
16	高齢・障害	活動に参加するメンバーが固定化され、新規の参加者が入りづらい雰囲気があるように感じる。 まだまだ活動する団体数が少ないように感じる。	地域を支えている方(町会や自治会、福祉団体、サービス事業所、医療機関、学校、企業、行政等)が集まり、区の地域福祉について意見交換できる場が少ないように感じる。 <u>地域を支えている方々同士の関係性の構築が浅い</u> ように感じている。
17	高齢・障害	・困っている人と助けたい人のマッチングアプリ	・ <u>「困っていること相談カフェ」のような取り組み</u> 。まずは、話を聞いてもらえるところを作る。
18	高齢・障害	人はそれぞれ特性があり、交流が好まない人もいます。が近くで多く企画されれば参加するきっかけは増えると思います。	<u>歩いて行かれる場所で</u> 、町会会館、喫茶店、空き店舗、企業に場所の提供呼び掛け他、障がい者支援団体等にも協力要請をされてはいかがでしょうか。 区報、ホームページでも企画段階から協力をお願いし

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組や仕掛けの提案・アイデア
			てもよいのではないでしょうか。 <u>楽しいことであれば協力者、参加者は集まる</u> と思います。
19	高齢・障害	高齢者にとっては気軽に参加できることが一番であるが、交流に参加するにあたっての足がない場合も多く、利用したくても利用できない場合もある。バスを利用して一人を通うというのは難しいこともある。	バスなどの公共交通機関のみでなく、バスストップ形式であったとしても <u>乗り降りがしやすく、現場までいける手段の提供</u> 。
20	高齢・障害	区報が新しくなってまだ慣れないので見にくく感じてしまうのですが、地域の中での取り組みで、一般の方が参加できるものをもっと区報で公開していくと区民は参加しやすいと思います。実際に当会の活動も区報に載せてもらおうと一般の方も参加してくださり、去年は会員にもなっただき、活動をしてくださるようになりました。	<u>障害者も健康な人も共通する健康講座や運動講座</u> を開き、地域の人にも参加していただく。
21	こども	現状は様々な子育て観があり、職員は丁寧な関わりをしている。（否定せず、提案し、親子への勇気づけを行っている。）	<u>誰もが楽しめて参加できるプログラム</u> （夏まつり、クリスマス会など）と、 <u>テーマを細分化したプログラム</u> （幼稚園についてきいてみよう、引越してきてまだ間もない方あつまれ）など <u>参加しやすい</u> と思います。
22	こども	<u>高齢者と乳幼児、子供達が交流できる場が欲しい</u> 。皆で一緒に子育てができる社会環境作りなど。高齢者と学校に昔遊びを伝授してもらおう。	公立の学校、幼稚園、保育園を開く。ボランティア参加により交流を図る。
23	こども	先日地域の夏祭りがあったのだが、終了後「夏祭りっていつですか？」と聞かれることがあった。情報が行き届いていないのだなと実感した。	<u>情報の伝達という面だけでも丁寧に</u> やればもっと地域活動が活発になるのではないかな？
24	こども	学校に地域住民、卒業生の参加がない 町会イベントへの子供たちの参加が少ない 地域交流を運営する人が少ない	<u>学校でも子供たちの活動をもっと見られるように</u> したい 例。鼓笛隊、展覧会など（保護者以外への開放） 町会イベントへの子供たちの参加 これにより地域住民が集まり交流する 地域交流を運営する人作り 他地域の事例などの情報共有 いろいろな団体との交流、情報交換

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組や仕掛けの提案・アイデア
25	こども	体験学習が、短い時間で何度もできる	<u>町会会館や、公民館等の活用</u>
26	こども	-	災害協力隊を再活性化するため、区行政が積極的に町会・自治会などに働きかけ、 <u>避難拠点となる学校などと共に住民参加型の訓練を中学校区ごとに開催</u> する。地震や大雨などの災害が多発している今、住民参加が期待される。
27	医療	交流する活動のについてデジタル化を推進する。	<u>各種ポータルサイトを充実させ双方向での情報発信ができる体制を整える。</u>
28	医療		<u>リンクワーカーの活用 暮らしの保健室の立ち上げ</u>
29	就労	●●会員の中には、センターの活動だけでなく、他の様々な団体や活動に参加され活動している方がいるかと思いますが、その方の当センター以外での活動を知る事は難しいのが現状です。その方の活躍を知る事ができれば、元気に活躍されている会員のモデルケースとしてご紹介したり、他の所属団体や活動のPRにもつながることと思います。	江東区コミュニティ活動支援サイト「 <u>ことこみゅネット</u> 」のような <u>江東区内の各種団体等の活動内容やイベント(カレンダー)、募集等 Web で閲覧できるプラットフォームをより充実していく</u> と良いのではないかと思います。各団体や活動のPRに繋がるだけではなく、参加したい方、相談に乗ってほしい方、双方のマッチングにも役立つのではないかと思います。
30	就労	<u>いろいろな意見を持って参加されている方がおり、理解した上でうまくコーディネートする役割の人がいないと揉め事などにも発展するため、コーディネーターが必要となってくる。</u> また何かを介して集まることも多く、そういった <u>居場所的活動に関して助成金</u> 的なものがあると、団体などからの持ち出しがないか少額で開催でき、持続可能な活動に繋がっていく。	●●では●●で認知症カフェ(補助金)を●●ではご近所ミニディ(補助金)を進めていて最終目標は利用者主体の事業にしていく。●●では相談事業(委託金)の依頼が江東区より入っていて法人の方針とマッチしているので進めている。
31	居住	機会：●●の取組は団地居住者のみならず、地域の方々へも開いているが、 <u>団地外への周知が難しい。区役所はじめ、関係機関に協力頂きたい。</u> 場：●●の取組は団地集会所で開催のため、団地外の人は参加しづらいのか？ 仕組み：社協連携・包括連携、区役所(江東ブランドさん)連携、大学連携等の取組を実施している	・ <u>周知、PRを相互でできるような仕組み(学校も含めて)</u> ・地域で自立できる仕組みになることが目標だが、 <u>ボランティア募集等、個人情報取得に関わる事項が課題</u> ・組織、団体の場合、個人情報保護とセキュリティの配慮が第一となる

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組や仕掛けの提案・アイデア
32	生活困窮	地域の身近なコミュニティとして、町会・自治会があると思います。趣味のコミュニティや興味あるものについては個人でも積極的に参画できると思いますが、そうでない場合は住まいの近くでより日常に近い距離感で活動できるのが良いのではないのでしょうか。町会・自治会の活動の活性化に期待を寄せています。	福祉団体では、実施している事業を回すだけの体力しかなく、新たな取り組みを行いつらい状況になっています。そこで各団体の活動出張型で実施いただけると、こちらが場を提供することで、その団体とつながることが出来ます。 <u>団体活動の紹介や交流を兼ねた出張型の活動</u> を支えてもらえると、より地域活動が活性化するのではないのでしょうか。
33	その他	江東区に以前より居住している住民と新自由民との交流が少ないと感じている。特に深川地区	<u>保育園・幼稚園・小学校の活動に保護者出来る内容を増やす。町会・自治会の活動に子供と保護者が参加しやすい活動を増やす。</u>
34	その他	【こども、若者関連】 課題：性的マイノリティ当事者である子どもや青年は学校・家庭内で孤立しがちである。大人側の無理解により、地域の交流につながることができない。いじめや不登校・精神疾患・虐待や非行等の深刻な問題に発展する場合もあるため、周囲の理解と専門的支援が求められる。	・ <u>男女別制服の撤廃</u> （すでいくつかの自治体で同様の動きがある）など、服装が自由な場を増やす。 ・ <u>「だれでもトイレ」の増設</u> （現在区内の学校では 1 階に障がい者向けトイレがあるのみであることが多いが、誰もが安心して使用できる安全な個室空間を提供すべき） ・ <u>ジェンダー・セクシュアリティ関連の問題について専門的知見を有するスクール・カウンセラーやソーシャルワーカーの配置・紹介</u> （大学・自治体などで同様の動きがある） ・ <u>ジェンダー・セクシュアリティに関する行政職員、教員向け研修の実施</u> （こども若者にも関わる大人にも性的マイノリティがいることを踏まえた研修が望ましい） ・ <u>性的同意や反同性愛差別・反トランス差別の問題を含む進歩的で地に足のついた性教育の実施</u> （海外の多くの学校では上記の問題を含む性教育を小学校低学年から行うことで、性暴力被害や性的マイノリティへのいじめを減少させようとしている） ・ <u>悩みを共有できる居場所作り</u> （区外には若年当事者に限定した会が多数ある）
35	その他	保護司としては、地域との関係は特に必要な事であり情報を共有して、対象者の立ち直りと、非行・犯罪の防止に力を注いでいきたい。	1. <u>経験豊富な先輩諸師の意見を聞き、活動の参考とする。</u> 2.その為には、その様な <u>話し合いが可能な場面を作っていく</u> 事も大切かと思う。

問5 「誰もが大切にされる社会をつくる活動について」

区取組ア～エに関する現状への意見と、取組の充実に向けた提案・アイデアをぜひお聴かせください。

ア 人に優しいまちをつくる（まちのバリアフリー化、移動支援）

<全意見（原文）>

※太字で主な提案を表示

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実に向けた提案・アイデア
1	地域活動	誰もが社会参加できる仕組みとは区民の願いでもあります。差別や区別など無いのが理想です。多様性感覚を養う教育が必要。	行政から区民へのサービスは江東区として充実しているものと捉えています。しかし区民への浸透と考えると <u>もっと発信する必要がある</u> と思います。
2	地域活動	<u>バリアフリー化は以前と比べると随分進んでいる</u> と思います。道路や建物の入り口、エレベーターの普及、その他。器具も進化している。電動車いす他補助器具も良くなっている。	<u>どこに行けば、どんな支援が受けられるか、どんな相談窓口があるのか、たゆまぬ情報発信</u> を続けていただきたい。
3	地域活動	<u>自動運転の車イスの方が少しの段差で前に進めずに困っていました。</u> バリアフリー化は早々に必要です。	<u>少しの段差に対応出来るタイヤ</u> は無いのでしょうか？
4	地域活動	格差がある地区の集会所の施設のバリアフリー化、又、二階に上がるため高齢者は無理の為、エレベーター・簡易昇降機の増設。	<u>エレベーター設置が無理であれば昇降機の設置。障害者の疑似体験の実施。</u>
5	地域活動	<u>（ア～エ）は都と区でどこまで望めるのか、検討</u> して頂いてその結果を見て判断をしたい。	-
6	地域活動	歩行者道路に車椅子やベビーカーを使用する時、道路が斜めになっているので使いにくい。（雨の排水のためだと思うが。）	<u>道路の排水を工夫して平坦な道にして欲しい。</u>
7	地域活動	交通の便が良く、高齢者のバス利用者も多く、通院や買物には利便性が高い。	<u>順天堂高齢者医療センターへの通院の際、地下鉄南砂町から歩いての距離が長い。</u> 都バスの本数が少なく行きは病院までであるが、帰りの東陽町までの走行がない。 <u>東陽町からの循環路線</u> ができれば通院する方々には便利になると思います。
8	地域活動	<u>災害時、学校が避難所になり障害者も高齢者も避難してくる。</u>	<u>四大小、西中エレベーターの設置。</u> 新しい校舎にはエレベーターが設置されている。
9	地域活動	憲法には「すべての国民は、個人として尊重される」とあり、地域でのつながりを持つ他人に対しても同じです。高齢者の介護や精神的障	今日の前の困った人に、自分を忘れて、他者に尽くす、そこに自己があるとも考えられます。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
		害を持つ人にも通じます。ですが、人は自己の正しさ・意識としての確かさを思う半面に、他者の心も同様であることに思いが及びません。	
10	地域活動	手話や文字による情報提供を拡充する。	<u>区のテレビ放送については手話通訳や字幕</u> などをつけていく。 <u>オノマトペを文字化する機械を導入</u> し、聴覚障害者や高齢者への情報保障を進める。
11	地域活動	区の施策・取り組みが区民に見えない。	<u>当事者や関係者の意見要望を把握する制度づくり</u> 。
12	地域活動	具体的方法は解りませんが、人に優しい街を作るには、まず色々な人に接する事のできる機会なり場所を多く作り、色々なひとの事を理解する事から始めないと、ペーパー上の空論となるように思います	<u>色々な人と自然に交わえることの出来るごちゃまぜ施設を作って欲しい</u> と考えます
13	高齢・障害	知的障害者、精神障害者への偏見は根強く社会に残っています。ご家族も外出すると他人の目が気になるので家にいます、と言う方もおります。特に、高齢化した家庭、障害者を抱える 8050 問題は、一般の家庭よりも深刻です。居宅介護、移動支援を利用したいが、ヘルパー不足で入れられない、短期入所も 3 か月先まで、利用できないのが現状です。	<u>障害者に対応できるヘルパー</u> がいれば、障害者は町中に出られます。ヘルパーがどのような支援をすれば障害者が落ち着いて地域で生活できると区民も理解してくれると思います。 <u>移動支援従事者養成研修</u> を区が主催して行い、ヘルパー事業所の募集状況も提示して、ヘルパーを増やしていただきたい。
14	高齢・障害	・移動できないことは無いが、一人では出かけることが不安であったり、億劫になっている方への移動の支援 ・認知症高齢者が帰宅困難になっても、自宅に安心して戻れる環境ができていない。	・ <u>出かけて行く場（住民主体のサークルなど）の充実</u> ・ <u>気軽にしかけてもらえるボランティアの充実、コーディネートをしてもらえる窓口の充実</u> ・ サポーター養成講座の開催の他に、 <u>サポーターが帰宅困難者が出現した際に、エリアを決めて搜索をするなどを仕組み</u> 、そのような方がいらっしゃった際に気軽に声を掛けられる雰囲気づくり
15	高齢・障害	管轄エリアとなる亀戸駅周辺は交通機関も十分に充実しており、日常生活における移動手段も豊富にあると感じている。	
16	高齢・障害	①バスに乗れなくなると高齢者の行動範囲が狭くなる。	①高齢者や介護認定者への移動手段の補助 <u>タクシー代 3 割削減とかタクシー券の配布</u> （障害者のようなもの）② <u>バス乗降の一部手伝い</u> （体を支えること、シルバーカーの上げ下げを補助する程度）③ <u>江東</u>

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
			<u>区のコミュニティバスの拡大</u> (既存の停留所まで歩けない高齢者が多いため)
17	高齢・障害	地域ケア会議で話し合われたことが政策、制度として実現されない。東西の移動手段が少ない、東砂地域の交通手段が乏しいのでコミュニティバス等移動支援の手段があるとよい。	<u>地域ケア会議（地域課題・政策提言）を社協と区が協働で行い、サテライトごとに年に1つ必ず政策として実現</u> できるようになればいいと思います。
18	高齢・障害	一人では外出が難しい高齢者も多いが、まかなえる支援は不足していると思う。介護保険サービスだけでは対応できない。	<u>通院の付き添いや外出同行など、住民参加型で気軽に利用できる支援</u> があると良い
19	高齢・障害	実際に外で車いすに乗ってみると、がたがたとした地面が多いのに気づく。ただ、ハードを整備すればよいということだけではなく、特に目の不自由な人が暮らしやすい移動支援、文字を点字に起こす作業ができる人を多く育てる取り組みなども必要と考えます	<u>障害者をケアする移動支援や、点字に起こす人を多く育成する講座</u> を行う。無料でなくても良いので、実際にそれを習得後、活動していただける人を増やし、区からも <u>活動をしてくださる方へ報酬が届くような仕組み</u> を作っていただく。
20	こども	海外から移住の方が多い。表記を追記している。	<u>英語、中国語、韓国語での表記を多くしていく。</u> (パンフレットや館内説明も写真を多くして分かりやすくする。)
21	こども	-	<u>どの駅も車椅子やベビーカーの移動がスムーズにできるように整備。</u>
22	こども	出来ていると思います。	特にありません。
23	こども	公園での集まりや会話をしやすくする 住民活動の情報が少ない(知らない?) 砂町地区は緑や公園が多く、環境はよくなった	住民交流活動の広報 <u>江東区報、ベイネットなどの活用</u> 、町会への情報提供 <u>区民会館などの使いやすさ</u> 、集まりやすさの工夫 <u>気楽にお茶など持ち込み会話できる場があるとよい</u> 最近、知人宅に上がりお茶を飲む機会がないので、外で飲める場があるとよい。(今はスタバに行かないとダメかな、若者がパソコンで占領している)このシニア版!
24	こども	<u>民間と公共の施設の相互活用</u>	
25	医療	さらにバリアフリー化を進めるべきである。	<u>バリアフリー化に関する助成の拡大。</u>
26	就労	現在●●の利用者の中に身体障害を持っており移動支援を使っている方がおるが、ヘルパー不足で、学校が優先なのもあり、居場所の活動での移動支援の利用が叶わず来所ができなくなっており、他者との	移動支援など障害のある方にとっては要であるので、どこも福祉職の担い手が減ってしまっている、補助金などを出し、全体的な福祉職の処遇改善とイメージが悪いというのもあるので、必要性も含め教

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実に向けた提案・アイデア
		交流する可能性や移動の機会を奪っている。 まちのバリアフリー化で亀戸駅では北口のみしかエレベーターがなく、東口からは階段のみとなっており、北口まで回らないと行けなくなっている。利便性の悪さを感じている。	育、周知が必要になってくる。 <u>小・中学生の間から職業体験</u> に福祉職なども入れ、今後訪れる超高齢社会にも対応していかないと担い手がいなくなる。また <u>ロボットや機械などでも対応できるよう</u> になれば入出が少なく済むことも出てくると思う。 <u>大きな駅では両側の改札でのエレベーター設置</u> を進めていただきたい。公共施設は大体 <u>エレベーター</u> は設置されているので <u>都営住宅の低層階などでも導入</u> されるとより利用しやすくなるのではないだろうか。 <u>エレベーター以外に補助できるものがあると利用しやすい</u> のもあると思う。 公共施設のエレベーターの設置場所がわからず頑張って階段利用されている方も見たため、 <u>入り口にエレベーターの設置場所や誰でもトイレなどの場所がわかりやすく表示</u> されることでも安心して利用できるので、表示を入り口付近に明確にしていきたい。
27	居住	高齢者は大きな横断歩道を渡るのが怖いとの声を聞く、高層ビルの中に集会所などがある	<u>1F にコミュニティスペースがあると高齢の方も気軽に訪問できる</u> のではないだろうか
28	その他	地域の中で、住民同士の関係が希薄になっている。 特に旧住民と新住民	<u>園児・児童・生徒の登下校時に地域住民(大人)から 積極的に挨拶をする。</u> (当初は無視されるが、継続することが大切)
29	その他	精神面のバリアフリー、情報保障の面のバリアフリーが不足している。社会的マイノリティを想定した街であると、疎外感を持ちづらく、長期的に生活できる人が増える。	<u>街や公共施設の中に休息できる空間やベンチを設置</u> する。 <u>カームダウン室を設置</u> する。 <u>イベント開催時に、手話通訳者や失語症要点筆記者の派遣</u> の推進を行う。具体例には <u>宣伝文に「情報保障が必要な方はお問い合わせ下さい」と必ず明記</u> する。 <u>映像には常に日本語字幕</u> をつける。 <u>外国にルーツを持つ方向けには、英語字幕、やさしい日本語を保障</u> する。 <u>施設内に誰でもトイレがあることを明記</u> する。実験的に <u>性別を問わないトイレを設置</u> していく(公共施設内)。
30	その他	-	<u>担当の方々が実際に車椅子に乗ったり、目を隠して歩いたりして、経験を重ね一つ一つ改善</u> して行く。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
31	その他	土地柄もあるが、車椅子の方が登れない坂・降りるのが怖い坂・歩道が狭く傾いているなど、 <u>移動が困難な場所が多くある。横断歩道の長さに対して青信号が短い場所が多数。渡りきれない人がたくさんいる。</u>	

イ 一人ひとりの尊厳を守る（意思決定支援、虐待・DV防止、生活困窮・居住支援）

<全意見（原文）>

※太字で主な提案を表示

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
1	地域活動	家庭の中の状態を把握するのは大変です。日頃から高齢者の一人暮らしの方や幼い子の子育て中のお母さんなど町会では挨拶などで声掛けしています。	民生委員児童委員の方と連携して情報を共有しています。最近では <u>個人情報</u> の壁が困りものです。
2	地域活動	<u>身内以外の後見人制度の普及が進んでいない</u> ように思われます。虐待の通報はためらわずに通報を、とのキャンペーンもあり、警察への通報も多くなった。防止に役立っていると思います。	<u>効果的な広報活動</u> を。それでも痛ましい事件が起こる。近所の目と耳を、もっともっと利用できればいいと思います。
3	地域活動	虐待DVを発見を見かけた時の連絡箇所が分からない。	<u>虐待を見かけた時の連絡先の周知を徹底する。</u>
4	地域活動	-	<u>人権教室を盛んにして自分の意見をはっきり言えるようにする。</u> アドボケイトは親しい大人が信頼できるかによると思う。 <u>こどもと向き合い、親身に対応できるように研修</u> をする。
5	地域活動	民生委員として関わる中で虐待、DVについては発見するのが難しいので充分気を付ける様にしている。生活困窮や居住支援は手厚い。	<u>江東区報に掲載されていても読まない方が多いのでPRに努める。</u>
6	地域活動	-	<u>高齢者の居住支援のためシェアハウス（低額）</u> を1人ではなく仲間ができて生きがいも出てくる。孤独死の減少につながる。
7	地域活動	虐待に、DVに到る <u>幼少期からの多くの過程が、虐待者になる問題が隠されている</u> のでしょう。人を痛めて、手を汚して、暴力そのものとなって、それが真の幸せへの道となるはずがない。	自分を見つめるしかない。自己心を見つめるしかない。他者の喜びを自分の喜びとすること。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
8	地域活動	<u>意思決定に際しての情報保障</u> が不十分と思われる。	意思決定に際しての情報提供や課題を抱える方が支援機関に相談する際は、手話通訳や文字情報など、 <u>当事者の希望する方法で情報提供が受けられ、コミュニケーションがとれるような体制を充実</u> させる。
9	地域活動	区の施策・取り組みが区民に見えない。	-
10	地域活動	申し訳ありませんが具体的にはわかりません	同上（※編者注 左記と同じ）
11	高齢・障害	<u>重度の脳性麻痺の方など、コミュニケーション支援が必要</u> である。支援者に自分の考えが伝わらずに、望まない支援を受けざるを得ないことが生じています。	障害者の思いに応えたいが、何を要求しているのかわからない、ということはあることです。 <u>視線でコミュニケーションがとれる機材</u> で安価なものも出ているようなので、 <u>希望する施設（できれば家庭）に購入資金を補助する</u> ことはできないものだろうか、と思う。
12	高齢・障害	・意思決定については、まだ浸透していないと思う。・独居や高齢者世帯が増えてきており、今後の生活や死後のことについての不安感が漠然とある。・高齢者でない、問題を抱える方が狭間に落ちてしまう。	・ <u>終活に向けた相談の窓口の設置、江東区独自に死後事務処理などの契約を行える制度を作る。</u> ・ <u>意思決定に関する区民に対する啓発</u> の他に、 <u>関係者（福祉職等）への勉強会などの開催</u> ・ <u>世代や障害等関係なく相談できる、ワンストップ窓口の設置</u>
13	高齢・障害	急速な高齢化の影響で今後、認知症の患者数増加や 1 人暮らし世帯数の増加が考えられる為、施策の充実化を図る必要性が高いと感じる。	<u>1人暮らし世帯に関する見守り支援の充実</u>
14	高齢・障害	①意思決定支援、生活困窮に対する取組不足	① <u>意思決定支援についての意見交換会</u> （多職種連携により交ぜてもよいと思うが、時間調整が課題）生活困窮に対して、保護課との意見交換、また <u>ぎりぎりでは生活保護にならない方への支援の検討</u>
15	高齢・障害	●●では総合相談の範疇で支援しています。 <u>居住支援、DV防止については区役所や社協で推進していただきたい</u> です。高齢者については協力はさせていただきます。	
16	高齢・障害	金銭管理の面で、あんしん江東での日常生活自立支援事業などの支援はあるが、江東区では生活保護の方は利用できないなど制限もあり、成年後見制度までは当たらない場合など支援が困難な場合がある。	<u>支援の対象から漏れる人が出ないような体制や資源作り、制度の拡充</u>

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
17	高齢・障害	居住支援のお手伝いをしている人から、高齢者、障害者の住むところを見つけることが困難とよく聞きます。 なかなか難しい問題だと感じます。	今後も高齢者が増えていくことも考え、 <u>高齢者や障害者が安心して暮らせるグループホームが増えると良い</u> と感じています
18	こども	(言葉にならない) 子どもの気持ちを代弁していく。	<u>見守り支援事業の強化、虐待防止の啓発、職員による KOT0 ハッピー子育てトレーニングの実施。</u>
19	こども	-	<u>エリアごとに対応できるだけの拠点の配置</u> 、子どもの安全で安心な社会の実現。
20	こども	あまり現状が分かりません。	特にありません。
21	こども	住民同士のあいさつが少ない <u>相談しやすさの広報</u>	地域住民の交流、人脈作りのする人作り 最近マンション住民が多く、交流が少ない 人と人をつなぐ人材作り ノウハウの伝達
22	こども	相談窓口の拡充	<u>専門の窓口を身近に行ける場所に作り、専門家に繋ぐ</u>
23	こども	-	アドボケイトの原点は常に接している大人が信頼できるか否かだと思う。その為に <u>も学校や園の先生が子供と真摯に向き合い、その意見や思いを受け止めて欲しい。研修の充実</u> を望む。
24	医療	情報を簡便に集約できる仕組みがない。	<u>診療所などから情報を収集できる仕組み</u> を作る。 <u>各種業界の交流の場</u> を作る。
25	就労	虐待・DV 防止では子どもが産まれる前から生まれた後も気軽に相談できる場所や相談できる人がおらず、虐待に繋がっているケースが多い。障害を抱えた子どもだと育てにくさもあり、虐待にも繋がってしまう。また親自身が障害を抱えた中での子育てのしにくさもあるのではないか。DV に関しては安心して相談できる場所や人、情報不足があるように感じる。	子育て相談に限らず何でも気軽に相談できる人がいるかいないかが重要で、そこからいかに専門分野に繋いでいくかにかかってくるので、 <u>ワンストップ型の相談窓口</u> を区役所に置き、とりあえずみんな困ったらここで相談しながら、 <u>必要に応じて他の機関に繋いで、繋ぎながらも確認してくれるような場所が必要</u> だと感じている。
26	その他	他人にとって余計なことは、しないという雰囲気を感じる。	5問の②と同じ
27	その他	【障害・高齢者を含む社会的困窮者関連】 課題：性別や性指向・パートナーシップの在り方を尊重できない相談窓口の対応に傷つき、社会的に困窮しても支援自体を拒否し孤立してしまう方たちがいる。ま	【障害・高齢者を含む社会的困窮者関連】 ・医療・福祉施設、学習施設等を含めたすべての <u>区の公的機関において働く職員を対象とした、ジェンダー・セクシュアリティ関連の研修</u> (特定の施設のみに関

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
		た、トランスジェンダー当事者に対して、施設等の入居拒否がたびたび起きている。 【地域福祉（区民サービス）関連】 課題：自治体における性的マイノリティや SOGIE に関する施策は事業単位で進められやすく、当事者や関係者の意見をもとにした総合的な計画になっていない。相談窓口や体制が十分でない。区民によつての認知度に差があり、区内で暮らす当事者に対する抑圧につながっている。男女に限定された性別欄や異性間の婚姻を前提とされることで、区民としての権利を行使できない現状がある（いないことにされてしまっている）。	連することではないので、すべての公的機関において平等なサービス提供のために実施すべき） ・ <u>保健所での「精神保健相談」で当事者を積極的に受け入れる体制づくり</u> ・ <u>性的マイノリティであることを理由とした入所拒否の禁止</u>（自認する性別を尊重した合理的配慮を検討する等のプロセスを必ず挟むこと。福祉施設に限らず、被災時の避難所や外来入院治療時の対応、住宅セーフティネット事業の居住支援を含む） ・ <u>区内の民間不動産関連企業および不動産所有者への啓発</u>（住宅関連の委員会を行政が持っている場合は、情報発信してもらう） 【地域福祉（区民サービス）関連】 ・ <u>当事者向けの相談専門窓口の設置</u>（対面式に限らず電話相談事業も検討） ・ <u>区ホームページに、性的マイノリティの抱える課題や区の取り組みについて掲載</u> ・ 区民一般向け講演会、啓発資料の充実 ・ <u>自治体と当事者や関係者が集まる定例会の設立</u>（社会福祉協議会等の地域福祉推進団体への協力依頼。多様な意見を集めることで、計画策定に反映する仕組みを目指す） ・ <u>公営住宅への同性パートナーの入居許可</u>（パートナーシップ制度を導入したほとんどの自治体ではすでに認められている） ・ <u>親密な関係にあるすべての人のためのパートナーシップ制度</u> ・ <u>区立医療施設において、同性パートナーの立ち会い、診療方針の説明・同意に際して親族と同様の取り扱い</u> ・ <u>区独自の（＝国や都と関係のない）応募・提出書類における性別欄の撤廃</u>（身近な場面での性別二元論を減らすため） ・ <u>ジェンダーやセクシュアリティに関する悩みを持つ人たちを対象とした、交流機会の提供</u>（民間団体のみならず、公的な団体でも交流機会を提供してこそ、社会的孤立を防げるはず。実施に際しては、プライバシー保護に留意し、すでに同様の取り組みをしている民間団体に協力を仰ぐことが望ましい）

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
28	その他	-	地域で小グループでもいいから、 <u>研修の場を作り育てる、困っている方々の具体的な話を聞く。</u>

ウ 災害時の福祉を向上させる（防災教育、災害時要配慮者の支援）

<全意見（原文）>

※太字で主な提案を表示

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
1	地域活動	防災教育に対しては義務教育のカリキュラムに組み入れているとは思いますが、地球規模の温暖化により災害が大きくなっています。江東区は昔から災害に苦しんで来ました。学校での指導充実を望みます。	各町会、自治会でも防災訓練は活発に行われています。 <u>地域の学校での避難所開放訓練はもっと迅速にすべきです。</u>
2	地域活動	何年か前に荒川の水位が上がり砂町地区で避難指示が出た。その時障害のある人はどこに行けばよいか（学校の階段とか上がれない）と、問い合わせが仲間の委員から来た。とっさに答えられなかった。	起こってみなければ、想定していなかった問題点が分らない。あらゆる角度から検討し、より一層万全となる計画を作成しておくべきだ。先で云えば「 <u>どういう障害の方はどの場所へ</u> 」といった一覧表及び個別案内などを配布しておくべきだと思います。今はもう既にそうになっているのかな？
3	地域活動	<u>備蓄の大切さを PR</u> して欲しい。	-
4	地域活動	高齢者、障害者の避難者リストによる調査に協力している。活動を担う人材不足を感じる。応援。	<u>中学校等の防災訓練時、各地域の高齢者の避難者支援者に対する応援（車イス取扱い）等を入れて欲しい。</u>
5	地域活動	江東区では 3 年ごとに高齢者の一人暮らしの方の民生委員による訪問調査をしている。	この調査による情報を民生委員と長寿サポートセンターで共有して支援している。避難行動要支援者名簿の活用。
6	地域活動	町会・自治会の災害時要支援者名簿がダブっている。民・児委員は町会長推薦の委員なので他の調査は必要なのか少々疑問。	<u>一人暮らし訪問調査</u> の必要性が課題であると思う。 <u>訪問は必要な時のみにした方が良い</u> と考える。調査は郵送のみで OK。
7	地域活動	<u>防災教育、災害時要配慮者の支援等については一般的には浸透していない。</u>	防災訓練の実施（この中で災害に準じた知識を身に付ける）。
8	地域活動	-	平日、高齢者が多く、若い人達は地元にはいない。 <u>中学、高校生（防災教育をして）からの支援（若い力が必要）。</u>

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実に向けた提案・アイデア
9	地域活動	地域が災害に襲われたとき、福祉を担う人も、被害者も地域にとっては、共に被害者なはずです。決して無理をしないで、「共に！生きる。助け合う、自分の出来ることを行う！」そこに福祉の向上があると思うのです。そこから毎日毎時、循環があれば、共に自分のことのように、他者と助け合うことができるのではないのでしょうか。	先ずは、他者の困苦さ、弱さ、痛み、困窮、悲しみ、弱さ、思い、など創造の力を活発にさせることでしょうか。
10	地域活動	<u>避難所などでは放送などの音声による情報提供ばかりでなく、文字情報など視覚的な情報提供も行う。</u>	要援護者が安心して避難できる <u>福祉避難所の設置を検討</u> する。
11	地域活動	区の施策・取り組みが区民に見えない。	<u>特に水害時の対策立案が必要。</u>
12	地域活動	具体的には良く解りませんが、先ずは災害時の福祉の前に必ず起きる <u>災害を自分事として思えるような意識改革</u> が必要と思います	東北地震や能登地震の被災を参考にして取り組むと思いますが、先ずは地域の一人ひとりの繋がりが出来ていなくては解決出来ないと考えます
13	高齢・障害	災害が起こるたびに、報道されている避難所での「行き場のない障害者」問題。多くの人が集まる避難所で、大きな声を出す、パニックになる、不適切な言動をするなどのご家族は、避難できない、もしくは、車の中で過ごす現状が、報道を通じて見られます。	<u>避難所に障害者支援者を配置</u> し、家族だけの負担にならないようにする。集団でも大丈夫な障害者もいるが、 <u>どうしても騒いしてしまう人には個室対応（簡易個室も含む）の場所を設ける</u> 、学校の体育館でしたら、教室を使うとか、場所を移動して、都営住宅の上層階などを利用する。
14	高齢・障害	災害発生時における各関係機関の具体的な役割の明確化をしていく必要があると感じる。	
15	高齢・障害	①高齢者や障害者施設が福祉避難所をすることになるがそこに勤めている人だけで災害時には支援を担いきれない。	①人材の確保 <u>災害時の福祉避難所を手伝う人員を用意</u> する。
16	高齢・障害	災害時要配慮者の支援については人員と場所が必要。 <u>災害時の移動支援に協力できる個人、団体、ボランティア等、協力者の育成、登録をし、長寿サポートセンターへの情報提供をしてほしい</u> です。 避難所で過ごせない高齢者、障がい者が大勢自宅にとどまざるを得ないのではと心配です。	<u>社協が主体になり、事業者、町会、住民ボランティアなどと合同の防災ミーティングを町会単位で開催</u> するのはいかがでしょうか。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
17	高齢・障害	透析患者の災害時の行動が確立していないため、患者は不安を感じている。クリニックによっては防災訓練を全く行っていない。 <u>透析中に災害時にどのように逃げればよいのかをクリニックはきちんと患者に指導することが必要</u> だと感じます	<u>大きな災害時にどのように行動して透析をしてもらえるようになるかの指針が欲しい</u> 。例えばの例で良いので患者は皆知りたいと思っています
18	こども	避難訓練は誰でもが参加できるように行っている。	子どもを運ぶ抱っこひも、バギーはあるが、 <u>大人を運ぶことも想定し車イスの配置</u> を検討する。 <u>離乳食やミルク、オムツの備品を多く用意</u> する。
19	こども	-	<u>物資配給の充実</u> を図る（寝具や衣類、水、災害用ミルクなど）。 <u>水→1ℓではなく、500 mlのペットボトル</u> 。
20	こども	災害時の福祉について、学校避難所対策委員会等に参加した際には福祉について話し合われたことはあまりないような気がします。	<u>避難所のバリアフリーについて話し合いが必要</u> なのかもしれません。
21	こども	防災への意識が少ない 特に最近転入してきた人は地域事情知らない	<u>地域の歴史や地域の仕組みを分かりやすく説明。広報する仕組み</u> ①子供から親に伝える 学校で子供に興味を持たせ、親に伝えるが効果的 ②地域の歴史や状況を知らせる仕掛け
22	こども	<u>体験学習を出来るようにイベント、ソナエリアと連携</u>	<u>ビデオから VR で体験</u>
23	こども	-	<u>要配慮者が自発的に支援を要請できるようなアイテムを開発</u> する。例えば「黄色ハンカチ」を配布し、入口に掲げる。
24	医療	発災直後の避難訓練はあるが、避難所内生活のシミュレーション、対策が周知されていない。	<u>避難所生活についての情報提供 医療体制の構築</u>
25	就労	避難訓練が主立っており、各施設で行なわれている。防災備蓄品も各施設で設置されており、期限切れ前に配布したりとすることで防災意識の向上にも努められている。 災害時要配慮者への支援に関しては障害者施設や高齢者施設では（深川消防署協力）行なわれているが、他の既存の施設でそこまで配慮して行なわれているだろうか。	防災教育で江東区は海や川に囲まれており、水害が一番に考えられるので、 <u>スマホアプリなどで位置情報を確認でき、避難経路や避難指示などが自動で出てくるものなどを搭載してもらい、安心してできる仕組み</u> にしてはどうだろうか。 災害時要配慮者に関してはその施設にいる際にすぐにわかる仕組みで各施設の中の位置情報などで <u>どこに要配慮者がいるかがわかる仕組み</u> があれば災害時に要配慮者から避難してもらいなど対応がしやすいのではないだろうか。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
26	居住	老若男女、日本人外国人問わず、懸案事項であるため、相互理解のよい契機となる	地区ごとに想定される被災状況を想定した上で、 <u>区や消防からの出前講座を団地集会所で開催</u> して頂けないでしょうか
27	その他	防災訓練を開催しても、地域住民の参加は、少ない。	とにかく <u>日常の挨拶などつながりを深める。</u>
28	その他	能登震災での知見を現地の医師から伺う機会がありました。詐欺被害で警察が対応に追われ、 <u>女性や子どもへの性暴力やセクシュアルハラスメントには十分に対応を割けなかった</u> と聞いています。 また <u>男女のみの分類で災害対応をするとトランスジェンダーやノンバイナリーの人たちが避難所に行けなくなってしまう</u> ことがあります。そのようなことがないように事前に意識を高めることが必要と思います。 <u>要配慮者用の避難所が震源地近くで行けず、一般向けの避難所に行くのは抵抗を持ったという重度障害当事者もいた</u> そうです。	日頃から性的少数者、重度身体障害者、性暴力被害経験者にとって心理的安全の担保された場やコミュニティを作る努力をすること。ゾーニングしすぎることで孤立してしまう状況があり、日頃から顔の見える関係を持つこと。
29	その他	-	<u>災害時、想定した訓練</u> を多く行なう。

エ 誰もが社会参加できる仕組みをつくる（就労・社会参加の支援、子育て・介護等と生活の両立支援）

<全意見（原文）>

※太字で主な提案を表示

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
1	地域活動	いまだに <u>点字ブロックの上に自転車、店舗の荷物などが置かれていま</u> <u>す</u> 。歩道の段差など障害のある方は大変です。	<u>障害のある方のワークショップ</u> など区でも実践されていると思いますが、 <u>どの程度反映されているのか</u> とさせていただきます。
2	地域活動	最近民生委員の地区の会で子育てに関する施策について勉強会をした。今まで知らなかった <u>サービスや相談窓口が沢山記載されている冊子（区発行）</u> をテキストに使った。色々用意されているのだなと心強く思いました。	この <u>冊子の存在や他の分野における案内書などあれば、知らしめるべく広報に力を入れるべきだ</u> と思います。
3	地域活動	現在では夫婦共に仕事をしている方が多いので、子育て支援の保育園・幼稚園を活用する。	<u>保育園・幼稚園を増やす。幼稚園での園児以外の一時預かりの充実。</u>
4	地域活動	それぞれの団体において人と人とのつながりの重要性を尊重しているように思われます。	<u>地域でともに支え合い助け合う活動。</u>

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実に向けた提案・アイデア
5	地域活動	お祭りの担ぎ手に、肩の弱い人も、強い人も、助女性も男性も、お年寄りから若者まで、ワッショイ！と。どうして好きなのでしょう？誰もができる範囲で喜んでいる。餅つきもペッタンペッタン！どうして好きなのでしょう？不思議ですね？	<u>社会参加できる仕組みの項目を先ずは作り上げて</u> 、一人一人の個性の違いに対し、平等、自由があれば、個人が尊重され、動き出すのではないのでしょうか。
6	地域活動	<u>聞こえない方が安心して通える高齢者のデイサービスや老人ホームなどが足りない。</u>	<u>事業者への啓発や、起業や運営に際しての様々な支援</u> を行う。
7	地域活動	区の施策・取り組みが区民に見えない。	-
8	地域活動	これも詳しいことが解りませんが、一人ひとりが全ての人を尊重できたら全て解決出来るのですが・・・	困っている人がいたら、自然に自分の出来ることをお手伝いする このような考えが自然に出来る繋がりが欲しいと思います 具体的提案が出来ず申し訳ありません
9	高齢・障害	障害者の就労支援や施設利用など、学校や作業所職員や相談支援員が担っていますが、学校は卒業後3年たつと連絡が無くなってしまふ。相談支援員は人材不足。障害者が就労先や作業所のミスマッチが起こっても対応できず、障害者が我慢している状態も見受けられます。	<u>特別支援学校は就労至上の考えから、利用者が地域で落ち着いて生活できることに目を向けて支援する</u> 方が良いのではないか。卒後は就労支援員、相談支援員へのサポートを基幹相談支援センターを中心に考えていく。
10	高齢・障害	高齢者同士も近隣住民との関係性が希薄化しており、 <u>住民同士での交流(社会参加)を好まない高齢者も多い</u> ように感じている。	
11	高齢・障害	①手助けしたい人がいる反面ボランティアセンターに登録したりするまでには至らない方もいる。	①こんなことを手伝いたい。という掲示板のようなサイト運営。ボランティアセンターのサイト版のようなもの。・ジモティの江東区版
12	高齢・障害	<u>ハローワークのような相談、紹介機能が社協のサテライトごとにあればよい</u> と思います。 介護、医療、障害、保育等の人手不足と言われる分野で、短時間で働きたいという潜在ニーズはあると思います。 <u>求職者と事業者とマッチングさせる機能が必要</u> と思います。	同上（※編者注 左記と同じ）
13	高齢・障害	様々な複合的な課題を抱えている家庭も増えているが、協働して支援する環境が整っていない。	<u>複合的な課題を抱えている中で各制度で垣根なく繋がりのある支援体制の構築、サービスの拡充</u>

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実に向けた提案・アイデア
14	高齢・障害	どのようなサービスがあるかわかっていない人が多いようである。介護の負担が大きいと感じる人が多いため、利用できるサービスの紹介が少ないと感じます。（サービスを知らないため、自分でどのようなサービスがあるのか、知ろうとしない人も多い現状があります）	特に今後は介護の問題が多くなってきそうで、 <u>介護サービスにかかる費用が利用者にとって、あまり負担にならないようなサービスとそのサービスの利用方法を広く伝えるしくみ</u> があればと感じます。
15	こども	ボランティア、ひととき保育支援士など地域のボランティアさんが協力してくれています（老若男女）。	<u>誰もがボランティア活動ができるよう</u> 案内していく、 <u>周知</u> （チラシ、講演など）。 <u>有償</u> も考えていく（現在一部有償）。
16	こども	-	多様な働き方が認められる。
17	こども	特にありません。	特にありません。
18	こども	<u>参加したい時の窓口が分かりにくい</u> 簡単に相談できるように ①区民センター ②SNS 活用 <u>子供の預かり所の充実</u> を	相談機会の充実 高齢のシニアに活用 子供の預かる所の充実 幼児、子供、居場所確保 小学生、中学生 保育園、学童キッズ 若者と高齢者（シニア）の併用、補完し合う 現状若者はいない、シニアを使い活性化し元気づける
19	こども	まだ、途上では？	<u>もっとメディアを使い、体験談などの番組をつくる</u>
20	こども	-	保育園と幼稚園それぞれの強みを発揮できるようにして欲しい。現時点での <u>学童保育（小1のかべ）の保留児対策が急務</u> である。
21	医療	歯科業界は女性が多く働く業界だが、人手不足が深刻である。	<u>区内の働きたい人が無理なく働けるようにマッチングができる仕組み</u> があるとよい。
22	就労	こうとう若者・女性仕事センターやハローワーク、障害者支援課、障害者就労支援センター、障害者就労継続支援事業所、こうとうゆーすてっぷなどでも支援している。子育て・介護等と生活の両立支援のところでは子育て支援では保育園やこども家庭支援センター、一時保育、介護保険事業（ヘルパーやデイサービスなど）を活用している。子育てと仕事の両立の部分では家事など含め、家庭に帰ってきてからが大変であり、民間の家事代行サービスなどを活用すると自費負担となっている。職場での配慮がどこまであるかも大きくかかってくる。	民間含め多様な支援先があることで選べるし、支援者や利用者も人なので合う、合わないがあり、我慢してそこを利用しなくても済み、次への一歩が踏み出せるきっかけになる。 <u>（江戸川区駄菓子屋居場所「よりみち屋」のような15分から就労可能）中間的就労機関がある</u> <u>とハードルが下がる</u> のではないだろうか。気軽に活用できる <u>民間の家事代行サービスの補助券</u> などがあるとお金に余裕がなくても活用でき、それ以外のことで時間に余裕が生まれ虐待などにも繋がらなくなるのではないだろうか。時間と気持ちの余裕が必要。 <u>職場での配慮に関しては周知活動や企業に対して育児中や介護中の就労者へ配</u>

IV 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
			慮しているところには補助金を出す などして配慮しやすい環境づくりをしていってほしい。そういう配慮がないことで職場の定着にも繋がらず失業などにも繋がってしまう。
23	居住	-	福祉というと高齢者や障害者、困窮者のイメージがあるが、 他部署との連携により若い人も来やすくなるのでは？ 例) 防災×福祉、環境×福祉など
24	その他	【就労関連】 課題：性的少数者当事者であることで職業選択の機会が限定されやすい。また、アウティングの不安など、安全に働き続けるための環境が十分でなく、精神的に追い詰められ退職を余儀なくされることがある。誰もが自分を偽ることなく自己実現できる社会を目指したい。	【就労関連】 ・ 職場でのジェンダーやセクシュアリティに関するハラスメント行為に対応できる相談窓口の設置 (すでにある労働相談に加えて設置されたい) ・ 性的マイノリティにも働きやすい制度を有する地元企業への支援、またその区民への紹介 (性的マイノリティも安心して働ける空間を増やしていくため)

11の

問6 「地域福祉の基盤をつくる活動について」

区の実組ア～ウに関する現状への意見と、取組の充実にに向けた提案・アイデアをぜひお聴かせください。

ア 情報の適切な活用を図る（情報発信、支援関係者間の情報共有、デジタル活用策）

<全意見（原文）>

※太字で主な提案を表示

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
1	地域活動	情報の発信は重要です。しかしどの様にすれば区民に情報が行き渡るのかは悩ましい事です。区報が無料配布される様に、 江東ワイドスクエアも全家庭で視聴 出来れば理想的です。	世の中の デジタル化は加速され、対応出来ない方が取り残される心配 があります。 役所内それぞれ課の連携を強化 し窓口をたらい回しの無い事を目指して頂きたいです。
2	地域活動	区報が横書きになった。縦書き新聞になじんでいる私には読みづらい。情報共有について、以前学校から不登校生徒の見守りを依頼され、洗濯物や電気がついているかなどを協力した。学校に報告したが、その後その生徒について何の連絡も入らなかった。	個人情報保護法は大切な事であるが、できる範囲で可能なかぎり、情報を共有してほしい と思います。デジタルを利用できない人も沢山いるという現状です。 情報取得の格差が出ないように 、ご努力をお願いします。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実に向けた提案・アイデア
3	地域活動	高齢者への情報発信は電話が一番ですので、時間はかなりかかります。	-
4	地域活動	マンションが増えることなどにより地域のつながりが弱くなっている。	<u>情報を管理組合等に伝達。人の集まる場所で情報提供。</u>
5	地域活動	民生員、長寿サポートセンター。	<u>デジタル活用策はムリがある。</u>
6	地域活動	-	<u>民生・児童委員も高齢になっているため、何でもデジタル活用は負担が大きい。</u>
7	地域活動	本当に支援が必要な人への情報が届いているのかどうか？行政からの個人情報の連携が受けられないので分からないのでは？	<u>問題を解決するにはどのように支援していくか、関係者間の情報共有が大切</u> であると考えます。
8	地域活動	町会、自治会との情報、協力等頂けるので活動しやすい。民生委員のOBの方の協力があり、助かってます。	-
9	地域活動	情報の適切な活用を図る（情報発信、支援 関係者間の情報共有、デジタル活用策）民生委員として、余程のことがない限り、福祉を受ける人に、詳しく内容を聞く状況はあまりありません。ただし人によります。つい最近も患って、ゲソゲソに痩せて、杖をつき尋ねてきた町会の男性の知人が居ました。病気になる前も、なった後も話してくれましたが、ようするに他人に語れる人が居れば、情報をアドバイスも出来るし、見守ることも出来るのです。そんな関係を築き上げる人が大勢いれば安心なのですがね？ ネットワーク化というのでしょうか、家庭に於いて、福祉に頼った人の命は、家族だけのものなのでしょうか？地域にとっても同様なことがいえます。個人情報とも絡むのですが、情報を管理する機関があれば、個人の家族とも連携することが出来るシステムもあって良いとおもうのです。ただ契約が必要なのでしょうか。	
10	地域活動	区民に手話が言語であることを広めたい。	<u>各種イベントに啓発する機会を設ける。</u> 9月23日の手話言語の国際デーにブルーライトアップなどの取り組みを広げていく。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
11	地域活動	区の施策・取り組みが見えない。	<u>区民への広報、周知の在り方を検討</u> する。
12	地域活動	以前に比べると最近の情報は発信されるようになったと感じます	特に有りません
13	高齢・障害	相談支援では、利用者の状況で困っている家庭に対して、まず必要ことは、 <u>ご家族の休息時間を作ることが有効</u> だと思っています。しかし、ヘルパーを探すことは困難です。区から社会資源の情報が流れてきますが、GH や入所施設が多く、ヘルパー情報が少ないです。それだけ <u>ヘルパー不足が深刻な状況</u> です。	区からヘルパー事業所に定期的に（月に1回、2か月に1回など）アンケートを取り、 <u>ヘルパーの入れる状況確認をして、相談支援事業所に情報提供をしていただきたい</u> です。その際、「知的障害者に実績がある」「精神障害を受けている」などの情報もいただきたい。
14	高齢・障害	<u>個人情報</u> の壁があるため、なかなか活用がしづらい	
15	高齢・障害	多職種連携における積極的なICT活用が必要であると感じる。	<u>MCSの積極的活用</u> (活用実績が少ない現状がある)
16	高齢・障害	特になし	特になし
17	高齢・障害	必要な情報が必要な方に届かない場合もある。 <u>適切な情報を受け取る手段がない・知らない高齢者もいる。</u>	啓発活動の推進、 <u>高齢者の利用頻度の多い馴染みのある媒体（回覧板や町会の掲示板など）の更なる有効活用</u> 。デジタルの媒体の利用方法等の講習や操作の支援資源
18	高齢・障害	スマホで有効な情報を知ってほしくとも、うまく操作できない人が多い。	高齢者は最初からスマホを持たない人も多いため、どうしてもデジタル活用ができない。区報を通しての情報の受け取りを充実させ、どこに電話をしたら、またはどこに行ったらそのサービスが利用できるか（相談ができるか） <u>週ごとに児童、高齢者、障害者などのコーナーを紙面に設けて、利用したいサービスを探せるような取り組みをするのも良い</u> と感じます。（例えば歩行の補助に困っていたAさんの場合・・・などケーススタディが分かりやすいかもしれません）
19	こども	システム運用。HP上の発信。2次元コードQRの活用。	<u>HPを見やすくしていく。デジタルアンケートも活用</u> していいと考えている。
20	こども	紙ベースでは全ての人に周知することは難しい。	<u>人が集まる主要な駅などに様々な情報を発信する</u> （パブリックビューイング、大画面プロジェクタースクリーンなど）。
21	こども	必要な情報を必要な人に伝えることをもっとやったほうが良い。	デジタル化に進んでいるが、 <u>高齢者にはデジタルだけではなくアナログ（紙）での情報伝達も必要</u> だと思う。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
22	こども	アナログとデジタルの併用が必要 特にデジタル活用者が少ない	デジタル研修の充実 私にもできるデジタル活用を googleform など30分教われればできるので、研修を（ただしわかるやすく、簡易に教えて欲しい デジタルゆっくに覚えていくのでゆっくり広めてほしい 併せてアナログも活用 簡単デジタル研修が必要
23	こども	検索しても、あまり良いサイトに当たらない	検索の拡充
24	医療	さらにデジタル化が進むと便利だと思う	江東区で 各職種、区民が情報共有や交流ができるポータルサイトを構築 してほしい。
25	就労	区報、ホームページ、X、Facebook、LINE、YouTube、月のお便り、町会掲示板 で情報発信をしている。 支援関係者間では個人情報に留意しながら情報共有をしている。	委託事業では SNS 配信ができず広報が弱いので 積極的な SNS 配信 を推進してもらいたい。 江東区内の不登校・ひきこもりに関する情報のポータルサイトがない ので（フォーマル並びにインフォーマルな情報の一元化並びに情報のアクセシビリティ）を整備してもらいたい。
26	居住	外国人が多くなっているため、 多言語表記が必要	・ 地域で相互 PR できる仕組み があるといい ・ チラシなど、多言語へ翻訳サービスがある といいです
27	その他	-	地域と行政との情報がより密になる事が必要。 定例の会合の開催 も有効に思われます。
28	その他	だいぶ情報共有の必要性は浸透しているが、 開催を計画する相談事業所の業務が煩雑 。	

イ 福祉の質を向上させる（福祉人材、サービスの質の向上、関係機関との連携によるアウトリーチ）

<全意見（原文）>

※太字で主な提案を表示

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
1	地域活動	福祉の質の向上はまず 区の職員が福祉について理解し対応する事 だと思います。区民のニーズに的確に応えるその事に尽きます。	施設現場で働く職員の待遇改善 も近々の課題です。
2	地域活動	福祉事業に携わる方の給与を上げていただきたい と思います。	デイサービスやグループホームの外部協議員をしているので、介護の現場を見る機会が多いが、皆さん良くやって下さっている。給与を上げてやりがいを高めて、人材確保に努力してほしい。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実に向けた提案・アイデア
3	地域活動	ボランティアの確保。	<u>人材・場所などの情報をつなぐコーディネーターの養成。講演会、福祉まつりなどのイベント開催。</u>
4	地域活動	長寿サポートセンターがどこまでやれるか考えているか？	-
5	地域活動	-	<u>リタイアをしている方々にボランティア参加を呼びかける。</u>
6	地域活動	社協の地域福祉コーディネーターの皆さんが情報をキャッチして関係機関との連携を計っている。	情報のキャッチに努め <u>地域福祉コーディネーターの皆さんと連携</u> して問題解決につなげる。
7	地域活動	<u>ボランティア養成講座の充実。</u>	質の向上。
8	地域活動		福祉も必要に迫られた人に届かなければ、制度はないといえます。そして、いくら立派な制度があっても、世話にはなりたくないという人もいるでしょう。向上と言え、昔と今では格段に福祉の向上が続いています。それは、常に足下を見て考えてきたからです。そして制度があっても、知らなかったと人も居れば、制度はないともいえます。制度も知られてきて、その欠点も見えてきたこともあるのでしょうか。すべての人が繋がれば良いのですが、なかなか、難しいことでもあります。町会でも、週に一回、ふれあいサロンを解説していますが、町会員全員ではありません。福祉を必要とする人は、多くは専門医院の世話になっています。福祉的な繋がりが遠ざかっても、 <u>専門医による、関係機関への通知制度</u> があれば、少なくとも、医院を通じて状況を知ることが出来るのではないのでしょうか？情報が多すぎて、探しきれなく、気づかない人も居ます。こうなると医院からの告知も必要でしょう。医療や福祉の進歩は早く、情報は発信しても気づかない人が大勢居るのでしょうか。医療的、福祉サービスを受けている方々は、他人と話すことも少なく閉じこもりがちです。 <u>どうやって相談できるか、やはり複合的なシステムが必要</u> なのではないのでしょうか？
9	地域活動	<u>手話通訳者の謝金の単価を引き上げる。</u>	手話通訳者団体とのヒアリングや意見交換を継続していく。
10	地域活動	区の施策・取り組みが見えない。	区民への広報、周知の在り方を検討する。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実に向けた提案・アイデア
11	地域活動	特に有りません	特にありません
12	高齢・障害	福祉職員の質が落ちていることを、身近でも感じます。コロナで社会の生活様式が変わり、対人能力が落ちていることを感じます。それに加え、虐待や不正受給など福祉施設の不幸事が増えて、それに伴い、規則や作成書類、設置委員会の増加、報酬改定での加算の種類の増加など、職員の事務量が膨大になっています。	順番が反対だと考えます。 施設運営の安定 があって、職員が利用者支援に集中できるのだと思います。国制度は多様な加算ではなく、 基本報酬を上げる こと。職員を増やして、事務量を減らすことで、各事業所が人材育成の体制が取れて（人材育成は研修を提供すればいいというものではなく、日ごろの支援のフォローバックが必要です。チューター制度など丁寧に行う必要がありますが、人材不足や日々の業務に追われていると、体制もとれません）、休暇も取れて、気持ちに余裕が出来ることにより、施設の支援力の向上につながると思います。
13	高齢・障害	人材定着率を向上する為の取り組み強化 が必要。	
14	高齢・障害	①認知症初期集中チームがあるが手続きがありあまり浸透していない。	① 認知症の受診拒否者へのアウトリーチを患者から直接病院へ依頼できる仕組み。
15	高齢・障害	●●としては、相談数が多い。（令和5年度年間総合相談数 4914 件、件数率 101.7%）区民から活用され、お役に立っていると感じています。	新砂としては、相談者の主訴、課題への適切な対応が大事と考え実践できているので、今後も継続。多機関との連携も含め丁寧に対応するが、連携の主となるには 連携に必要な情報共有に時間を要する ので、介護予防支援、介護予防支援事業を実施している事も含めると、現状以上の対応は難しいと感じている。社協との連携ではアウトリーチを共に行いたいと考えている。が、本人の意向が確認できない中で難しさを感じている。
16	高齢・障害	以前から行われていた区内で福祉の人材を増やす取り組みを続けて欲しいです。	学習を終了した方々が無理なく少しの時間からでも区内で働いてもらえるようしくみづくり ができれば良いと感じます。気軽に簡単な家事支援が週 1 回でも行える人に勉強していただくなど条件を付けるのもよいかもしれません。働く人にとっても最初の一步が踏み出せないように感じますので。
17	こども	様々な角度から学べるよう多角的な研修に参加している。	関係機関とは顔の見える関係づくり をしていく。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
18	こども	-	<u>子どもやその家族を取り巻く地域の関係機関のネットワークを今以上に整備</u> し、充実させる。
19	こども	良いと思います。	特にありません。
20	こども	本件については知見がありません	
21	こども	人材教育不足、低賃金	<u>やりがいと高収入になる仕組みづくり</u>
22	こども	-	ボランティアの質を向上させるため、 <u>リタイア世代を対象とした入門講座を開催</u> する。多様なスキルを持っている多くの方に参加してもらえるようにして欲しい。
23	医療	福祉を担う人材が不足している。	<u>セカンドキャリアも含め、福祉人材を育成する学びの場を作る。</u>
24	就労	福祉人材が枯渇している。担い手になりたいと思う若者も減っている。サービスの質の向上に関しては利用者の満足度でアンケートを取っており、現状を把握できる尺度となっている。関係機関との連携によるアウトリーチに関しては必要に応じて行なっているが、繋ぎも含め役割を果たしている。江東区では社会福祉協議会が主体の各地域で高齢者地域見守り支援事業、高齢者地域見守り連絡会を定期的に行っていて事例検討を行っているがどう役立っているか分からない。	<u>福祉の仕事に関する魅力を伝えられるような教育や情報発信が必要</u> となってくるのではないだろうか。やりがいを伝えたり、カッコいいと思ってもらえるような動画などを作って地道に配信していくことも必要かもしれない。個人情報に留意しながら。 <u>サービスの質の向上については</u> 他行政機関や民間企業なども参考にしながらよいものを取り入れていきながらよりよいサービス、求められるサービスについて探求、研究していく必要があり、 <u>同業者が集まる視察研修会などの開催</u> も必要となってくるのではないだろうか。関係機関との連携による <u>アウトリーチに関しては</u> なかなか難しい部分もあるが、主導を握る部署と連携しながらやっていく必要がある。 <u>うまくいった事例なども含め勉強会などの開催</u> なども必要かもしれない。
25	居住	<u>民生委員</u> という制度についてはよいと思うが、定員割れの状況には改正が必要	<u>無報酬から有報酬にする</u> など
26	生活困窮		<u>重層的支援体制整備事業の柔軟な運用</u>
27	その他	事業所単位で人材育成や資格取得をサポートするのは、人手不足・事務の煩雑化でかなりの負担。	<u>江東区が中心となって、資格取得の講習や研修開催、学習会企画をして欲しい。</u>

Ⅳ 団体アンケート調査結果

ウ 啓発活動を推進する（学ぶ機会の充実、多様性や共生社会に対する理解促進）

<全意見（原文）>

※太字で主な提案を表示

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実に向けた提案・アイデア
1	地域活動	全ての開発活動は地道ではありますが、繰り返し発信して行くしかありません。多様性を理解しているつもりでも男性だから、女性だからと思う人が多いのも現実です。	<u>人権感覚を幼い頃より培う教育</u> の大切さを感じます。
2	地域活動	以前社協の福祉計画の作成委員をしたことがある。その折 <u>福祉マインドの醸成</u> という項目があった。 <u>小中学校で福祉に関する講座</u> をするという内容が含まれていた。諸事情で全ての学校で実施されているわけではなかった。残念だと思いました。	過去の集まりが現在である。であれば今行なっている事が未来の種となる。未来に繋がる <u>子供達に毎年、是非、全学校で福祉に関するお話や体験授業をしていただきたい</u> と願ってやみません。
3	地域活動	福祉教育	<u>学校教育にて学ぶ。地域の活動などで学ぶ。</u>
4	地域活動	各町会、老人会に意見を聞く。	-
5	地域活動	-	多様性や共生社会のために <u>性教育、誰もが平等である人権教育を充実できるよう研修</u> を行う。
6	地域活動	障害者、当事者の近いを深める為には、まだまだ学ぶ機会が不足している。様々な制度はあるが知らない人が多い。	<u>学ぶ機会を増やし</u> 、様々な障害の理解を深める。
7	地域活動	町会には、町会員のラインがあります。役員や各部もラインで交信しています。フェイスブックでは、お知らせとして、町や区の様々な情報を発信しています。ホームページもありますが、更新できずに、忘れられています。反省することは、ホームページへの更新できる人を探せないことです。それらのツールがあっても、多分見ない人の方が多く、高齢者ではなおさらです。昔の高齢者は、活発に隣同士、町会を細かく分けた班制度での繋がりがあったのですが、今はなかなか繋がりが少なく、お節介の下町の文化も様変わりしています。身体を使って街のために住民のために、動いて、尽くす、そんな気持ちがなくなって、個人主義のお年寄りも増えているような気がします。ただし	先ずは、根気よく活動すること。そして <u>新しいモバイルツールやパソコンなどを活用して情報発信作業を繰り返し、参加を募る</u> 、待つことでしょうか。新しく活動の範囲を、形を変えながら広げることも必要でしょう。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
		高齢者でも、スマホやタブレットに PC を使う方は、多いと察しています。やはり、このネットワークは欠かせないでしょう。	
8	地域活動	地域での交流はイベントなどが中心となっているので、もっと日常的なつながりが必要と思われる。	手話サークルの定例会を充実させながら見学に来られる方たちに魅力を伝えていく工夫をする。SNS を活用し、より多くの人たちに情報発信していく。
9	地域活動	区の施策・取り組みが見えない。	区民への広報、周知の在り方を検討する。
10	地域活動	特に有りません	特にありません
11	高齢・障害	障害理解には、教育が重要になります。身体障害者による出張授業などは行われていますが、知的障害者とのかわりはないように思います。	<u>知的障害児との交流授業、その際の障害特性の知識、理解を推進していく</u> 。定期的に行うことで、パニックの様子も目に入ると思います。その際に、教員が対処方法を身をもって見せてあげることも重要。パニックでその子が何を伝えたかったのかを解説し、理解を求める。言葉だけがコミュニケーションでないことを学んでいただきたい。
12	高齢・障害	<u>①家の壁に江東区の施策などについてのポスターを掲示する</u> ことで地域に目が届きやすくなる。	①家の壁にポスターを貼っても構わないという家を募集し、年間契約でポスターを貼ってもらう。
13	高齢・障害	社協の企画でサテライト単位で是非お願いしたいです。	事前にご相談いただけたらできる範囲で協力させていただきます。
14	高齢・障害	講座等がある事実が伝わりにくい。私自身も初任者研修の講座など、城東図書館に置いてあったチラシで知りました。	今後も講座の拡充と PR を広く行っていただきたい。 <u>気軽に参加できる講座も特に土日を増やしていただければ</u> と思いました。無理であれば平日の 19 時からなどで。
15	こども	国や都から沢山の啓発ポスターやチラシが届く（多くて掲示できない）。送っておしまいではなく、何か良い案はないかと思案中。	思案中
16	こども	興味深い講座は多いが、参加しやすい場や日時の設定など。	-
17	こども	特にありません。	特にありません。
18	こども	<u>図書館の活用を広める</u>	図書館はこれからは人の交流をする場に変えていくべき 本だけから学ぶ時代ではない 講演を聞く（いろいろな話題解説） 人と交流して（会話から学ぶ） 御茶を飲める場所に（お茶を飲みながら会話）講師の育成 地域社会にはいろいろな知見を持った人がいる

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	①現状への意見	②取組の充実にに向けた提案・アイデア
			講話をきっかけに（聞くだけでなく意見交換できる場に） 従前の講演：聞く・聞く・聞く・帰る 今後の講演・聞く・質問感想・意見交換（しゃべる） 講師、ファシリテータの育成
19	こども	-	こどもを守るための性教育が必要である。 <u>こどもの権利に関する条例が制定される機会に、より一層啓発活動を推進して欲しい</u> 。学校、園で保護者（PTA など）に研修する機会を作って欲しい。
20	医療	さらにデジタル化が進むと便利だと思う	江東区で <u>各職種、区民が情報共有や交流ができるポータルサイトを構築してほしい。</u>
21	就労	学ぶ機会の充実では各種研修などの開催がされている。多様性や共生社会に対する理解促進に関しては情報発信やイベント開催などでの周知を行なっている。	先進的な取り組みをしているところへの <u>視察研修などの開催をして関係者との横の繋がりがづくり</u> も含めできると良好な関係構築に繋がるのではないだろうか。 <u>身近に感じられる動画などでも発信していくことや学校や職場などで実感できる学習資料</u> などがあるとより理解が深まるのではないだろうか。
22	居住	-	<u>外国人向けの講座、外国人と日本人の交流の講座</u> により、相互理解できる場づくり
23	生活困窮		<u>区民と区内福祉専門職が交流できる福祉カレッジ</u> のような相互間での学ぶ機会の提供。
24	その他	-	<u>研修の機会を増やす</u> 事は、大切に思います。

3 区の地域福祉に関する意見・提案

問7 最後に、ここまでの設問以外で、区の地域福祉に関する施策、体制、活動等に関する意見や提案がございましたら、ぜひお聴かせください。
(記述方法は自由)

<全意見(原文)>

※太字で主な提案を表示

No	調査区分	区の地域福祉に関する意見や提案
1	地域活動	江東区は教育と福祉には 23 区の中でも上位であると思います。区民の満足度は高いといえます。各町会、自治会の困り事について記載致します。亀戸は大きな土地が少なく狭い土地にワンルームマンションが凄いスピードで乱立しています。居住者も分からず、町会加入の連絡をしても任意の一言で終わりです。 ●●もワンルームマンションの数は相当あり、町会の中の空白の土地となっています。建設申請の時、行政指導を強化して頂きたいと願います。 又、民生児童委員、明るい選挙推進委員、国税調査など町会役員すら断られる今、委員選びは至難の業です。PTA が破綻している現在、その波が町会自治会に及ぼす事が無い様に祈るばかりです。
2	地域活動	江東区は福祉に力を入れていると思います(社協も含めて)。問5の項目にも書いたが、折角用意している 施策について知らない まま過ごしていることも多々あると思います。 広報情報発信の一層の充実 を図っていただきたいと思います。
3	地域活動	若者や子供に地域福祉活動に関して知ってもらうような取組み強化が必要。小・中学校での福祉の教育を増やす。地域活動を推進する人材育成。
4	地域活動	民生員で動いていて、 長寿サポートセンター に対して不満を聞いたことはありません。 一人暮らし調査で知っているかの質問には知らない人も結構いました。
5	地域活動	現状で満足しています。区の福祉関係の部署、特に福祉管理系の事務局の仕事ぶりには本当に日々感謝です。長い年月、民・児委員をしている私くしめですが、今迄何人おの担当の方々とお仕事させて頂きましたが、人事は本当に「まとも」です。
6	地域活動	広い世代にとって行動できるのは土、日だが関係機関の多くは休みで、中間支援組織としての活動の支援にはつながらない。 区と住民とのつながる活動について次世代につなげるにはどうしたら良いか難しい問題だと思います。
7	地域活動	区の動きは、高齢者地域包括ケアなど多くの部が、教育委員会、障害、福祉、景観、文化、児童、それぞれ問題を抱えて、来年度再来年度からの計画を作成しています。すべてを読むことは出来ませんが、この地域に於いては、例えば、富岡地区連合町会主催の盆踊りや深川っ子運動会にも、障害者や、高齢者に地域の子供達と共に参加しようと考えています。 また、スポーツセンターには、半年ごとの小学生スポーツ塾があります。同時に、障害を持った子供達へスポーツの講座を開くことを依頼しています。町に住む限り、することは違っても、みんな一緒にの深川っ子ですからね。老いも若きも、深川っ子ですから！深川が好きなのです！江東区を好きになってほしい！貴方を好きになってほしい！町を好きになってほしい！そうすれば変わります。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	区の地域福祉に関する意見や提案
8	地域活動	手話は言語であることの周知が足りていません。例えば 9 月 23 日の手話言語の国際デーなどの啓発イベントには区も積極的に関与し、区関連施設や区内の民間施設等へのブルーライトアップ投影を積極的に行って欲しいと思います。 <u>東京デフリンピック 2025</u> では、江東区内で 3 会場 3 競技が実施されることもあり、さらなる周知・啓発が必要と考えます。オリンピックの際に行ったように区役所内の情報コーナーでのパネル展示や各種イベントの開催など <u>積極的に機運を高めて欲しい</u> と思います。
9	地域活動	まちづくりの主体は地域住民。 <u>区民協働の取り組みを強化して欲しい。</u>
10	地域活動	最近のボランティアに携わる人の年齢が高齢化して多くの活動団体の継続が困難な感じとなっております。しかし、最近の若者は過去に比べるとボランティアが身近なものと考えている人が多いように思います。 <u>ボランティア入門のハードルを下げて、もう少し具体的にボランティア活動に触れ合えるきっかけを多く作って欲しい</u> と思います。それには、まず <u>多世代の色々な人が自由に集まれる場所を多く作ってもうえたら</u> と考えます
11	高齢・障害	<u>福祉の人材不足は改善されてきている</u> ように思います。（ヘルパーを除く）しかし、近年、重度障害者は入所施設に入ることを選択されるご家庭が増えています。良いことではありますが、江東区での地域で生活することが出来ないからである、ということだと思います。福祉職員の支援力があれば、と言うところですが、福祉現場の職員は疲弊しています。施設入所で利用者が減ると、事業所の収入も減ります。しかも、入所する方は区分が高い方が多いので、減収が大きいです。すると、職員が雇えない、少ない職員で事務量が増え、工賃アップも目指すので、作業も多くなる。職員が疲弊し、支援力が落ちる。悪循環です。地域に十分な支援力があれば、重度障害者も地域で生活できるのです。まずは、 <u>施設運営の安定を図るため、区分調査の適正化</u> を求めます。社会福祉協議会の調査では、特記事項が重要視されず、軒並み区分が落ちることが多くみられます。家庭では区分はさほど影響はありませんが、事業所にとっては死活問題です。適正な職員配置が出来て、初めて支援力が上がるのです。潤沢な運営があって、人材育成もできるのです。研修を提供すればいい、と言うものではありません。職員が十分に休暇がとれる体制で十分に教育も受けられる体制があるから、丁寧な利用者支援が出来て、虐待が無くなり、不正受給をする気も起きない事につながると思います。虐待も不正受給も絶対悪であり、否定するものですが、背景には上記のような理由も絡んでいるのではないのでしょうか？
12	高齢・障害	・高齢者の相談窓口だが家族の相談が増えている。（特に対象者の子供や孫世代等）また高齢者でない若年層の相談も増えている。それぞれの <u>療養相談、生活相談の窓口との連携が取りたい。またそれぞれの部署の情報が欲しい</u> と思う。
13	高齢・障害	区役所の体制が縦割りで、また個人情報保護責任がある中で、長寿サポートセンターは多機関連携支援を行っている。個別の支援については長寿サポートセンターの業務であると思うが、 <u>地域活動については長寿サポートセンター以外の団体が行い、できる範囲での協力にさせていただければ時間的にありがたい</u> と思います。

Ⅳ 団体アンケート調査結果

No	調査区分	区の地域福祉に関する意見や提案
14	高齢・障害	他区に比べ、介護保険サービス利用時の対応等が厳しいとの意見が居宅 CM からも多く聞かれる。基本方針にあるように、 <u>所管分野を超えた行政や、地域と行政の繋がりを強化し、必要な方に対し必要な支援が届くような体制で各機関連携し、柔軟に対応ができると良いと感じる。</u>
15	高齢・障害	きちんと調べると <u>区はさまざまなサービスをきちんとされていると思いますが、それが区民に届いていない</u> ように感じました。 <u>まだまだ情報弱者が多い</u> と感じることが多く、それでも区報はきちんと読んでいる方が多いので。区報の充実をこれからもお願いしたいです。新しい区報はおしゃれにはなりましたが、字体が弱く感じ、以前の方が読みやすかったように思います。まだ見慣れていないからなのだと思いますが、これからも区民のためになるような情報をたくさん載せていただきたく、よろしくお願いいたします。
16	こども	区の公共交通機関の拡充、特に南北（ベイエリアー亀戸方面）。 <u>特に砂町エリアから城東エリアの縦のラインにバスを増便する。</u>
17	こども	地域の人がこの問題を他人事としないように、 <u>みんなで少しでも関わりを持つ仕組みを作っていけたらいい</u> のではと思います。
18	こども	地域住民の交流を促しイベントや交流を仕掛ける人材育成　小さな交流を促す仕掛け　大人数での発言や行動が苦手な人が多いのでマイク交流をたくさん作る <u>地域にかかわる人を多く創出する</u> すべての基本は人です　《最後に、地域福祉に関与している人たちに感謝いたします！》
19	医療	地域福祉を充実させるためには、 <u>関係する各種団体がこれまで以上に協力していく</u> 必要がある。江東区歯科医師会としても率先して協力していきたいと考えています。
20	居住	江東区に所在する公社住宅には、どこの住宅にもコミュニティサロン（集会所）があります。●●の取組であったり入居者が1人でも利用する場合は無料で活用できます。 <u>〇〇地域で活動したいなど、コミュニティサロンを利用して、区取組やイベント等、入居者も含め近隣の方が参加できるようなイベント等がございましたら、ご検討、ご相談などお声がけいただければと存じます。</u> また、●●では、きっかけづくりを支援する専門スタッフとして「●●」を配置しています。各住宅の入居者へのつなぎなども協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。
21	その他	<u>地域住民一人一人が、積極的につながりを作っていく</u> ことが大切。
22	その他	1.十分な意見が述べられず申し訳ございません。江東区の職員各位におかれ、各々の立場で仕事に励んでおられると拝啓しますが、もっと現場の状況、区民の立場に立ち、改善すべきところは処善して頂けると有難いです。例えば、 <u>各地の出張所は行政の出先機関として、より地域との関係をはかっていくようにする。</u> （予算、人材等問題は山積みですが）。2. <u>経験豊富で問題意識がある方々の貴重な意見をくみ生かせる組織が有るといい</u> と思います。3. <u>当事者特に福祉を受けられている方々の意見を聞き、</u> 把握して、実際に生かして行って欲しく思います。4. <u>区内の大学生の協力を得て、若者の意見を聞いては、</u> これにより大学生達の社会福祉に関する意識も深まると思います。

調査票

区民アンケート調査票

調査票

つながりあい、支えあうまちを目指して

地域福祉に関する区民アンケート

ご協力をお願い

日ごろから区政へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
江東区では現在、「江東区地域福祉計画（計画期間：令和4年度～令和7年度）」に基づき、『一人ひとりの尊厳が守られ、地域でともに支えあい、誰もが笑顔で安全に暮らせるまち』の実現に向けて、区民の皆様や地域活動団体、関係団体等と連携して取り組んでいます。近年の社会経済状況や法律の制定・改正を踏まえて、令和7年度に計画を改定します。

本調査は、計画改定にあたり、皆様の暮らしの状況や地域活動に対する意見等をお伺いするもので、18歳以上の区民の方から無作為に3,000人の方を選び、調査票を送付しています。

調査は無記名で行い、皆様からの回答は統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。また、調査の目的以外に使用することはありません。秘密の保持には万全を期して対応しますので、ご迷惑をお掛けすることはありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

令和6年9月

江東区長 大久保朋果

【回答にあたってのお願い】

- 回答は、あて名のご本人がお答えください。
※ご本人が回答できない場合、ご家族等がご本人のお考えを聞きながら回答してください。
- 調査への回答方法は、紙の調査票か、インターネットが、どちらかを選んで回答してください。（両方に回答しないよう、お願いいたします。）

回答（投函）期限 **令和6年10月18日（金曜日）** 回答の所要時間（目安）**20分**



紙の調査票の回答方法

- ・選択肢の設問については、該当する番号に○をつけてください。
- ・自由回答の設問には、あなたの考えを簡潔に記入してください。
- ・質問によって回答される方が限られる場合がありますので、ご注意ください。

インターネットの回答方法

- ・下の二次元コードか、URLから回答用のページにアクセスしてください。
(URL) <https://questant.jp/q/kouei-shimin>
- ・密期間は33問です。途中保存はできませんので、お時間のあるときにお答えください。



なお、本調査の実施・とりまとめは、株式会社ジャパニアンタナシヨナル総合研究所に委託しています。

【本調査についてのお問合せ先】株式会社ジャパニアンタナシヨナル総合研究所
電話：0120-711-778 【営業時間】月～金（※日を除く）9～17時
メール：tokyo@j1-institute.com

～ 回答の前にお読みください ～

◇江東区地域福祉計画の基本理念

(地域福祉に関する基本的な考えであり、江東区で実現すべき地域福祉の将来像)

一人ひとりの尊厳が守られ、地域でともに支えあい、
誰もが笑顔で安全に暮らせるまち

一人ひとりの尊厳が守られ	多様な価値観をお互いに認めあい、一人ひとりの権利が大切にされる地域社会
地域でともに支えあい	制度や分野の垣根を取り払い、「支え手」「受け手」という関係を超えて、どんな時も寄り添い、助けあう活動が広がる地域社会
誰もが笑顔で安全に暮らせるまち	区民、地域、団体、企業等のつながりの下で誰もが安全に安心して自分らしく生き、すべての若者男女に自然と笑顔があらわれる地域社会

区ホームページでは、江東区地域福祉計画の全文をご覧いただけます。
<https://www.city.koto.lg.jp/210157/fukushi/20200916.html>



地域福祉ってなに？

区民、地域活動団体、関係団体等
がつながりあい、誰もが安心して暮
らしていただける地域をみんなでつく
る活動が地域福祉です。
地域福祉計画は高齢者、障害者、
子ども・子育て等の絆を深えた福祉
分野全体の指針になります。

地域のことを一層よく知ってい
る皆さんの参加が必要です。
ご自身やご家族のために、現在と
将来の江東区のために、皆さまの意
見を、ぜひ、お聞かせください！



1 あなたのこと（あて名の方）について

問1 あなたの性別（あなたの現在の性別でお答えください）（○は1つ）

- 1 男性
- 2 女性
- 3 その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）

問2 あなたの年齢（令和6年10月1日時点）（○は1つ）

- 1 18～19 歳
- 2 20～24 歳
- 3 25～29 歳
- 4 30～34 歳
- 5 35～39 歳
- 6 40～44 歳
- 7 45～49 歳
- 8 50～54 歳
- 9 55～59 歳
- 10 60～64 歳
- 11 65～69 歳
- 12 70～74 歳
- 13 75～79 歳
- 14 80 歳以上

問3 お住まいの地区（地区番号を○で囲んでください）（○は1つ）

- 1 白河地区：清澄、常盤、新大橋、森下、平野、三好、白河、高橋
- 2 富岡地区：佐賀、永代、福住、深川、冬木、門前仲町、富岡、牡丹、古石場、越中島
- 3 豊洲地区：堀浜、桜川、豊洲、泉雲、有明、辰巳、潮見、青海
- 4 小松橋地区：千石、石島、千田、海辺、扇橋、猿江、住吉、毛利
- 5 東陽地区：木場、東陽、南砂二丁目1番1号～5号、5～7番
- 6 亀戸地区：亀戸全区域
- 7 大島地区：大島全区域
- 8 砂町地区：北砂全区域、東砂一～五丁目、南砂一丁目、南砂二丁目24番～34番、南砂五丁目
- 9 南砂地区：東砂六～八丁目、南砂二丁目（1番1号～5号、5番～7番、24番～34番を除く）、南砂三・四・六・七丁目、新砂一丁目（1番を除く）、新砂二・三丁目、新木場

問4 現在のお住まいの居住歴（○は1つ）

- 1 2年以下
- 2 3～5年
- 3 6～9年
- 4 10～19年
- 5 20～29年
- 6 30年以上

問5 お住まいの形態（○は1つ）

- 1 持ち家（一戸建）
- 2 持ち家（マンションなどの共同住宅）
- 3 民営の賃貸住宅
- 4 新・区営の賃貸住宅・都市再生機構（UR）・公社
- 5 給与住宅（社宅・公務員住宅など）・寮・寄宿舍
- 6 その他・わからない

問6 あなたの世帯構成（○は1つ）

- 1 1人世帯
- 2 夫婦だけの1世代世帯
- 3 親と子の2世代世帯
- 4 親と子と孫の3世代世帯
- 5 その他の世帯

問7 あなたの働き方（○は1つ）

（※複数の仕事に従事している場合は、一番長い時間している仕事を選んでください）

- 1 正規の職員・従業員
- 2 非正規の職員・従業員（派遣社員、契約社員・嘱託、パート・アルバイト（学生アルバイトを除く））
- 3 会社などの役員
- 4 自営業主
- 5 家族従業員・内職
- 6 学生・生徒
- 7 収入をともなう仕事をしていない（仕事を探している）
- 8 収入をともなう仕事をしていない（仕事を探していない）
- 9 その他

2 近所付きあい、地域のつながりについて

問8 ご近所の方とは、主にどのような付きあいをしていますか（多いですか）。（○は1つ）

- 1 家族ぐるみの付き合いが多い
- 2 おみやげをあげたり（もらったり）、何かを手伝いあうことが多い
- 3 あいさつをする頻度の付き合いが多い
- 4 顔は知っているが、あいさつをしないことが多い
- 5 顔も知らない人が多い
- 6 その他（具体的に）

問9 暮らしていく上で、近所や地域との関わりは必要だと思いますか。（○は1つ）

1 必要だと思う

2 ある程度は必要だと思う

3 あまり必要ないと思う

4 必要ないと思う

問10へ

問11へ

問10 問9で「1」または「2」（必要だと思う）と回答した方におたずねします。
どのようなことに近所や地域との関わりが必要を感じますか。（○はいくつでも）

- 1 災害時の地域での助けあい
- 2 空き巣や不審者等の防犯
- 3 ひきこもり等の社会との関わりが希薄な人への支援
- 4 虐待の防止
- 5 高齢者や障害者への支援
- 6 こどもの健やかな成長
- 7 近所で困っている人・孤立している人への手助け
- 8 地域のおまつりやイベント等多世代交流の機会
- 9 町会・自治会活動への参加
- 10 その他（具体的に）
- 11 わからない

問11 問9で「3」または「4」（必要ないと思う）と回答した方におたずねします。
近所や地域との関わりが必要を感じない理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 どのように関わればよいかわからないから
- 2 この地域にずっと住むつもりはないから
- 3 仕事や友人との付き合いがあれば十分だから
- 4 地域情報はインターネットやSNSで得られれば十分だから
- 5 困った時は、関連する相談機関（区役所等）に相談すれば十分だから
- 6 困った時は、マンションの管理センター等に相談すれば十分だから
- 7 プライバシーを知られたくない、詮索されたくないから
- 8 地域での付き合いがわずらわしいから
- 9 過去に地域でのトラブルがあったから
- 10 その他（具体的に）
- 11 特に理由はない

問 12 近所に困っている人がいる場合、あなたはどのような気持ちになりますか。最も近い気持ちをお答えください。(○は1つ)

- 1 自分ができる範囲で助きたい
- 2 周りの人や区と一緒に助きたい
- 3 助けたいが、仕事や家族の面倒で時間がとれない
- 4 助けたいが、心身の状況でできない
- 5 助けたいが、助ける方法がわからない
- 6 助けないとは思わない
- 7 わからない

問 13 助けあいであなただができることやしたいことはありますか。(○はい/いいえ)

- 1 話し相手、声かけ
- 2 ちょっとした手伝い (例 ごみ出し、買い物、植木の手入れ、家・玄関周りの掃除)
- 3 短時間、家族の面倒を見る (子ども、高齢者等)
- 4 火事や災害時の助けあい
- 5 登下校時の見守り、地域のバトロール
- 6 自分の時間、経験、知識、体力を生かせること (具体的に)
- 7 特になし

問 14 お住まいの地域に愛着を感じていますか。(○は1つ)

- 1 とても感じる
- 2 少し感じる
- 3 あまり感じない
- 4 まったく感じない
- 5 どちらともいえない

問 15 お住まいの地域にお互いに助けあうような「地域のつながり」を感じますか。(○は1つ)

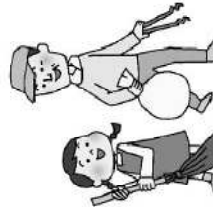
- 1 とても感じる
- 2 少し感じる
- 3 あまり感じない
- 4 まったく感じない
- 5 どちらともいえない

問 16 これからの住民同士の「つながり」について、どのようなことが重要だと思いますか。(○はい/いいえ)

- 1 町会・自治会への所属
- 2 隣近所や地域の付き合い
- 3 趣味やスポーツ等のサークル活動
- 4 共通の課題を抱える方同士のSNS (FacebookやX (旧ツイッター) 等) 上の交流
- 5 NPO等の特定分野での支援団体とのつながり
- 6 その他 (具体的に)
- 7 つながる必要はない

問 17 住民同士の助けあいを地域で広げるために、区が力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 福祉活動の重要性の発信や地域共生に関する社会の理解促進
- 2 住民同士、住民と行政が地域福祉について話しあう機会の確保
- 3 誰でも気軽に集える、住民やNPO等が中心となる「地域の居場所」づくり
- 4 地域福祉やボランティアについての研修・講座の開催
- 5 わかりやすい福祉情報・地域活動情報の提供
- 6 地域福祉活動団体の運営ノウハウ (資金調達等) の提供
- 7 地域福祉活動の相談や指導をするコーディネーターの派遣
- 8 地域福祉活動やボランティア等の拠点・窓口の整備
- 9 地域福祉活動に伴う費用助成の充実
- 10 町会・自治会の加入促進
- 11 有志 (周りの人、近所同士) で助けあう仕組みづくり
- 12 その他 (具体的に)
- 13 わからない



3 地域活動について

問 18 あなたは、日頃、地域の一人として、何か地域のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。(○は1つ)

- 1 思っている
- 2 あまり考えていない

問 19 あなたが地域に参加するとしたら、どのような活動に参加したいですか。(現在の活動や地域の状況に関係なく、お答えください)(○はいくつでも)

- 1 町会・自治会、マンション管理組合、自主防災組織、消防団などを行う地域活動
- 2 保護者会、PTAなどを行う、学校などを拠点とする活動
- 3 社会福祉法人、福祉サービス事業者などを行うイベント・講習会・ボランティア
- 4 趣味のグループ、自主サークルなどを行う地域活動(自分が関心のある分野)
- 5 区、商店街、NPOなどが行うイベント・講習会・ボランティア
- 6 自分たちが主体となって行う地域活動(交流づくり、居場所づくりなど)
- 7 その他(具体的に)
- 8 そうした活動に参加したくない・関心がない

問 20 あなたは、どのような条件が整うと地域活動に参加しやすいですか。(現在の活動や地域の状況に関係なく、お答えください)(○はいくつでも)

- 1 自分の時間に余裕があること
- 2 時間や期間にあまりしばられないこと
- 3 関心・興味のあるテーマの活動があること
- 4 知り合いや気の合う仲間がいること
- 5 身近な場所で開催できること
- 6 家族の理解・協力が得られること
- 7 子どもの世話や親の介護を代わってもらうこと
- 8 自分の能力向上につながる
- 9 参加に報酬があること
- 10 その他(具体的に)
- 11 そうした活動に参加したくない・関心がない

問 21 下記の地域福祉に関する活動や組織について、聞いたことがあるものをお答えください。(○はいくつでも)

1 民生委員・児童委員	住民の相談に応じ、行政などにつなげる役割を担う、無報酬の市民ボランティア。(身分は厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員)
2 社会福祉協議会	地域福祉の推進を図ることを目的とする社会福祉法人。
3 地域福祉コーディネーター	地域活動を支援しながら、地域へのアプローチの窓口として連携し、地域課題や困っている方の発見・支援に結びつける、社会福祉協議会の職員。
4 ボランティア・地域活動貢献センター	地域貢献活動団体、区民、行政、企業間の仲介役として、中立的な立場で各々の活動を支援、その活動の活性化を図る組織。
5 子育てひろば	子ども家庭支援センターや保育園などで、子育ての悩みを相談や親子で自由に遊ぶことができる場。
6 ふれあい・いきいきサロン	高齢者や障害者、子育て中の親子などを囲んで、地域の皆さんが自主的に集まり交流できる場。
7 認知症カフェ	認知症の方とその家族、地域住民の誰もが気軽に参加し集える活動拠点。
8 こども食堂	こどもがひとりでも安心して行ける、無料または低額の食堂。

問 22 あなたが自宅以外で過ごしたい身近な場所はどこですか。(○はいくつでも)

- 1 公園・広場、河川敷
- 2 カフェ(喫茶店)、レストラン、飲食店
- 3 商業施設(スーパーやコンビニなど)
- 4 町会・自治会、マンションなどの集会スペース
- 5 図書館、地区センターなどの公共施設
- 6 趣味の活動や運動・スポーツができる場所
- 7 その他(具体的に)
- 8 特にない



4 ふだんの暮らしについて

問23 あなたは、日頃の生活の中で孤独であると感じることがありますか。(○は1つ)

- 1 決してない
- 2 ほとんどない(月1回未満)
- 3 たまにある(月1回程度)
- 4 時々ある(月2～3回程度)
- 5 しばしばある・常にある(週1回以上)

問24 あなたがこれまでに経験した出来事をお答えください。(○はいくつでも)

- 1 一人暮らし
- 2 転居
- 3 転校・転職・退職・退職(失業を除く)
- 4 失業・休職・退学・休学(中退・不登校を含む)
- 5 妊娠・出産・子育て
- 6 介護・介助
- 7 こどもの独り立ち
- 8 家族の病気・障害
- 9 家族との離別
- 10 家族との死別
- 11 家族以外の親しい知人等との死別
- 12 家族間の重大なトラブル(家庭内別居・DV・虐待を含む)
- 13 自身の重大なトラブル(病気・怪我等)
- 14 仕事上(職場)の重大なトラブル
- 15 人間関係による重大なトラブル(いじめ・ハラスメント等を含む)
- 16 金銭による重大なトラブル
- 17 生活困窮・貧困
- 18 自然災害の被災・犯罪の被害等
- 19 その他の出来事(具体的に)

20 いずれもない

→ 問26へ

→ 問25へ



問25 問24で「1」～「19」のいずれかに○を付けた(経験した出来事がある)方におたずねします。

現在の顔触紙(問23で回答した状況)に書く影響を与えたとと思われる出来事はどれですか。

(○はいくつでも)

- 1 一人暮らし
- 2 転居
- 3 転校・転職・退職・退職(失業を除く)
- 4 失業・休職・退学・休学(中退・不登校を含む)
- 5 妊娠・出産・子育て
- 6 介護・介助
- 7 こどもの独り立ち
- 8 家族の病気・障害
- 9 家族との離別
- 10 家族との死別
- 11 家族以外の親しい知人等との死別
- 12 家族間の重大なトラブル(家庭内別居・DV・虐待を含む)
- 13 自身の重大なトラブル(病気・怪我等)
- 14 仕事上(職場)の重大なトラブル
- 15 人間関係による重大なトラブル(いじめ・ハラスメント等を含む)
- 16 金銭による重大なトラブル
- 17 生活困窮・貧困
- 18 自然災害の被災・犯罪の被害等
- 19 その他の出来事
- 20 特に影響を与えたとと思われる出来事はない



問 26 あなたは普段どのくらい外出しますか。(○は1つ)

1 仕事や学校で平日は毎日外出する	→ 問 28へ
2 仕事や学校で週に3～4日外出する	
3 遊び等で頻繁に外出する	
4 人づきあいのためにときどき外出する	
5 自宅の仕事をしていて、用があるときだけ外出する	
6 ふだんは家にいるが、趣味に関する用事るときは外出する	
7 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどにはでかける	→ 問 27へ
8 自宅からは出るが、家からはでない	
9 自宅からはほとんど出ない	

問 27 問26で「6」～「9」と答えた方におたずねします。
あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい続きますか。(○は1つ)

- 1 6ヶ月未満
- 2 6ヶ月～1年
- 3 1年～3年
- 4 3年～5年
- 5 5年以上

5 困ったときの相談先や福祉情報の入手先について

問 28 あなたや家族が日常生活で困った時に頼れる人や機関はありますか。(○はいくつでも)

- 1 家族や親戚(同居、別居を問わない)
- 2 友人・知人
- 3 近所の人、町会・自治会
- 4 民生委員・児童委員
- 5 かかりつけ医
- 6 ケアマネジャー(介護支援専門員)やヘルパー(訪問介護員)
- 7 地域福祉コーディネーター
- 8 仕事・学校関係の人(職場の同僚、保育園・幼稚園・学校の先生やカウンセラー)
- 9 相談支援専門員(障害者の相談を受け、サービスの調整をする専門員)
- 10 長寿サポートセンター(地域包括支援センター)
- 11 区役所の窓口
- 12 社会福祉協議会
- 13 その他(具体的に)
- 14 相談できる人や機関はない

問 29 現在、あなたや家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(○は1つ)

1 ある	→ 問 30へ
2 ない	→ 問 31へ

問 30 問29で「1 ある」と答えた方におたずねします。
お困りの内容は何か。(○はいくつでも)

- 1 家族・親族間の人間関係(虐待、ひきこもりなどを含む)
- 2 子育て、看病、介護などの問題
- 3 依存症の問題(薬物、アルコール、タバコなどを含む)
- 4 収入、就労の問題
- 5 学校、勤務先での人間関係
- 6 事業や家業の経営上の問題
- 7 金銭トラブル
- 8 近隣、地域との関係
- 9 事故、事件などの被害
- 10 その他(具体的に)



問31 区役所等の相談窓口について要望はありますか。(○は3つまで)

- 1 1 か所で色々な相談ができる
- 2 専門性の高い相談ができる
- 3 予約なしで相談ができる
- 4 夜間でも相談ができる
- 5 土日でも相談ができる
- 6 相談に要する時間に制限がない
- 7 身近に相談場所がほしい
- 8 プライバシーが守られる
- 9 相談の際、子どもや要介護者の面倒をみてくれる
- 10 区役所に行かずに相談ができる(オンラインでの相談やAI(人工知能)の活用など)
- 11 その他(具体的に)
- 12 特に要望はない
- 13 わからない

問32 今後、区の福祉に関する情報を主に何(誰)から入手したいですか。(○は3つまで)

- 1 区の広報紙(朗読、点字を含む)
- 2 区のホームページ
- 3 区の窓口
- 4 区の掲示物・配付物
- 5 区が行う出前講座
- 6 民生委員・児童委員
- 7 社会福祉協議会
- 8 町会・自治会の回覧板
- 9 新聞・テレビ・CATV・ラジオ
- 10 区からのメールやSNS(プッシュ通知※を含む)
- 11 家族・親戚
- 12 友人・知人
- 13 保育園・幼稚園・学校・施設
- 14 その他(具体的に)

※プッシュ通知とは、事前に登録したスマートフォン等に、随時、区からのお知らせが届くサービスです。

6 区の地域福祉について

問33 区の地域福祉を進める上での意見・提案をお聞かせください。(自由記入)

ア 区民同士や地域活動による支えあいに関する意見・提案

イ 区の福祉に関する意見・提案

ご協力ありがとうございました。

回答済み調査票は同封の返信用封筒(切手は不要)に入れて、10月18日(金曜日)までにポストに投函してください。

調査結果は区ホームページで公表します(令和7年4月予定)

団体アンケート調査票

調査票

団体アンケート

江東区地域福祉計画（令和4年3月策定）の概要

区ホームページ（江東区地域福祉計画）

<http://www.city.koto.lg.jp/210157/fukushi/20200916.html>



区ホームページ

●基本理念（地域福祉に関する基本的な考えであり、江東区で実現すべき地域福祉の将来像）

一人ひとりの尊厳が守られ、地域でともに支えあい、誰もが笑顔で安全に暮らせるまち

一人ひとりの尊厳が守られ	多様な価値観をお互いに認めあい、一人ひとりの権利が大切にされる地域社会
地域でともに支えあい	制度や分野の垣根を取り払い、「支え手」「受け手」という関係を超えて、どんな時も寄り添い、助けあう活動が広がる地域社会
誰もが笑顔で安全に暮らせるまち	区民、地域、団体、企業等のつながりの下で誰もが安全に安心して自分らしく生き、すべての若者男女に自然と笑顔がふれる地域社会



●基本方針（基本理念の実現に向けて展開する施策の方向性）

基本方針Ⅰ 3つのつながりをつくる

地域の助け合いや見守り等、区民同士の日ごろの多様なつながり（地域のつながり）、所管分野を超えた行政内部のつながり（行政のつながり）、地域と行政との連携・協働（地域と行政のつながり）の「3つのつながり」をつくり、包括的な支援体制の構築に向けた取組を進めます。

- ＜施策＞ 地域のつながりをつくる
- 行政のつながりをつくる
- 地域と行政のつながりをつくる

基本方針Ⅱ 誰もが大切にされる社会をつくる

少子高齢化・格差社会の進行や感染症の流行等、私たちの暮らしを取り巻く状況が大きく変化する中で、多様性を認め、区民の生命と暮らしを守る社会の形成に向けて、一人ひとりの尊厳を守り、本人の希望に応じた社会参加ができる環境整備を進めます。

- ＜施策＞ 人に優しいまちをつくる
- 一人ひとりの尊厳を守る
- 災害時の福祉を向上させる
- 誰もが社会参加できる仕組みをつくる

基本方針Ⅲ 地域福祉の基盤をつくる

地域福祉の向上に資する取組を進めるうえで共通して必要となる基盤として、わかりやすい情報発信、福祉人材の確保・育成、共生社会への意識啓発等の取組を進めます。

- ＜施策＞ 情報の適切な活用を図る
- 福祉の質を向上させる
- 啓発活動を推進する

地域福祉に関する団体アンケート

つながりあい、支えあうまちを目指して

ご協力をお願い

日ごろから区政へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
江東区では現在、「江東区地域福祉計画（計画期間：令和4年度～令和7年度）」に基き、『一人ひとりの尊厳が守られ、地域でともに支えあい、誰もが笑顔で安全に暮らせるまち』の実現に向けて、区民、地域活動団体、関係団体等と連携して取り組んでいます。近々の社会経済状況や法律の制定・改正を踏まえて、令和7年度に計画を改定します。

本調査は、計画改定にあたり、団体等の皆さまから、区の地域福祉に関する現状や取組に対する意見等をお伺いするものです。

皆さまからの回答は、区の地域福祉計画の改定ならびに施策・事業の見直し等に活用します。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年9月

江東区長 大久保果実

【回答にあたってのお願い】

- 調査への回答方法は、紙の調査票か、インターネットか、どちらかを選んで回答してください。（両方に回答しないよう、お願いいたします。）
- 回答できる範囲で回答してください。（全問に回答いただかなくても構いません。）

回答（投函）期限 令和6年10月18日（金曜日）



インターネットの回答方法

- 右下の二次元コードか、URLから回答用のページにアクセスしてください。（URL）<https://questam.jp/q/kotoouchikikantai>
- 設問は7問です。途中保存はできませんので、お時間のあるときにお答えください。



紙の調査票の回答方法

- 選択枝の設問については、該当する番号に○をつけてください。
- 自由回答の設問には、貴団、貴団体の考えを簡潔に記入してください。

なお、本調査の実施・とりまとめは、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所に委託しています。

【本調査についてのお問合せ先】株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所

電話：0120-711-778 【営業時間】月～金（祝日を除く）9～17時

メール：tokyo@ji-institute.com

1 貴殿、貴団体の活動について

問1 貴殿、貴団体の活動状況についてお答えください。

①団体名等 (記述)	
②記入者のお名前 (記述)	
③活動の主な対象 (○はいくつでも)	1 区民全般 2 障害児・者 3 高齢者 4 こども、子育て家庭 5 ひきこもり及び家族 6 その他 ()
④主な活動内容 (記述方法は自由)	(例) 会員数、利用者数、活動の内容・頻度等)

問2 主な活動エリアについてお答えください。(地区番号を○で囲んでください)(○は1つ)

- 1 白河地区：清澄、常盤、新大橋、森下、平野、三好、白河、高橋
- 2 富岡地区：佐賀、永代、福住、深川、冬木、門前仲町、富岡、牡丹、古石場、越中島
- 3 豊洲地区：塩浜、枝川、豊洲、東雲、有明、辰巳、潮見、青海
- 4 小松橋地区：千石、石島、千田、海辺、扇橋、猿江、住吉、毛利
- 5 東陽地区：木場、東陽、南砂二丁目1番1号～5号、5～7番
- 6 亀戸地区：亀戸全区域
- 7 大島地区：大島全区域
- 8 砂町地区：北砂全区域、東砂一～五丁目、南砂一丁目、南砂二丁目24番～34番、南砂五丁目
- 9 南砂地区：東砂六～八丁目、南砂二丁目(1番1号～5号、5番～7番、24番～34番を除く)、
南砂三・四・六・七丁目、新砂一丁目(1番を除く)、新砂二・三丁目、新木場
- 10 区内全域、特に決めていない

図3 貴殿、貴団体のこれからの活動について、ぜひお聞かせください。

①これからの活動の展望や目指したいこと（記述方法は自由）

(例えば、今後5年間の想定として具体的に記載)

(例えば、今後5年間を想定して具体的に記載)

②上記①を実現するために必要なこと（記述方法は自由）

(例えば、今後5年間を想定して具体的に記載)

(例えば、今後5年間を想定して具体的に記載)

2 区の地域福祉についての意見・提案

問4 「地域のつながりをつくる活動について」 身近な地域の中で、様々な背景を持つ人々が集い、交流する活動に関する現状への意見と、「こんな取組や仕掛けがあると、区民はもっと参加しやすい」といった提案・アイデアをぜひお聞かせください。

①現状への意見（記述方法は自由）

②取組や仕掛けの提案・アイデア（記述方法は自由）

（例えば、性別・年齢・障害・国籍等を問わずに交流できる〈したくなる〉アイデア、町会・自治会、福祉団体、支援者、サービスマネージャー、医師・看護師、学校、商店・企業等ができること等）

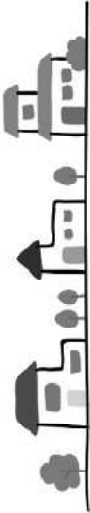
問5 「誰もが大切にされる社会をつくる活動について」 区の取組ア～エに関する現状への意見と、取組の充実に向けた提案・アイデアをぜひお聞かせください。

	①現状への意見	②取組の充実に向けた提案・アイデア
ア	人に優しいまちをつくる（まちのバリアフリー化、移動支援）	
イ	一人ひとりの尊厳を守る（高齢者支援、虐待・DV防止、生活困窮・居住支援）	
ウ	災害時の福祉を向上させる（防災教育、災害時要配慮者の支援）	
エ	誰もが社会参加できる仕組みをつくる（就労・社会参加の支援、子育て・介護等と生活の両立支援）	

団体アンケート

問6 〔地域福祉の基盤をつくる活動について〕 区の取組ア〜ウに関する現状への意見と、取組の充実に向けた提案・アイデアをぜひお聞かせください。

①現状への意見		②取組の充実に向けた提案・アイデア
ア 情報の適切な活用を図る〔情報発信、文書関係者間の情報共有、デジタル活用策〕		
イ 福祉の質を向上させる〔福祉人材、サービスの質の向上、関係機関との連携によるアウトリーチ〕		
ウ 啓発活動を進捗する〔学ぶ機会の充実、多様な市民社会に対する理解促進〕		



団体アンケート

3 区の地域福祉に関する意見・提案

問7 最後に、ここまでの設問以外で、区の地域福祉に関する施策、体制、活動等に関する意見や提案がございましたら、ぜひお聞かせください。（記述方法は自由）

アンケートは以上です。ご協力をいただきましてありがとうございました。

※記述欄が足りない場合は、調査票のコピーや別紙でのご提出も可能です（様式は自由）。